





- 二 殊勳者若ハ勳功者ノ武功明細書(書例第一)ニハ左ノ書類ヲ添フヘシ但連名ニ記載スヘカラス
  - 一 見認證書(必要ト認ムルトキ) (書例第二)
  - 二 履 歷 書 (書例第三)
  - 三 經 歷 書 (書例第四)
- 三 勳勞者ノ武功明細書ニハ左ノ書類ヲ添フヘシ但連名ニ記載スヘカラス
  - 一 履 歷 書
  - 二 經 歷 書
- 四 勳勞者ノ具申書ニ限リ連名ニ記載スルコトヲ得
- 五 武功明細書ハ本人現時ノ所轄長若ハ軍務ヲ離ル、トキノ所轄長之ヲ調製シ所屬長官ニ進達スヘシ所屬長官ハ之ヲ調査シタル後必要ト認ムルトキ之ヲ海軍大臣ニ進達若ハ移牒スヘシ
- 六 履所轄長ヲ異ニセルモノ、武功明細書ハ各所轄長部下ニ在リシトキノ武功明細書ヲ作リ之ヲ所屬長官ニ進達スヘシ所屬長官ハ必要ト認ムル時之ヲ海軍大臣ニ進達若ハ移牒スヘシ
- 七 所屬長官ハ必要ニ應ジ部下ノ一部又ハ全部ノ武功明細書調製時期ヲ定ムルコトヲ得
- 八 見認證書ハ奏功者奏功ノ實況ヲ目撃セルモノニシテ奏功者ヨリ上級若ハ故參ノ者之ヲ作ルヘシ但目撃者ノ中上級又ハ故參者ナキトキハ同級以下ノ者三名以上ヲ以テ見認者ト爲スコトヲ得
- 九 經歷書ハ戰役若ハ事變中履轉職シ其所轄長ヲ異ニシタル爲メ本人ノ從事セル經歷ヲ記入スルモノニシテ各自之ヲ調製スルモノトス故ニ戰役若ハ事變中終始同一所轄長ノ下ニ在リタルモノハ調製スルニ及ハス
- 十 履歷書ハ所轄長之ヲ調製スルモノニシテ海軍出身以後現時ニ至ルマテノ任官進級賞罰做位做勳及最後ノ戰役若ハ事變中ニ於ケル勳務艦職ノ乘退艦又ハ補職轉職ノミヲ簡明ニ記載シ其他最後ノ戰役若ハ事變ニ關係ナキ補職係給善行章行狀證書證狀褒狀委員出張等ノ如キハ一切記載ス

- ヘカラス但現役ヲ離レタル者若ハ免官トナリタルモノハ本人ニ告知シ調製セシムルコトヲ得
- 十一 將官同相當官其他海軍大臣司令長官ニ直屬スルモノニ在テハ海軍大臣司令長官武功明細書ヲ調製スルモノトス
- 十二 武功明細書履歷書見認證書並ニ功勞具申書ニ於ケル氏名ハ各自ノ固有履歷書ニ記載セル氏名ト差異ナキニ注意シ又下士卒ニアリテハ入籍番號ヲ記入スヘシ
- 十三 功績具申シアル者他ニ轉勤シタルトキハ舊所轄長ハ新所轄長ニ共旨ヲ通知スヘシ
- 十四 功績具申ヲナシタル後進級免官逃亡收禁處刑死亡改氏名其他位勳等ニ異動ヲ生シタルトキハ現所轄長ハ速カニ人事局長ニ通知スヘシ
- 十五 海軍大臣ハ功績具申書類ヲ武功調査委員ニ交付シ調査セシム

例一

武功(殊勳勳勞)明細書

(美濃十三行露紙)

官位勳功學位爵 氏 名	職官 氏 名
海 軍 大 臣 アテ	
年 月 日	

(注意) 此書例ハ原簿ナル一例ヲ示スニ過キス經歷ノ長キ功績ノ多キモノニ至テハ八月日ヲ經テ其奏功ノ狀

例一

祝功績結果ノ如何ヲ明瞭確實ニ記述シ上官ヲシテ其功績ノ如何ヲ知悉シ易カラシムルヲ要ス

見 認 證 書

(美濃十三行部紙)

官位勳功學位爵氏 名

右者何月何日軍艦……ニ於テ何職服務中終始勇戦奮闘……爲……ノ結果ヲ得タルヲ證認ス  
年月日

職官氏 名

例二

(注意) 此書例ハ單簡ナル一例ヲ示スニ過キス要スルニ見認者ハ其目擊セシ事柄ヲ詳細明瞭ニ敘述シ以テ功績ノ遺漏ナカラシムルコトヲカメ形容ニ過キ冗長ニ流レサルヲ要ス

履 歷 書

(美濃十三行部紙)

原籍 住所 入籍番號 官(職)氏 名  
生年月日

明治三十五年十二月一日	吳海兵團(入團五等水兵)
同 二十六年十月一日	四等水兵
同 二十七年六月一日	三等水兵
同 七月十五日	「日清戦役ニ従事ス」
同 二十八年六月一日	二等水兵
同 十一月八日	二十七八年戦役ノ功ニ依リ勳八等瑞雲章及賜金五拾圓
同 二十九年六月一日	一等水兵
同 三十年十二月一日	三等兵曹
同 三十二年六月一日	二等兵曹
同 八月一日	笠原乗組
同 三十三年六月十八日	「清國派遣ノ命ヲ受ケ吳出發北清事變ニ従事ス」
同 十月十五日	佐世保ニ歸者ス

例四

(注意) 戦役者ハ事變ハ朱書スヘシ「内朱書」

經 歴 書

(美濃十三行部紙)

入籍番號 官(職)氏 名

明治三十二年八月一日	笠原乗組
同 三十三年六月十八日	艦長海軍大佐某ノ部下ニ在テ北清派遣ノ命ヲ受ケ吳出發
同 六月十五日	大沽著
同 六月十五日	陸戦隊長トシテ海軍中佐某ノ部下ニ屬シ天津ニ出張シ守備ニ従事ス

同	六月二十六日	敵兵ノ包圍ヲ受ケ戰鬪數時間
同	六月二十七日	中隊長某ノ部下ニ屬シ西沽武庫ノ攻堅ニ從事ス
同	六月二十八日	中隊長某ノ部下ニ屬シ楊村ノ攻堅ニ從事ス
同	七月一日	天津ヲ出立シ水艦ニ歸著
同	七月十五日	愛宕ニ轉乘シ艦長海軍中佐某ノ部下ニ屬ス
同	十月二十五日	太沽出發佐世保ニ歸著
右之通相違無之候也		
年月日		
職官位勳氏名		

○海軍省達第四十七號

海軍給與令第八十九條ノ食料ハ明治三十七年度間左ノ通定ス

明治三十七年三月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

食料	食別		一食代價
	内國	外國	
内國夜食價	六錢八厘	十一錢九厘	
外國夜食價	一錢四厘	二錢二厘	

割増食料	内國	外國
備考	八錢	十五錢
	清韓亞細亞露領沿岸ハ内國額ニ依ル	

○海軍省達第四十八號

海軍給與令施行細則第百二十八條ニ依リ明治三十七年度ニ於テ適宜ノ糧食ヲ給スル場合ノ食費ハ明治三十六年達第二十九號ノ金額ニ依ル

明治三十七年三月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第四十九號

海軍給與令施行細則第百四十六條ニ依リ明治三十七年度ニ於テ購買スル糧食品代價ハ明治三十六年達第三十號糧食品代價表ニ依ル

明治三十七年三月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十號

陸海軍感狀授與規程左ノ通定メラル

明治三十七年三月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

陸海軍感狀授與規程

第一條 軍人戰地ニ於テ左ノ各號ニ該當スル所爲アルトキハ軍司令官獨立師團長司令長官獨立司令官其ノ他大本營ニ直屬スル團隊長ハ之ニ感狀ヲ授與シ共ノ功績ヲ表彰ス

一 敵前ニ於テ拔群ノ勳功ヲ顯シ其ノ所爲軍人ノ模範トスヘキトキ

二 特別ノ任務ヲ負ヒ危險ヲ冒シテ敵前ニ行動シ依テ以テ我軍ニ勝利ヲ得セシメタルトキ

三 戰鬪中長官ノ危急ヲ救ヒ、敵ノ將官ヲ生擒シ又ハ軍旗ヲ奪取シタルトキ

四 前各號ニ準スヘキ拔群ナル武功アリタルトキ

第二條 軍隊艦艇トシテ行動シ前條各號ニ相當スル功績アリタルトキハ感狀ハ之ヲ其ノ軍隊艦艇ニ授與スルコトヲ得

第三條 感狀ヲ授與シタルトキハ之ヲ部下一般ニ公示スヘシ

第四條 感狀ヲ受ケタル者軍人ノ體面ヲ汚ス所爲アリタルトキハ其ノ感狀ヲ褫奪ス

第五條 感狀ハ之ヲ授與スル權ヲ有スル諸官ニ於テ適宜其ノ様式ヲ定メ自ラ之ニ署名スヘシ

第六條 感狀ヲ授與シタルトキハ狀ヲ具シ陸軍ニ在テハ陸軍大臣海軍ニ在テハ海軍大臣ヲ經テ上奏スヘシ其ノ感狀ヲ褫奪シタルトキ亦同シ

附則

本規程ハ今回戰役ノ始期ニ遡リ之ヲ適用スルコトヲ得

○海軍省違第五十一號

明治二十六年達第七十二號、同三十五年達第八十八號及兵器造修供給規則第二章ハ明治三十七年三月三十一日限り廢止ス

明治三十七年三月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治二十六年六月二日海軍省達第七十二號ハ兵器出納規程、同三十五年九月十日海軍省達第八十八號ハ兵器ノ主管者ヲ定ムル件ナリ

○海軍省達第五十二號

兵器經理規程左ノ通定ス

明治三十七年三月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

兵器經理規程

第一條 兵器トハ砲銃、水雷、彈藥、電氣諸裝置、軍樂器及其ノ附屬品ヲ謂ヒ之ヲ砲銃、水雷ノ二部ニ分ツ其ノ名稱及細目ハ兵器簿ニ依ル

第二條 兵器ヲ備品及消耗品ニ區分ス其ノ品目ハ別表第一號ニ依ル

第三條 兵器ノ主管別ハ別表第二號ニ依ル

第四條 兵器ハ工廠及造兵廠ニ貯藏シ相互保管轉換ノ必要アルトキハ海軍艦政本部ヲシテ通牒セ

第五條 軍樂器ハ橫須賀海軍工廠ニ於テ之ヲ供給ス  
別表第三號ニ掲グル附屬品ハ其ノ他ノ工廠ニ於テ之ヲ供給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ橫須賀海軍工廠ニ保管轉換ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 演習用彈藥及爆發物ノ類ニシテ貯藏缺乏ノ場合ニ限リ實用彈藥及爆發物ノ類ヨリ組替充用スルコトヲ得

第七條 工廠及造兵廠ニ於テ製造若ハ購買シタル兵器ハ該廠ニ於テ保管シ其ノ他ノ兵器ハ海軍艦政本部ノ通牒ニ依リ之ヲ保管スヘシ

第八條 艦團共ノ他各部(其ノ他各部トハ部隊、校、所等ヲ謂フ以下同シ)ニ要スル兵器ノ定數ハ兵器簿ニ依ル但シ兵器簿制定前ハ海軍艦政本部長ノ豫定シタル豫定兵器簿ニ依ル

第九條 豫定兵器簿ニ依リ供給ヲ受ケタル艦團共ノ他各部ニ在リテハ約一年間實際ノ適否ヲ精査シタル後該長ハ之ニ意見ヲ附シ在籍又ハ所管鎮守府司令長官(艦隊要港部ニアリテハ所屬長官ヲ經由ス)ニ鎮守府所管ニアラサル各部ハ最寄鎮守府司令長官ニ提出スヘシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ豫定兵器簿ヲ精査シ意見ヲ附シ海軍艦政本部長ニ送付スヘシ艦政本部

長ハ之ヲ審査シ兵器簿制定ノ手續ヲ爲スヘシ但シ兵器簿制定以前ニ在リテハ工廠長ハ艦政本部  
長ノ承認ヲ得テ豫定々撤ヲ増減スルコトヲ得兵器ノ換裝ヲ爲シタル場合亦同シ

第十條 兵器ハ製造用見本ノ外貸出スコトヲ得ス但シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ  
アラス

艦艇ニ兵裝或ハ換裝ノ爲兵器ヲ支出スルトキ其ノ艦艇ニ分任兵器品會計官吏若ハ兵器品取扱主  
任在ラサル場合ニハ該工事主任官ニ之ヲ貸與スルコトヲ得

第十一條 兩年度ニ跨リ航海スル艦船又ハ遠隔ノ地ニ在ル部團ニ於テハ兵器品會計官吏ニ兵器ノ  
繰上渡ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ兵器品會計官吏繰上渡ヲ爲シタルトキハ其ノ品名數  
量ヲ所屬工廠長ヲ經テ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十二條 艦船外國航海中若ハ鎮守府遠隔ノ地ニ在ル艦船部團ハ消耗品ヲ相互請求スルコトヲ  
得

第十三條 艦團其ノ他各部ニ於テ魚形水雷ヲ失踪セシメタルトキハ役務行動上止ヲ得サル場合ニ  
限リ共ノ發見迄代品ヲ供給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ兵器品會計官吏ハ所屬工廠長ヲ經テ海  
軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十四條 艦團其ノ他各部ニ於テ定數外ノ兵器ヲ要スルカ若ハ定數變更ノ必要アルトキハ在籍又  
ハ所屬鎮守府ノ工廠長(海軍省令ニ依リテ所屬工廠長ニアリテ)ニ鎮守府所管ニアラサル各部ハ東京ニ在リテハ造  
兵廠長ニ、其ノ他ハ最寄鎮守府ノ工廠長ニ申請スヘシ工廠長又ハ造兵廠長ハ之ヲ調査シ意見ヲ  
附シテ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ具申スヘシ

第十五條 鎮守府司令長官ハ戰時及事變ニ際シ海軍大臣ノ認許ヲ經ル連ナキトキハ定數外ノ兵器  
ヲ供給セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ品名數量事由海軍大臣ニ届出ヘシ

第十六條 鎮守府司令長官ハ刑罰ニ依リタル兵器試驗ノ爲メ兵器ヲ供給セシムルコトヲ得

造兵廠ニ於テ兵器試驗ニ要スル兵器ノ支出ハ海軍艦政本部長ノ承認ヲ受クヘシ

公試發射若ハ兵器試驗ニ要スル兵器ハ該委員長(委員長ナキトキハ主任委員)ニ供給スルモノト  
ス

第十七條 艦團其ノ他各部ニ要スル兵器ハ在籍又ハ所屬鎮守府兵器品會計官吏之ヲ供給シ鎮守府  
所管ニアラサル各部ニ要スル兵器ハ東京ニ在リテハ造兵廠、其ノ他ハ最寄鎮守府ノ兵器品會計  
官吏之ヲ供給ス

鎮守府兵器品會計官吏ハ他鎮守府在籍ノ艦船ニ兵器ヲ供給スルコトヲ得

分任兵器品會計官吏若ハ兵器品取扱主任兵器ノ還納ヲ要スルトキハ之ヲ所屬兵器品會計官吏ニ  
還納スヘシ但シ艦船在籍又ハ所屬鎮守府管區外ニ在ルトキハ最寄鎮守府兵器品會計官吏ニ還納  
スルコトヲ得

第十八條 艦團其ノ他各部ニ於テ使用上生シタル彈藥發藥莖桶彈子、火管體ノ類ハ兵器品會計官  
吏ニ還納スヘシ

第十九條 兵器品會計官吏ハ分任兵器品會計官吏若ハ兵器品取扱主任ヨリ還納シタル兵器ヲ其  
品、損品、廢品ニ分チ其品ハ直ニ庫納シ損品ハ海軍兵器造修試驗検査規則ニ依リ修理ヲ加ヘ其ノ  
修理ヲ加フルモ得失相償ハサルモノ及廢品ハ第二十條第二十一條ニ依リ處分スルモノトス

亡失ノ兵器ヲ拾得者ヨリ受領シタル工廠若ハ造兵廠ハ評價ヲ附シ受入ヲナシ其ノ品名及評價額  
ヲ海軍艦政本部ニ報告スヘシ

第二十條 兵器品會計官吏其ノ保管兵器ノ内用品廢品ヲ生シタルトキハ其ノ品名數量事由詳  
記シ出納命令官ニ出シ出納命令官ハ之ヲ工廠長又ハ造兵廠長ニ報告シ工廠長又ハ造兵廠長ハ檢  
査官ヲ經テ検査セシメ之ヲ承認シタルモノ、内造兵材料ニ使用ノ目的アルモノハ通常物品會計

官吏ニ保管轉換ヲ爲シ其ノ使用ノ目的ナキモノハ所要ノ通常物品會計官吏ニ保管轉換スルカ又ハ賣却棄却燒却ノ手續ヲ爲スヘシ

兵器會計官吏ハ前項ニ依リ處分スル兵器ノ内將來ノ參考トナルヘキモノハ出納命令官ニ報告シ工廠ニ在リテハ出納命令官工廠長ノ承認ヲ得テ、造兵廠ニ在リテハ出納命令官直ニ之ヲ參考兵器トシテ保管セシムルコトヲ得

第二十一條 工廠長又ハ造兵廠長ハ不用品廢品ト決シタル兵器ノ内砲銃魚形水雷發射機空氣壓榨唧筒氣蓄器裝氣柱探海電燈發電機及火藥爆發物等ハ不用品トナリタル模様及原因ヲ調査シ其ノ理由ヲ詳記シ改造ノ上使用ノ見込アルモノハ意見ヲ附シ入費概算書ヲ添付シ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ艦政本部長ハ之ヲ調査シ其ノ處分ヲ命スヘシ但シ前條ニ依リ處分セシムルモノニテ重要兵器ニ屬スルモノハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

廢品ニ至ラサルモ樞要ノ部分ヲ毀損シタル兵器アルトキハ工廠長又ハ造兵廠長ハ前項ニ依リ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第二十二條 兵器會計官吏天災其ノ他ノ事故ニ因リ貯藏ノ兵器ヲ亡失毀損シタルトキハ其ノ品名數量代價及事由ヲ詳記シ出納命令官ニ出シ出納命令官ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ届出ツヘシ

第二十三條 分任兵器會計官吏若ハ兵器取扱主任ハ天災其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ保管ニ屬スル兵器ヲ亡失毀損シタルトキ若ハ必要ニ依リ棄却シタルトキハ其ノ品名數量及事由ヲ詳記シ所屬長官ニ報告シ所屬長官ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ分任兵器會計官吏若ハ兵器取扱主任ニ移シ分任兵器會計官吏若ハ兵器取扱主任ハ所屬兵器取扱主任ハ所屬兵器會計官吏ヲ經テ出納命令官ニ報告シ出納命令官ハ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ニ届出ツヘシ

第二十四條 兵器會計官吏ハ其ノ貯藏保管スル兵器ノ數量不足セントスルトキハ順序ヲ經テ其ノ補充ヲ海軍艦政本部ニ請求スヘシ

第二十五條 兵器會計官吏新製若ハ購買兵器ヲ受入ルトキハ工廠ニ在リテハ造兵部ヨリノ成品送付票、造兵廠ニ在リテハ製造部ヨリノ成品送付票、海軍艦政本部ノ通牒ニ依リ受入ルモノハ該通牒ヲ以テ納票ニ代用シ受入ノ證據ト爲スコトヲ得

第二十六條 兵器會計官吏兵器ヲ受入ルトキ其ノ合計代價ノミ分明ニシテ各別ニ之カ代價ノ算出ヲ要スルモノハ兵器會計官吏其ノ評價ヲ爲シ出納命令官ノ承認ヲ受クヘシ

第二十七條 兵器會計官吏領守府在籍ノ艦船ニ第一種消耗品ヲ供給シタルトキハ該艦船在籍領守府ノ兵器會計官吏ニ其ノ品名數量及代價ヲ通牒スヘシ

第二十八條 兵器會計官吏領守府在籍ノ艦船ヨリ第一種消耗品ノ還納ヲ受ケタルトキハ該艦船在籍領守府ノ兵器會計官吏ニ其ノ品名數量ヲ通牒シ其ノ代價ノ通牒ヲ受クヘシ

第二十九條 兵器會計官吏貯藏兵器中一部分廢品トナリタルモノヲ交換スルカ或ハ品位品種ノ組替變換ヲナス場合ニ於テハ海軍兵器會計規程第七號及第八號票ヲ用ヒ記帳整理ノ手續ヲ爲スヘシ但シ品種變換ノ場合ニ在リテ加工費用ノ算出セラルヘキモノハ併算スヘシ

第三十條 兵器會計官吏艦船其ノ本籍ヲ轉シタルトキハ該艦船ニ供給シタル消耗品ノ數量ヲ在籍領守府兵器會計官吏ニ通牒スヘシ

第三十一條 兵器會計官吏ハ現品簿(舊式第一號)ヲ調製シ彈藥火工品及爆發物類ノ製造年月、種目及其ノ他必要ノ事項ヲ詳記シ現品ノ實況ヲ明瞭ナラシムヘシ

第三十二條 兵器會計官吏ハ海軍兵器會計規程第十八條ニ依リ元受若ハ拂出ヲ爲シタルトキハ海軍艦政本部ニ報告スヘシ

第三十三條 兵器會計官吏ハ毎月五日限リ前月分ノ兵器出納ヲ調査シ書式第二號乃至第五號ニ依リ左ノ報告書ヲ調製シ海軍艦政本部ニ出スヘシ



- 一 交付及保管轉換兵器報告(送兵材料ニ係管轄)
- 一 選納兵器處分報告
- 一 兵器組替更訂報告
- 一 在庫兵器處分報告

第三十四條 兵備品會計官吏ハ毎年三月三十一日在庫現數ト其ノ年度中ニ出納シタル兵器ノ出納總括表(密式第(六)號)ヲ編製シ翌年度五月三十一日迄ニ海軍艦政本部ニ出スヘシ

第三十五條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ毎月五日迄ニ前月分ノ兵器受拂現況報告(密式第(七)號)ヲ作り所屬兵備品會計官吏ニ出シ兵備品會計官吏ハ之ヲ調査シ其ノ月末日迄ニ海軍艦政本部ニ送付スヘシ

第三十六條 分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ兵器交付簿(密式第(八)號)ヲ設ケ消耗品ノ拂出ヲナストキハ監督者若ハ先任者ニ交付シ該簿ニ捺印セシメ備品ヲ各自ノ使用ニ供スルトキハ受領者ノ印ヲ繳スヘシ但シ監督者ニ一併ニ交付スルモ妨ケナシ

第三十七條 兵備品取扱主任砲類射擊規則其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ取扱ニ係ル備品ヲ消耗シタルトキハ備品消耗報告(密式第(九)號)正副二通ヲ作り兵備品會計官吏ニ出スヘシ兵備品會計官吏ハ之ヲ調査シ副書ヲ海軍艦政本部ニ送付スヘシ

第三十八條 兵備品取扱主任海軍兵器造修試驗檢査規則ニ依リ其ノ取扱ニ係ル備品ノ試驗ヲ要求スルトキハ選納ノ手續ヲ爲スヘシ

附則

第三十九條 本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

別表第一號

備品

砲銃ノ部 砲銃及其ノ附屬器具 實用彈藥及附屬器具 鐵兵器具 彈藥庫內器具 庫內器具 軍樂器 水雷ノ部 發射管 發射機及其ノ附屬器具 空氣壓縮機 唧筒及其ノ附屬器具 水雷及其ノ附屬器具 通信器 及其ノ附屬器具 探海電燈及其ノ附屬器具 發電機 電動機及其ノ附屬器具 移動白熱電燈 白熱電燈用器具 試驗器具類 水雷器具類 救難浮標用器具 實用火工品及爆發物

第一種消耗品

砲銃ノ部 液體用彈藥類 油壓器用鋼柱類 自來劑ノ類 砲用空包 水雷ノ部 液體用爆發物及火工品類 紙板 白金線 兵器修繕器具ノ部中ニ配屬ノ消耗兵器 白熱電燈類 硝子類 安全漆片及線類 白熱電燈類 赤光線類 救難浮標用火藥及材料類 類 液體用救難水雷

第二種消耗品

砲銃ノ部 軍樂器 發射火藥筒 發射管 常用空包 夜中照準器用白熱電燈 同用線硝子 軍樂器用鋼針 卸發機 卸金 硝子ホヤ 燈物類 水雷ノ部 夜中照準器用白熱電燈 同用線硝子 水雷用發射管 燈及水雷用 小發射電機 單心線電機 無線電機 信現發射 同用電機 同用硝子 探海電燈用電機 地板 發電機及電動機用線硝子 壓機 常用水雷用 注油機 硝子類

別表第二號

主管別	品名
航海長	信號器及其ノ附屬器具等
砲術長	砲銃 水壓艇機 軍樂器 發電機 電路及其ノ附屬器具等
水雷長	水雷 發射管 發射機 探海電燈 電氣通信器及其ノ附屬器具 發電機 試驗器具等
機務長	空氣壓縮機 唧筒 發電機 電動機 水壓唧筒機 大砲水壓旋回機 電燈 機關ニ屬スル電氣器具及其ノ附屬器具等
備考	試驗器具及消耗兵器ハ各主管相互流用スルコトヲ得



○海軍省達第五十六號  
海軍戰利品取扱規程左ノ通定ム

明治三十七年三月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍戰利品取扱規程

第一條 日露戰役ニ關シ海軍ニ於テ獲得シタル戰利品ノ取扱ハ本規程ニ依ル  
第二條 戰利品ヲ獲得シタル艦隊其ノ他各部ノ長 艦隊司令官 艦隊部部長 艦隊部副部長 艦隊部員 艦隊部書記 艦隊部事務員 艦隊部庶務員 艦隊部醫官 艦隊部藥劑師 艦隊部衛生官 艦隊部看護婦 艦隊部炊事長 艦隊部炊事員 艦隊部洗濯員 艦隊部掃除員 艦隊部被服員 艦隊部靴履員 艦隊部馬夫 艦隊部車夫 艦隊部船夫 艦隊部水夫 艦隊部雜用員 艦隊部其他人員 艦隊部其他人員ノ長官ニ送付スヘシ但シ艦隊司令官長官ニ於テ必要アリト認メタル戰利品ハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ出征地ニ於テ其ノ儘使用又ハ消費スルコトヲ得

第三條 前條ニ依リ戰利品ノ送付ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ該品ノ處分結了迄部下官憲ヲシテ適宜之ヲ保管セシムヘシ

第四條 戰利品中艦船ノ處分ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

第五條 戰利品中通貨及金銀塊ハ鎮守府司令長官經理部長ヲシテ之ヲ經理局長ニ送付セシメ經理局長ハ之ヲ國庫ニ納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 戰利品中兵備品又ハ通常物品トシテ海軍ニ於テ使用ノ見込アルモノハ鎮守府司令長官其ノ用途ヲ定メ見積代價ヲ付シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ各其ノ元受ニ立テシムヘシ

第七條 海軍ニ於テ使用ノ見込ナキ物品ト雖モ鎮守府司令長官ハ之ニ見積代價ヲ付シ海軍大臣ニ報告シ總テ一旦通常物品ノ元受ニ立テシムヘシ

前項物品ノ處分ニ關シテハ鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

○海軍省達第五十七號  
捕獲品取扱規程左ノ通定ム

明治三十七年三月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

捕獲品取扱規程

第一條 日露戰役ニ關シ捕獲審檢所ニ於テ沒收ト確定シタル捕獲品ノ取扱ハ本規程ニ依ル

第二條 捕獲審檢所ニ於テ沒收ト確定シタル捕獲品ハ捕獲審檢令第二十九條第二項ニ依リ保管シタル鎮守府司令長官捕獲審檢所檢察官ヨリ之カ引渡ヲ受クヘシ

第三條 前條ニ依リ捕獲品ノ引渡ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ該品ノ處分結了迄部下官憲ヲシテ適宜之ヲ保管セシムヘシ

第四條 捕獲品中船舶ノ處分ニ關シテハ海軍大臣之ヲ定ム

第五條 捕獲品中通貨及金銀塊ハ鎮守府司令長官經理部長ヲシテ之ヲ經理局長ニ送付セシメ經理局長ハ之ヲ國庫ニ納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 捕獲品中兵備品又ハ通常物品トシテ海軍ニ於テ使用ノ見込アルモノハ鎮守府司令長官其ノ用途ヲ定メ見積代價ヲ付シ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ各其ノ元受ニ立テシムヘシ

第七條 海軍ニ於テ使用ノ見込ナキ物品ト雖モ鎮守府司令長官ハ之ニ見積代價ヲ付シ海軍大臣ニ報告シ總テ一旦通常物品ノ元受ニ立テシムヘシ

前項物品ノ處分ニ關シテハ鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

○海軍省達第五十八號  
海軍兵學校規則中左ノ通改正ス

明治三十七年三月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條中「大試驗ヲ大試驗及卒業試驗ニ改ム

第四條 校長ハ毎年一月以後十二月末日マテノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ翌年一月末日マテニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第六條ヲ削ル

第七條 校長ハ入學志願者ノ體格及學術ノ検査ヲ行ヒ其ノ成績ヲ勘査シ成績順序ヲ定メ海軍教育本部長ニ提出シ其ノ指定ニ依リ豫定ノ人員ニ入校ヲ命ス但入校ヲ命スルニ先チ更ニ體格ノ検査ヲ行フヘシ

校長ハ前項但書ニ依リ施行スル體格検査ニ合格セサル者及入校ノ時期ニ後レタル者アルトキハ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ其ノ入校ヲ止メ前ト同一ノ手續ニ依リ之レニ對スル人員ヲ採用ス但止ムヲ得サル事情ニ依リ入校ノ期ニ後レタル者ニシテ授業ニ支障ナシト認メタルトキハ之ヲ採用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十四條 大試験又ハ卒業試験ニ落第シタル者ニシテ前試験ノ成績ヲ考查シ卒業ノ目途アル者ハ一學年ヲ延期修學セシム但卒業試験ニ在テハ再試験ヲ行フコトヲ得

傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験又ハ卒業試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ一學年ヲ延期修學セシメ又ハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

第十六條ヲ削ル

〔參照〕

海軍省達第六十一號海軍兵學校規則(明治三十二年三月三十日)抄録

第三條 校長ハ大試験ノ成績表ニ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第四條 校長ハ毎學年ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第六條 校長ハ夏期冬期休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得

第七條 校長ハ入學志願者ノ體格及學術ノ検査ヲ行ヒ其ノ成績ヲ勘査シ成績順序ヲ定メ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ豫定

ノ人員ヲ採用シ之ニ入校ヲ命ス  
校長ハ入校ニ際シ更ニ體格ノ検査ヲ行ヒ不合格ノ者及入校ノ時期ニ後レタル者アルトキハ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ入校ノ命ヲ取消シ大點者ヲ採用ス但シ已ムヲ得サル事情ニ因リ入校ノ期ニ後レタル者ニシテ授業ニ支障ナシト認メタルトキハ之ヲ採用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ  
第十四條 大試験ニ落第シタル者ニシテ再試験ヲ行フコトヲ得  
卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行フコトヲ得

傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ前二項ニ準ス  
前項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ  
第十六條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験ニ際シ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ受クルコト能ハサルトキハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

○海軍省達第五十九號

海軍機關學校規則左ノ通改ム

明治三十七年三月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍機關學校規則

第一條 校長ハ海軍機關學校條例及本則ニ依リ職務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二條 校長ハ海軍機關學校條例第二十二條ニ該當スト認ムル者アルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上  
海軍教育本部長ニ具申スヘシ

第三條 校長ハ大試験及卒業試験ノ成績表ニ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第四條 校長ハ毎年一月以後十二月末日迄ノ教育報告ヲ作り意見ヲ附シ翌年一月末日マテニ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第五條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 校長ハ入學志願者ノ體格及學術ノ検査ヲ行ヒ其ノ成績ヲ調査シ成績順序ヲ定メ海軍教育  
本部長ニ提出シ其ノ指定ニ依リ豫定ノ人員ニ入校ヲ命ス但シ入校ヲ命スルニ先チ更ニ體格ノ檢  
査ヲ行フヘシ

校長ハ前項但書ニ依リ施行スル體格検査ニ合格セサル者及入校ノ時期ニ後レタル者アルトキハ  
海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ其ノ入校ヲ止メ前ト同一ノ手續ニ依リ之レニ對スル人員ヲ採用ス  
但シ止ムヲ得サル事情ニ依リ入校ノ期ニ後レタル者ニシテ授業ニ支障ナシト認メタルトキハ之  
レヲ採用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ハ速ニ之レヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第七條 校長ハ入校及其ノ他ノ試験問題ヲ定ム

第八條 學年ハ三學年ニ分チ第一及第二學年ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル第三學  
年ハ一月十日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

第九條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マ  
テヲ冬季休業トス但シ教授上ノ都合ニ依リ前記休業日數ヲ短縮スルコトヲ得

第十條 大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ且學術優等ノ者若ハ品行特ニ善良衆人ノ模  
範トナルヘキ者ニハ本則第十六條ニ規定スル學術優等章若ハ品行善良章ヲ與フ

第十一條 學術優等章ヲ有スル者ニシテ大試験ニ落第スルカ又ハ品行善良章ヲ有スル者ニシテ本  
校生徒懲戒則若ハ海軍機關令ニ觸ル、コトアルトキハ之ヲ剝奪ス

第十二條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十三條 大試験又ハ卒業試験ニ落第シタル者ニシテ前試験ノ成績ヲ考查シ卒業ノ目途アル者ニ  
ハ一學年ヲ延期修學セシム但シ卒業試験ニ在テハ再試験ヲ行フコトヲ得

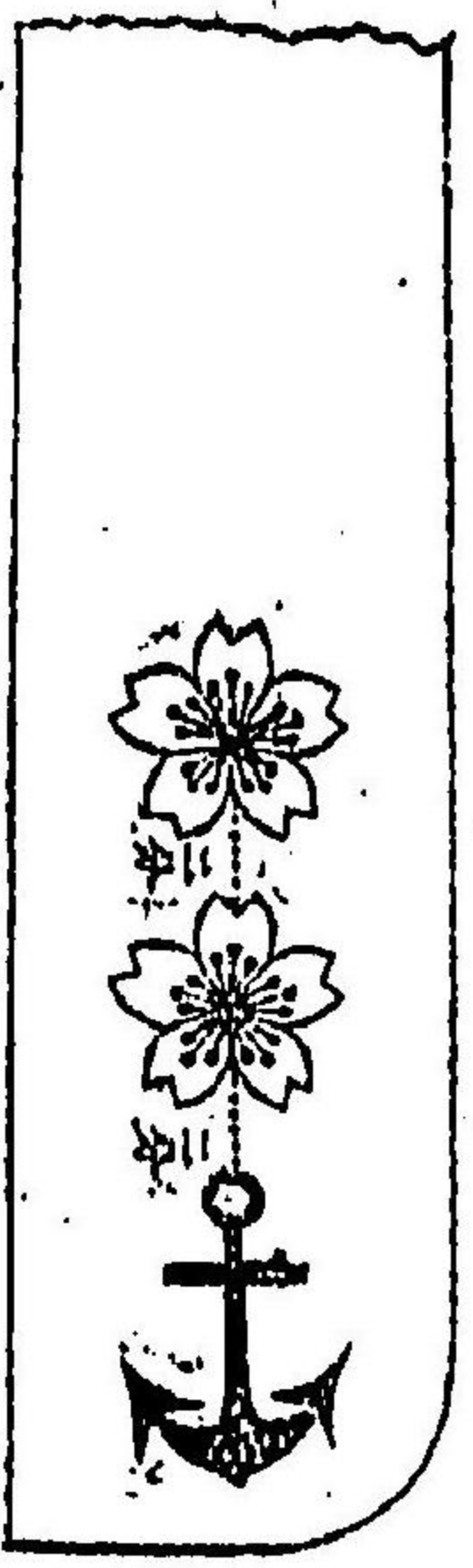
傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験又ハ卒業試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ一學年ヲ延期修業セ  
シメ又ハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ校長ハ海軍教育本部長ニ報告シ海軍教育本部長ハ之レヲ海軍大臣ニ進達  
スヘシ

第十四條 前條ノ延期ハ一學年ニ止マルト雖モ傷痕ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不衛生ニ依ラサル疾  
病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第十五條 本校ニ教授用トシテ船艇ヲ附屬ス

第十六條 本則第十條ニ掲ケル徽章ハ軍服ニシテ附著スル者ニシテ其ノ制式左圖ノ如シ  
但シ學術優等章ハ金モール品行善良章ハ銀モールヲ以テ製シ之ヲ左右襟ニ附著セシムルモノトス



第十七條 機關學校勤務ノ下士卒ハ校内若ハ附屬船艇内ニ起居セシムルモノトス

○海軍省達第六十號

水路測量ノ爲臺灣及其ノ附近ニ出張スル者ニ支給スル旅費ノ日當宿泊料及食卓料別表ノ通定

本達ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行シ明治三十一年達第七十七號ハ之ヲ廢止ス

明治三十七年三月二十三日

海軍大臣 岡田 海軍省第六十號

(別表)

官等	旅費等級	日當	宿泊料	食卓料
上等官	三	一圓六十錢	二圓四十錢	一圓四十錢
中級官	四	一圓二十錢	一圓	一圓十錢
下級官	五	一圓	一圓七十錢	一圓
見習士	六	六十錢	八十錢	七十錢
卒	七	五十錢	六十錢	五十錢
兵	等	五十錢	六十錢	五十錢

備  
 本表ノ日當及宿泊料ハ測量地到着ノ翌日ヨリ發程ノ前日迄之ヲ支給ス但シ艦船乗員測量地ニ於テ本艦船ヲ離レ測量ニ從事スルトキハ其ノ日ヨリ發程前日迄ノ日當(前日)運本表ノ額ニ依ル水袋ノ食卓料ハ艦船附屬又ハ官用ノ船艦ニテ測量ニ從事シ該船艦内ニ起居スル場合ニ限リ其ノ日數ニ應シ之ヲ支給ス  
 艦船乗員測量ノ爲出帆シ一日内ニ往復スル場合ニ於テ海路十二海里以上ニ及フトキハ日當ノ半額ヲ支給ス

〔参照〕

明治三十一年五月海軍省第七十七號ハ軍艦乗員ニシテ水陸測量ノタメ臺灣島澎湖島及其附近ニ出張スル者ニ給スル旅費ノ日當宿泊料及食卓料ノ件ナリ

○海軍省第六十一號

海軍軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ海軍監獄官制第二條ニ掲載スル者ノ外ハ總テ裁判言渡書ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ所屬地若ハ著給地又ハ本人所在地附近ノ地方監獄集治監ニ交付スル儀ト心得ヘ

明治三十七年三月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省第六十二號

海軍工廠工務規程左ノ通定

明治三十七年三月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍工廠工務規程

第一條 海軍工廠ニ左ノ工場ヲ置ク

造兵器工場

造船部工場

造機部工場

製鋼部工場 但シ與海軍工廠ニ限ル

第二條 各部工場ノ名稱類別及其ノ簡致ハ工廠長之ヲ定メ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ同一工場ヲ他部ト共通シテ使用スル場合モ亦同シ

第三條 海軍工廠ハ常ニ左記各號ノ圖面及明細表ヲ備置クヘシ又各號中變更アリタル場合ハ其ノ都度修正シ置クヘシ

- 一 工廠各部ニ屬スル諸建築物ノ位置ヲ示シタル圖面
- 二 發射試驗場 船渠 船臺 艦船引揚臺ノ位置ヲ示シタル圖面
- 三 鐵道其ノ他建築物外ニアル諸機械ノ配置ヲ示シタル圖面
- 四 艦船速力試驗標柱ノ位置 距離並試驗場ノ水深ヲ示シタル圖面
- 五 艦材工場ノ圖面
- 六 諸建築物ノ目錄
- 七 船渠 船臺ノ明細表
- 八 各部ニ屬スル工業用諸機械ノ配置圖面及其ノ目錄

第一號書式  
第二號書式  
第三號書式

- 第四條 各部ニ屬スル機械並建築物ニハ總テ公稱番號ヲ附シ圖面及目錄ニ記載スヘシ但シ機械ハ各工場ノ所屬毎ニ區別シテ番號ヲ附スヘシ
- 各建築物ニハ其ノ名稱並公稱番號ヲ記シタル標札ヲ掲ケ各機械ニハ白色ノ塗料又ハ見分易キ方法ヲ以テ其ノ公稱番號並成ルヘク其ノ機械ノ最大能力ヲ記載スヘシ
- 第五條 海軍工廠長各部ニ屬スル諸機械ヲ購入、製造、改造若ハ廢却セントスルトキハ入費概算書ヲ添附シ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 海軍工廠ニ於テ工事ヲ行フトキハ其ノ所要材料及工費ヲ區別シタル工事費豫算ヲ編製スヘシ
- 第七條 海軍工廠長ハ毎年三月末日ニ現存スル第三條各號ノ圖面及目錄ヲ騰寫シ五月末日迄ニ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ但シ建築物等ニシテ將來建設スヘキ計畫ノ確定シタルモノ並諸機械ニシテ將來備付ヘキ計畫ノ確定シタルモノハ之ヲ圖面及目錄ニ掲ケ共ノ旨ヲ附記スヘシ
- 第八條 海軍工廠長ハ左ノ件々ヲ月報ハ翌月十五日迄ニ年報ハ翌年五月末日迄ニ各書式ニ依リ海軍艦政本部長ニ提出スヘシ
  - 一 艦船製造費月報 第四號書式
  - 二 艦船修理費月報 第五號書式
  - 三 製造兵器落成月報 第六號書式
  - 四 購買兵器月報 第七號書式
  - 五 兵器修理及備裝月報 第八號書式
  - 六 機械購買並製造月報 第九號書式
  - 七 歲出經常部造兵及修理費造船及修理費支出月報 第十號書式
  - 八 歲出臨時部造兵費造船費月報 第十一號書式
  - 九 職工人員異動工費及接手時間外服業月報 第十二號書式

- 十 受託造修費年報 第十三號書式
- 十一 海軍部内依託工事費年報 第十四號書式
- 十二 翌年度ニ繰越兵器組替年報 第十五號書式
- 第九條 前條諸報告表中ノ工費ハ工業定時間内一人ノ服業ヲ一工費トシ定時間外ノ服業ハ一人一時間ヲ以テ十分ノ一工費トシ計算シ工費ハ工費ニ依リタル賃金及其ノ他ノ加給並旅費並該事業ノ時間外ニ於テ付合セタルモノトス
- 第十條 海軍工廠長ハ前年度中使用シタル造兵造船材料ノ數量及價格ヲ第十六號甲乙書式ニ依リ毎年六月末日迄ニ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ
- 第十一條 海軍工廠ニ於テ其ノ工業ニ餘力アルトキハ海軍部内各廳工事ノ依託ヲ受クルコトヲ得
- 第十二條 海軍工廠ニ於テ其ノ工業ニ餘力アルトキハ海軍部外ヨリ工事ノ依託ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ工事ハ民間ニ於テ施行シ難キ理由アルモノ又ハ海難救助其ノ他止ムヲ得サル理由アルモノ若ハ特令アルモノニ限ル
- 第十三條 艦船ノ受託工事ニシテ入渠スルトキハ左表ニ依リ總積噸數ニ應シ入渠料ヲ徵收スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ船渠使用ノ爲ニ要スル工費材料費ヲ徵收セス

艦船入渠料表

噸數	入渠料	噸數	入渠料	噸數	入渠料	噸數	入渠料	噸數	入渠料
三噸以下	五〇圓	四噸以上	五〇圓	五噸以上	六〇圓	六噸以上	七〇圓	七噸以上	八〇圓
八噸以上	八〇圓	九噸以上	九〇圓	十噸以上	一〇〇圓	十一噸以上	一一〇圓	十二噸以上	一二〇圓
十三噸以上	一三〇圓	十四噸以上	一四〇圓	十五噸以上	一五〇圓	十六噸以上	一六〇圓	十七噸以上	一七〇圓
十八噸以上	一八〇圓	十九噸以上	一九〇圓	二十噸以上	二〇〇圓	二十噸以上	二〇〇圓	二十噸以上	二〇〇圓

入渠料ハ日曜日公休日及風雨ノ日等海軍工廠ノ都合ニ依リ入渠艦船ノ工事ヲ爲サ、ル日及出渠ノ日ハ徵收セズ平日日曜日並公休日ト雖入渠艦船ニ於テ工事ヲ施行スルトキハ海軍工廠ノ職工ヲ使用スルト否トニ拘ラス入渠料ヲ徵收ス又船底乾燥ノ爲ニ工事ヲ爲サ、ル日及船底検査ノ爲艦船ノ都合ニ依リ工事ヲ見合ストキモ入渠料ヲ徵收ス又無届ニテ入渠期日ニ廻船入渠セサルトキハ其ノ日入渠準備ノ爲ニ費シタル費用ヲ徵收ス艦船長等ノ要求ニ依リ船渠内ノ盤木若ハ其ノ位置ヲ變更スルトキ又ハ其ノ他特ニ費用ヲ要スル座ヲ要求スルトキハ入渠料ノ外ニ關スル費用ヲ徵收ス總積噸數不明ノ艦船ニ在リテハ左ノ式ニ依リ總積噸數ヲ算定スヘシ

$$L \times B \times D$$

諸機械使用料表

L 上甲板ニ於テ船首骨ノ内部ヨリ船尾ノ内部迄 其ノ内面ヨリ内面迄 其ノ内面ヨリ内面迄 其ノ長サ  
 B ハ船肋ノ内縁ヨリ内縁迄 其ノ内面ヨリ内面迄 其ノ最大幅  
 D ハ船ノ中央部ニ於ケル上甲板梁ノ中央頂ヨリ船床ノ頂上迄 其ノ内面ヨリ内面迄 其ノ深サ  
 C ハ長幅深ノ尺度メートルナルトキハ 21.88フイートナルトキハ 0.62  
 第十四條 受託工事ノ爲諸機械ヲ使用スルトキハ其ノ使用ノ爲ニ要スル工費材料費ヲ徵收スルノ外左表ニ依リ使用料ヲ徵收スヘシ但シ海軍部内及他官廳ノ依託工事ニ對シテハ機械使用料ヲ徵收セサルコトヲ得

機 械 種 類	使 用 料
汽鍋 燒 爐 及 起 重 器	一時間ニ付 1000
鋸 齒 機 及 亞 鉛 鋸 器	一時間ニ付 500
右ノ外諸機 械 並 小 爐	一時間ニ付 100
一時間未満ノ端數ハ一時間ニ繰上テ計算ス	

第十五條 受託工事ニ關スル細則ハ鎮守府司令長官之ヲ定メ海軍大臣ニ報告スヘシ

附 則

第十六條 本規程ハ海軍造兵廠海軍下瀬火藥製造所及海軍修理工場ニ之ヲ準用ス  
 第十七條 本規程ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

(舊式略ス)

○海軍省達第六十三號  
 海軍職工規則左ノ通定ス

明治三十七年三月二十七日

海軍大臣 岡田 海軍大臣 岡田

海軍職工規則

第一條 本則ニ於テ職工ト稱スルハ海軍工廠、海軍造兵廠、海軍下瀬火藥製造所及海軍修理工場ニ於テ使役スル職工ヲ謂フ

第二條 職工ヲ分テ左ノ三種トス

- 一 定期職工
- 二 通常職工
- 三 見習職工

第三條 定期職工ハ海軍定期職工條例ニ依リ服業スル者トス

第四條 通常職工ハ年齢滿十六年以上滿五十五年迄ノ者ニシテ見習職工トシテ工業ヲ習得シタル者又ハ職工タル普通ノ技能ヲ有シ新ニ採用セラレタル者トス但シ特別ノ技能アル者ハ年齢滿十六年以下滿十四年以上又ハ滿五十五年以上ノ者ト雖之ヲ通常職工ト爲スコトヲ得

第五條 見習職工ハ年齢滿十四年以上滿二十五年迄ノ者ニシテ工業ヲ習得シ通常職工タルコトヲ目的トシテ服業スル者トス



第六條 職工ノ名稱ヲ分ツコト左ノ如シ

圖工	機工	鑄工	仕上工	製鋼工	鑄工	鍛工	銅工
鉛工	彈工	挽鐵工	造船工	造船工	木工	建具工	模型工
木挽工	製艦工	製塙工	藥莖工	組立工	水雷工	電氣工	火工
製藥工	塗工	縫工	填隙工	綱具工	煉瓦工	潛水工	運轉工
焚火工	検査工	分析工	刷版工	記録工	雜工		

第七條 職工ノ定例休日ハ左ノ如シ

- 一 大祭祝日
- 二 日曜日

三 靖國神社祭日

四 十二月二十九日ヨリ一月五日迄

第八條 職工ハ前條ノ休日及服業定時間外ト雖命令アルトキハ何時ニテモ出業スヘキモノトス

第九條 職工ハ工場規約其ノ他ノ規定ニ從ヒ服業スヘキモノトス

第十條 左ニ掲クルモノハ職工タルコトヲ得ス

- 一 身體検査ニ合格セザル者
- 二 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 三 共同罷工ヲ爲シ又ハ共同罷工ヲ爲サシメタルトキ但シ強迫ヲ受ケタル事實アルトキハ此限ニアラス
- 四 廠内ノ秩序ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ爲サシメ若ハ其ノ虞アリト認メ事體稍重キトキ

第十一條 職工(定期職工)左ノ諸號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ解備ス

- 一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 共同罷工ヲ爲シ又ハ共同罷工ヲ爲サシメタルトキ
- 三 廠内ノ秩序ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ爲サシメ若ハ其ノ虞アリト認メ事體稍重キトキ
- 四 工場ノ規約ニ依リ減給ノ處分ヲ受クルコト一箇月ニ三回若ハ二箇月ニ四回以上ニ及フトキ
- 五 正當ノ理由ナクシテ引續キ三週間以上出業セザルトキ
- 六 正當ノ理由ナクシテ休日若ハ定時間外出業ノ命令ニ應ゼザルトキ引續キ三回以上ニ及フトキ
- 七 公務ニ原因セサル疾病其ノ他ノ事故ニ依リ引續キ十週間以上出業セザルトキ但シ徵兵召喚ニ應ゼタル者ハ此ノ限ニアラス
- 八 年齢滿五十五年ニ達シタルトキ但シ特別ノ技能アル者ハ此ノ限ニアラス
- 九 不健康ニシテ工場ノ衛生ニ害アリト認メタルトキ
- 十 工業上適ノ見込ナシト認メタルトキ
- 十一 品行不真又ハ懶惰ニシテ改悛ノ見込ナシト認メタルトキ
- 十二 前條ニ依リ職工ヲ解備シタルトキハ他ノ廠、所、場ニ其事故年齢族籍及姓名ヲ通知シ再之ヲ職工ニ採用セズ但シ前條第四號乃至第六號ニ該當スル者ニシテ六箇月ヲ經過シタルトキハ之ヲ採用スルコトアルヘシ
- 第十三條 第十一條諸號ニ該當セザル者ト雖工業ノ限地其ノ他官ノ都合ニ依リ職工ノ減員ヲ要スル場合ニハ解備スルコトアルヘシ
- 第十四條 本規則ニ關スル施行細則ハ各廠、所、場長之ヲ定メ所屬長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附則

第十五條 本規則ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

○海軍省達第六十四號

海軍戰時給與規則施行細則中左ノ通告正ス

明治三十七年三月二十八日

海軍大臣 野村 浩平

第一條中第二項ヲ削ル  
 第八條ノ二 戰地ニ一時往復スル准士官以上、候補生及文官ニハ規則第九條第三項ノ手當ヲ給ス  
 臨戰合圍地境又ハ前進後ノ大本營所在地ニ一時往復スル准士官以上、候補生及文官ニハ海軍大臣ノ認許アル場合ニ限り規則第九條第三項ノ手當ヲ給ス  
 第九條 規則第九條ニ依リ准士官以上ニ給スル手當金ニハ上官職務心得ノ増給ヲ加算ス  
 第十條中「糧食經理規程」ヲ「給與令施行細則第二十表」ニ改メ「若クハ臨戰合圍地境」ヲ削ル  
 第十三條中「若クハ臨戰合圍地境」ヲ削ル  
 第十四條中「被服經理規程第十八條」ヲ「給與令施行細則第九條」ニ改メ「若クハ臨戰合圍地境」ヲ削ル  
 第十五條第一項中「被服經理規程第十條」ヲ「給與令施行細則第九十五條」ニ改メ  
 第十六條中「被服條例別表」ヲ「給與令第十二表」ニ改メ「若クハ臨戰合圍地境」ヲ削ル  
 第十七條中「若クハ臨戰合圍地境」ヲ削ル  
 第十九條中「從僕刺夫刺烹」ヲ「艦營備人」ニ生徒下士卒死亡者取扱規則ヲ「給與令施行細則第八章」ニ改メ「若クハ臨戰合圍地境」ヲ削ル  
 第二十條第二號中「若クハ臨戰合圍地境」ヲ削ル  
 第二十一條第一項中但書ヲ削ル  
 第二十二條ヲ削ル  
 第二十三條中「若クハ臨戰合圍地境」ヲ削ル  
 第二十五條ノ二 本細則第十條第十三條第十四條第十六條第十七條第十九條第二十條及第二十三條ノ規定ハ所管長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ受ケ臨戰合圍地境ニ之ヲ準用スルコトヲ得  
 第二十六條ノ二 海軍給與令ニ依リ在勤加俸ヲ受クル者ニシテ海軍戰時給與規則ノ増俸ヲ受クハ

キ場合ニ於テ在勤地ノ狀況ニ應シ増俸全額ノ給與ヲ必要ト認メサルトキハ増俸ノ併給ヲ停止シ若クハ増俸ヲ減給ス  
 附則  
 本達ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第六十五號  
 明治三十六年十一月達第百三十一號通常物品出納命令官會計官吏表中品名ノ欄「工廠及修理工場所屬物品(別ニ出納命令官會計官吏ヲ配キタルモノヲ除ク)」トアルヲ「工廠(艦營費所屬物品ヲ除ク)及修理工場所屬物品」ト改メ  
 明治三十七年三月二十八日  
 海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第六十六號  
 戰時海運事務取扱規定中左ノ通改正ス  
 明治三十七年三月二十八日  
 海軍大臣男爵山本權兵衛

第十七條中但書ヲ左ノ通改メ  
 但シ鎮守府要港部所在地ニ在リテハ司令長官司令官ニ、戰地ニ在リテハ所在海軍首席將校ニ出願スルコトヲ得  
 第十八條第一項中第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
 六 以上ノ外司令長官司令官ニ於テ特ニ許可シタル者但シ物品ノ販賣等ヲ目的トスル者ニ對シテハ此ノ限ニ非ラス

〔參照〕  
 海軍省達第百四號戰時海運事務取扱規定(明治三十四年八月十五日)抄録  
 第十七條 運送船又ハ運信船ニ便乗ヲ請ハントスル者ハ住所族籍官職姓名目的地及渡行ノ目的等ヲ詳記シ大本營又ハ海軍

省ニ出願スヘシ但シ暇地ニ在リナハ所在海軍省所轄校ニ出願スルコトヲ得  
第十八條 無罪ハ左ノ種類ノ者ニ限リ之ヲ附與ス

○海軍省達第六十七號

艦船造修試験検査規則第六條左ノ通改正ス

明治三十七年三月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第六條 内外國私立製造所ニ於テ製造スル艦艇ニ備付ヘキ定備品及測器ニシテ其ノ製造所ニ於テ供給セシメサルモノアルトキハ海軍大臣共ノ供給願ヲ定メ鎮守府司令長官ニ令達ス  
内外國私立製造所ニ於テ製造シタル艦艇ニ既ニ備付アル定備品及測器ハ其ノ艦艇ノ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ於テ備品庫及測器庫主管ヲシテ海軍艦政本部長ヨリ送付ノ目錄ニ對照シ授受ノ手續ヲナサシムヘシ

○海軍省達第六十八號

明治二十七年達第百號ヲ廢ス

明治三十七年三月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

(參照)

明治二十七年三月廿二日海軍省達第百號ハ新造艦船へ備付ヘキ定備品及測器供給順序ナリ

○海軍省達第六十九號

室蘭及鹿兒島備品支庫ヲ廢ス

明治三十七年三月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十號

基隆及長崎備品支庫ヲ廢ス

明治三十七年三月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○陸軍第八十號

勅令第八十三號ニ依リ臨時召集ヲナストキハ左ノ通心得ヘシ

明治三十七年四月四日

陸軍大臣寺内正毅

- 一 聯隊區司令官ハ臨時召集ノ爲召集セラレタル者ノ充員召集令狀ハ之ヲ郡市長ヨリ返付セシメ共ノ召集中之ヲ保管スルモノトス
- 二 勳員ノ際既ニ臨時召集ノ爲其ノ部隊ニ編入セラレタル者ハ其ノ儘當該部隊ノ要員トナシ之ニ對シ充員召集令狀ヲ交付セサルモノトス
- 三 某部隊ノ戰時要員ニ充用シアル者ヲ教育ノ爲特ニ必要アリテ他ノ部隊ニ臨時召集スルトキハ勳員計畫令附錄第四十四條及陸軍召集條例第二十七條ノ規定ヲ適用スヘシ
- 四 充員召集ヲ猶豫スヘキ者ハ臨時召集モ之ヲ猶豫スヘキモノトス

○陸軍第八十一號

陸軍戰時給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十七年四月五日

陸軍大臣寺内正毅

第三條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
手當金ハ之ヲ支給スヘキ事實ノ生シタル際之ヲ支給ス但シ出發前請願ニ依リ免スル者ニハ之ヲ給セズ

○陸軍第八十二號

平時編制ノ軍隊ヨリ勳員セル部隊又ハ特設部隊ニ充用シタル下士上等兵看護手ノ缺員補充ノ件左ノ通定メラル

明治三十七年四月九日

陸軍大臣寺內正毅

平時編制ノ軍隊ヨリ動員セル部隊又ハ特設部隊ニ充用シタル下士上等兵看護手ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ一時當該隊ノ定員外トナシ共ノ缺員ヲ補充スルコトヲ得但シ特ニ規定アルモノハ該規定ニ據ル

○陸軍第八十三號

今回ノ戰役ニ關スル特別ノ任務ヲ受ケ清國ニ出張シ又ハ清國出張中該任務ヲ受ケタル軍人軍屬ハ戰時給與規則第六條第二項ノ増給及同規則第七條ノ手當ヲ給ス但シ公使館附武官及清國駐屯部隊ニ屬スル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項増給ノ期間ハ任務ヲ受ケ出張ノ者ハ出張ノ日ヨリ出張中任務ヲ受ケタル者ハ受命ノ日ヨリ共ニ歸著ノ日歸著前解任ノ者ハ解任ノ日迄トス

戰役ニ關スル任務ノ爲清國內ヲ旅行スル場合ノ旅費ハ實費支辨トス

明治三十七年四月十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第八十四號

勅令第百十號ニ依リ豫備役後備役陸軍經理部下士補充ニ關スル手續左ノ通定ム

明治三十七年四月十三日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 師團經理部長召集中ノ豫備役後備役各兵科上等兵ヲ以テ豫備役後備役經理部下士ノ補充ヲ爲サムトスルトキハ共ノ人員ヲ各隊ニ配當シ師團長ノ認可ヲ請ケ當該隊長ニ通知スヘシ

第二條 隊長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ經理部下士ニ適當ト認ムル者ヲ選拔シ本人ノ考科ニ關スル要件ト役種ヲ記入シタル人名簿ヲ師團經理部長ニ送付スヘシ

第三條 師團經理部長ハ前條ノ者ニ就キ適宜ノ方法ヲ以テ經理部下士ニ要スル技能ヲ検査シ其ノ

成績ニ依リ豫備役後備役經理部下士候補名簿ヲ編製シ師團長ノ認可ヲ請ケ所要ニ應ジ三等計手ニ任スヘシ

第四條 豫備役後備役上等兵ニシテ軍吏部下士適任證書ヲ有シ召集中ノ者ハ所要ニ應ジ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ケ各經理部長(大本營直屬部隊ノ者ニ在リテハ野戰經理部長官)ニ於テ之ヲ三等計手ニ任スヘシ

第五條 野戰經理部長官及各經理部長前諸條ニ依リ經理部下士ヲ任用シタルトキハ之ヲ陸軍省經理局長ニ報告シ且本人所屬ノ部隊長ニ通報スヘシ

○陸軍第八十五號

下士兵卒家族救助令ニ依リ下士兵卒ノ家族救助上必要ノ事項通報方左ノ通定ム

明治三十七年四月十七日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 聯隊區司令官(對馬警備隊司令官及沖繩警備隊司令官ヲ包含ス以下同シ)ハ其ノ所管内ニ在籍シ下士兵卒家族救助令ニ依リ救助ヲ受ケル家族ヲ有スル下士兵卒ノ官、等級、本籍及氏名ノ通報ヲ地方官ヨリ受ケタルトキハ之ヲ本人所屬部隊長ニ通報スヘシ

部隊長前項ノ通報ヲ受ケタル際本人他ニ轉屬シタルトキハ更ニ之ヲ新所屬部隊長ニ通報スルト同時ニ其ノ旨ヲ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第二條 各部隊長ハ前條ノ下士兵卒ニシテ逃亡シ又ハ三箇月以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ其ノ官、等級、本籍、氏名及事由ヲ本人本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ

第三條 現役下士兵卒ニシテ再服役ヲ許可シタル者アルトキハ前條ニ同シ

第四條 聯隊區司令官ハ地方官ヨリ請求アリタルトキハ第一條ニ該當スル下士兵卒ノ身上異動ニツキ家族救助上必要ノ事項ヲ之ニ通報スヘシ

○陸軍第八十六號

軍用通信所發新聞電報取扱手續左ノ通定ム

明治三十七年四月十七日

陸軍大臣寺內正毅

軍用通信所發新聞電報取扱手續

第一條 從軍ノ許可ヲ得タル新聞通信員ヨリ軍用通信所ニ託スル新聞電報ハ本手續ニ據ル

第二條 新聞電報ハ大本營ノ指示スル軍用通信所ニ於テ軍事通信ニ支障ナキトキニ限り之ヲ取扱フ

第三條 新聞電報ハ新聞紙ニ登載スル事項ノミヲ記載シタルモノニ限ル

第四條 新聞電報トシテ差出シタル電報ト雖共ノ文中發受信者間ノ用務ニ關スル事項アリト認ムルトキハ其ノ取扱ヲ拒絕スヘシ

第五條 新聞電報ハ普通ノ日本語又ハ英語ヲ以テ記載シ其ノ願信紙ニ軍司令部若ハ師團司令部ノ檢印アルモノニ限り之ヲ取扱フ

前項新聞電報ハ「ムフ」ノ局内心得ヲ附シ軍用通信所ヨリ軍用電線ニ連接スル郵便局ヘ之ヲ傳送スヘシ

第六條 新聞電報ハ一軍ニ配屬セラレタル内外國通信員ヲ通シテ一日ニ付和文歐文各五通以内トス但シ和文ニ在リテハ一通百五十字以内又歐文ニ在リテハ一通五十語以内トス

前項ノ通數ハ軍司令部若ハ獨立師團長適宜之ヲ通信員ニ分配シ豫メ新聞電報ヲ取扱フ軍用通信所ニ通報スヘシ

所ニ通報スヘシ

第七條 軍司令部若ハ獨立師團長ニ於テ必要ト認ムルトキハ通數又ハ字(語)數ニ關スル前條ノ制限ヲ更ニ縮少シ又ハ其取扱ノ一部若ハ全部ヲ停止スルコトアルヘシ

第八條 軍用通信所ヲ經由シテ日本以外ノ地ニ宛ル新聞電報ハ豫メ其ノ料金ノ後納ヲ遞信省ヨリ許可セラレタルモノニ限ル

前項後納新聞電報ノ發信者タル通信員名及受信者タル新聞社又ハ通信社名並其ノ所在地名ハ豫メ大本營ヨリ軍司令部若ハ獨立師團司令部ヘ通報スルモノトス

第九條 料金後納ノ新聞電報ハ必ス其ノ本文ノ末尾ニ發信人名ヲ記載スルヲ要シ且ツ願信紙記事欄内ニ(Press RIP)ト表示ス

前項(Press RIP)ハ局内心得ヲ以テ軍用通信所ヨリ軍用電線ニ連接スル郵便局ヘ之ヲ傳送スヘシ

第十條 新聞電報ノ傳送ニ關シ軍用線上ノ通信ニ因ル誤謬遲延又ハ不達等ニ付テハ軍用通信所ハ發信人ニ對シ何等ノ責ニ任セス

第十一條 新聞電報ノ發送ニ關シ内外國通信員ニ於テ本手續ノ規定ニ違反セル行爲アリタルトキハ軍司令部若ハ獨立師團長ハ其ノ通信員ヨリ發スル新聞電報ノ取扱ヲ拒絕スヘシ

第十二條 新聞電報ノ取扱ニ關シ本手續ニ規定ナキモノハ明治三十七年三月陸軍第五十八號在韓國軍用通信所發著常報取扱規則其他一般ノ規定ニ據ル

○陸軍第八十七號

戰利品整理規程左ノ通定ム

明治三十七年四月十九日

陸軍大臣寺內正毅

戰利品整理規程

明治三十七年四月 陸軍省陸軍第八十七號

戰利品整理規程

二五九

戰利品整理規程

- 第一條 戰利品規則第二條ニ依リ後送スル戰利品ノ整理及處分ハ本規程ニ依ル
- 第二條 戰利品中通貨及金銀塊ヲ除ク外陸軍ニ於テ所要ノモノハ陸軍部隊ヲシテ使用若ハ保管セシメ共ノ他ハ陸軍部外各官衙等ノ管理ニ移シ又ハ賣却シテ共ノ代金ヲ國庫ニ納入ス
- 第三條 戰地ヨリ戰利品ヲ内地ニ後送セムトスルトキハ共ノ品目及數量ヲ陸軍大臣ニ報告シ通貨及金銀塊ハ陸軍會計監督部ニ、兵器ハ野戰兵器本廠ニ、糧秣諸品ハ集積倉庫ニ其ノ他ハ貨物廠ニ送付スヘシ
- 第四條 陸軍會計監督部長通貨及金銀塊ヲ受領シタルトキハ直ニ國庫ニ納入ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 野戰兵器本廠長、集積倉庫長及貨物廠長戰利品ノ送付ヲ受ケタルトキハ適宜之ヲ保管シ共ノ品目數量及見積價格ヲ陸軍大臣ニ報告シテ指揮ヲ受クヘシ
- 第六條 野戰兵器本廠長、集積倉庫長及貨物廠長共ノ保管ニ係ル戰利品中兵備品又ハ通常物品トシテ使用ニ適スルモノハ所要ニ應ジ共ノ用途ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ各共ノ元受ニ立テ之ヲ使用スルコトヲ得
- 第七條 陸軍大臣ハ第二條ニ基キ戰利品ノ處分ヲ決定シ第五條ノ諸官ヲシテ之ヲ指定ノ場所ニ送付其ノ他ノ手續ヲ爲サシム
- 陸軍第八十八號  
戰時又ハ事變ニ際シ一師團以上ノ團隊ヲ指揮スル司令官ハ親補スルコトニ定メラル
- 陸軍第八十九號  
明治三十七年四月二十四日  
陸軍大臣寺內正毅  
衛戍服務規則中左ノ通改正セラル

明治三十七年四月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第五條ノ二 東京ニ在リテハ本規則中衛戍司令官又ハ司令官トアルハ東京衛戍總督ニ衛戍副官又ハ副官トアルハ東京衛戍總督部副官ニ該當ス

第九條中「及都督」ヲ削ル

第三十二條第三項中「第四十八條」ヲ「第九十九條」ニ改ム

○陸軍第九十號

野戰郵便局取扱ニ係ル圓形銀塊及軍用切符計理手續左ノ通定ム

明治三十七年四月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

- 第一條 圓形銀塊及軍用切符計理手續  
一 本手續ニ依リ計理スヘシ
- 第二條 圓形銀塊及軍用切符ハ毎月野戰高等郵便長ヨリ通知スル時價ニ依リ之ヲ受授スヘシ  
前項時價ノ通知共ノ指定ノ實施期日ヨリ遅レテ到着シタルトキハ到着ノ翌日ヨリ之ヲ施行シ又指定ノ實施終期ニ至ルモ新時價ノ通知到着セサルトキハ舊時價ヲ繼續施行スヘシ
- 第三條 軍事郵便爲替又ハ軍事郵便貯金ノ受入金ヲ野戰金櫃部又ハ部隊ハ振替送金ノ爲替目録書及貯金預簿ヲ締切リタルトキハ圓形銀塊及軍用切符ノ現在高ヲ時價ニ依リ換算シ之ニ本邦通貨ノ現在高ヲ加算シ共ノ合計額ヲ爲替目録書及貯金預簿ノ合計額ト對照シ相違ナキヲ確カムヘシ
- 第四條 前條ノ手續ヲ了シタルトキハ圓形銀塊及軍用切符現在高ノ並價計算高(並價計算トハ圓形銀塊一圓ヲ金一圓ノ制ヲ以テ計算スルヲ云フ)ト時價換算高トヲ對比シ並價計算高ノ方多キトキハ其ノ差額ヲ貨幣交換差増高トシ少ナキトキハ其ノ差額ヲ貨幣交換差減高トシ之ヲ附錄第一號ノ書式ニ依リ爲替目録書



附錄第二號

貨幣交換差額證明書

一金何圓也

差額(又ハ差減)高

内訳

圓銀時價	位價計算高	時價換算高
□	□	□

本書ノ通知送ナキコトヲ證明ス

明治 年 月 日

何野戰郵便局長何

某

郵便爲替貯金管理所長宛

○陸軍第九十一號

明治三十七年勅令第三百二十四號ニ依ル豫備役後備役憲兵科士官准士官下士上等兵補充方左ノ通定

明治三十七年四月二十九日

陸軍大臣寺内正毅

第一條 勅令第三百二十四號ニ依ル豫備役後備役憲兵科士官以下ノ補充ハ同役各兵科ノ士官、准士

官、下士、兵卒以下同シ中憲兵適任ノ者ヲ選拔シ憲兵隊本部又ハ憲兵分隊ニ於テ概テ三箇月憲兵ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ習修セシメ補充検査合格ナル者ヲ以テス

前項ノ人員ハ動員セル師團ニ在リテハ補充隊、動員セサル師團ニ在リテハ當該師管内ノ在郷者ヨリ選拔ス但シ補充隊ニ於テ所要ノ人員ヲ充ス能ハサルトキハ師管内ノ在郷者ヨリ其ノ不足人員ヲ選拔スルコトヲ得

第二條 學術ヲ習修セシムヘキ豫定人員及其ノ時期ハ必要ノ都度陸軍大臣之ヲ師團長及憲兵司令官ニ達ス

第三條 師團長前條ノ達ヲ受ケタルトキハ補充隊長又ハ聯隊區司令官對馬醫備隊司令官及沖繩醫備隊司令官ヲ包含ス以下同シテ在隊者又ハ所管内在郷ノ者ニテ志望ノ者、憲兵ノ勤務ニ關シ素養アル者及身分職業等ニ依リ憲兵ニ適スル者ヲ選拔シ其ノ人名普ニ履歷ノ大要ヲ附記シ考科表寫ハ必キニ在リテシタル書面ヲ添ヘ順序ヲ經テ進達セシメ憲兵司令官ノ定メタル期日迄ニ之ヲ同官ニ送付スヘシ但シ在郷士官ノ考科表寫ハ師團長ニ於テ之ヲ添付スルモノトス

第四條 憲兵司令官ハ前條ノ書類ニツキ學術ヲ習修セシムヘキ者ヲ選定シ其ノ練習ヲ爲スヘキ場所ヲ定メ之ヲ當該師團長ニ通知シ同時ニ關係憲兵隊長及憲兵分隊長憲兵隊長ニ達スヘシ但シ士官、准士官、下士ノ考科表寫ハ憲兵隊長ニ送附スルモノトスニ達ス

第五條 師團長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二條ニ依リ指定セラレタル時期ニ於テ在隊者ニ在リテハ憲兵隊本部又ハ憲兵分隊ニ派遣ヲ命シ在郷者ニ在リテハ憲兵隊本部又ハ憲兵分隊ニ臨時召集ヲ命スヘシ

第六條 學術ノ習修ニツキテハ當該憲兵隊長又ハ憲兵分隊長其ノ責ニ任ス



第七條 學術ノ習修終レハ憲兵隊長又ハ憲兵分隊長ハ補充検査ヲ行ヒ其ノ成績ニ依リ階級毎ニ順序ヲ定メタル人名書ヲ製シ意見書ヲ附シ憲兵分隊長ニ在リテハ之ヲ憲兵隊長ニ進達シ同隊長ハ之ヲ取廻メ憲兵隊本部ニ於テ検査ヲ行ヒタル者ノ人名書及意見書ト共ニ之ヲ憲兵司令官ニ進達スヘシ

補充検査格例及検査期日ハ憲兵司令官之ヲ定ム

憲兵司令官ハ第一項ノ書類ヲ審査シ士官准士官ニ在リテハ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ進達シテ其ノ認可ヲ請ケ下士以下ニ在リテハ合格不合格ヲ決定シ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 憲兵司令官ハ合格者及不合格者ノ人名書ヲ關係憲兵隊長ニ送付シ憲兵隊長ハ合格者中士官准士官下士ニツキテハ其ノ考科表寫ニ憲兵ニ必要ナル學術ヲ修得シタル旨ヲ記入シ兵卒ニツキテハ在隊者ト在郷者トヲ區別シタル連名簿ヲ製シ師團長ヲ經テ補充隊長又ハ聯隊區司令官ニ送付スヘシ但シ在郷士官ノ考科表寫ハ師團長ニ送付スルモノトス

第九條 補充検査ニ合格シタル者ハ憲兵ト爲スノ外他ノ補充ニ充テサルモノトス但シ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第十條 補充検査終了シタルトキハ憲兵隊長之ヲ師團長ニ通知シ師團長ハ召集中ノ者ハ其ノ召集ヲ解除シ派遣中ノ者ハ原隊ニ復歸セシム

補充上ノ必要ニ依リ召集解除又ハ復隊ノ前ニ於テ直ニ憲兵ト爲スノ必要アルトキハ前項ニ依リサルコトヲ得

第十一條 學術習修中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ憲兵ノ勤務ニ適セスト認めタル者アルトキハ憲兵隊長又ハ憲兵分隊長憲兵隊長ハ憲兵司令官ニ報告シ憲兵司令官ヨリ之ヲ師團長ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第一項ヲ準用ス

第十二條 憲兵司令官補充検査ニ合格シタル者ヲ以テ憲兵ノ補充ヲ爲サントスルトキハ士官及准士官ニ在リテハ轉科及命課在郷者ニツキテ陸軍大臣ニ稟申シ下士以下ニ在リテハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ憲兵隊長ニ達シ同隊長ハ憲兵下士上等兵ニ任命ノコトヲ補充隊長又ハ聯隊區司令官ヲ經テ本人ニ達スヘシ

第十三條 補充検査ニ合格シタル者ノ身上異動ハ補充隊長又ハ聯隊區司令官ヨリ之ヲ憲兵隊長ニ通知スルモノトス但シ召集中ノ兵卒ニシテ召集ヲ解除シタルトキハ憲兵ニ補充スヘキ者ナルコトヲ補充隊長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スルモノトス

○陸達第九十二號

今回ノ戰役間士官學校入校中ノ士官候補生ニ係ル被服給與方左ノ通定ム

明治三十七年四月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

- 第一條 士官學校ニ入校スル士官候補生ハ所屬隊ヨリ被服ヲ携行セシメ入校當月ヨリ退校前月迄現人員ニ應シ被服料ノ定額ヲ該校ニ交付シ所要ノ被服ヲ補給セシム但シ明治三十六年十二月入校ノ士官候補生ニ對シテハ明治三十七年六月分ヨリ其ノ定額ヲ交付ス
- 各隊ニ交付スル士官候補生ノ被服料ハ前項ノ期間之ヲ停止ス
- 第二條 中央幼年學校ヨリ直ニ士官學校ニ入校スル士官候補生ニ對シテハ前條被服料ノ外下士兵卒被服初度額ヲ該校ニ交付シ初度被服ヲ調辦支給セシム
- 第三條 士官學校備附被服ノ不足ハ適宜閉鎖學校備附品ヲ應用スルモノトス
- 第四條 前各條ノ外ハ陸軍給與令細則ニ依ル

○陸軍第九十三號

豫備後備若ハ補充兵役ニ在リ又ハ歸休兵ニシテ文官タル者召集ニ應シ奉職官廳ヨリ俸給ノ補給ヲ受クル者ニ係ル取扱方左ノ通定ム  
明治三十七年陸軍第九十三號ハ之ヲ廢止ス

明治三十七年四月三十日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 左ニ掲クル事項ハ本人ヨリ俸給支給部隊ノ證明ヲ受ケ其ノ時時奉職官廳ニ届出ヘシ

一部隊編入ノ月日及部隊ヨリ受クヘキ俸給額

二 召集中俸給額ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ變更額及月日但シ陸軍總司令及陸軍給與令ニ於テ俸給ヲ減給スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三 召集解除ノ月日

第二條 前條ノ俸給額ハ陸軍戰時給與規則ニ依リ増給ヲ受クル場合ニ在リテハ其ノ増給ヲ加算ヒス

第三條 召集中本人死亡シタルトキハ其ノ當時ノ俸給支給部隊ヨリ本人召集前ノ奉職官廳ニ之ヲ通報スヘシ

第四條 巡查看守、陸軍監獄看守、陸軍警守等ニシテ召集ニ應シ奉職官廳ヨリ俸給ノ補給若ハ休職給ヲ受クル者ニハ前三條ノ規定ヲ準用ス

○陸軍第九十四號

陸軍平時備人定員表中左ノ通改正ス

明治三十七年四月三十日

陸軍大臣寺內正毅

教育總監部ノ欄ノ次ニ在ノ一欄ヲ加フ

東京衛戍總督部

ニ  
三

○海軍省達第七十一號

明治三十三年達第六十九號及明治三十四年達第百號ヲ廢ス

明治三十七年四月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治三十三年四月二日海軍省達第六十九號ハ造兵工務規程同三十四年七月二日海軍省達第百號ハ造船工務規程ナリ

○海軍省達第七十二號

契約保證金保管出納規程中左ノ通改正ス

明治三十七年四月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中「保管金取扱規程」ヲ「保管物取扱規程」ニ改ム

第六條 各廳長ハ保管證書出納簿ヲ設ケ保管證書出納主任ヲシテ保管證書ノ出納計算ヲ登記セシム

第十一條 保管證書出納簿ノ様式ハ明治二十六年十一月十一日大藏省令第三十二號中第十四號甲書式ニ依ル

○海軍省達第七十三號

海軍給與令施行細則第二十表備考第十九中「四分ノ一」ノ下ニ「若ハ白米十匁ヲ追加ス」ヲ追加ス

明治三十七年四月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十四號

海軍兵備品會計規程別表祕密圖書兵備品取扱主任中「主計長」ヲ删除ス

明治三十七年四月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十五號

戰時海運事務取扱規定中左ノ通過加ス

明治三十七年四月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第七條ノ二 港務部長ハ第七條ノ販賣品中清涼飲料水其他衛生上検査ヲ必要ト認ムル飲食品アルトキハ海軍病院試驗所ノ検査ヲ受ケシメ其成敗ニ依リ該飲食品ノ搭載ヲ許否スヘシ

○海軍省達第七十六號

艦營需品經理規程第十六條別表艦營需品直買品名表中「鹽化メチニール製氷機用」ノ一廉ヲ加フ

明治三十七年四月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十七號

海軍下士卒善行章行狀條例施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年四月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第九條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 召集中ニ於ケル善行章及行狀ノ陞級若ハ復級ノ年月計算ハ現有善行章行狀ノ附與陞降若ハ復級以後ニ於ケル現役中ノ日數及召集中ノ日數ヲ通算ス

第十九條 本則ニ於テ所轄長ト稱スルハ概ネ左ノ如シ

守府參謀長、要港部參謀長(要港部本部)、工廠長、造兵廠長、病院長、經理部長、兵學校長、機關學校長、砲術練習所長、水雷術練習所長、機關術練習所長、主計官練習所長、假根據地防備隊司令官(防備隊本部)、同敷設隊司令、同通信部長、同砲臺司令、運送船通信船工作船監督官、病院船軍醫長、臨時敷設隊司令、艦隊附屬敷設隊司令、其ノ他特設部隊長、所管長官ト稱スルハ概ネ左ノ如シ

鎮守府司令長官、艦隊司令長官、要港部司令官、教育本部長、艦政本部長、經理局長

(參照)

海軍省達第百六號海軍下士卒善行章行狀條例施行細則(明治三十四年八月二十三日)抄録

第九條 豫備後備役下士卒ノ善行章及行狀ハ陞級降級若ハ復級ヲ行フコトナシ但シ充員若ハ演習召集中ニ限リ左ノ階級ノ外ハ現役下士卒ニ限ナルコトナシ

一 召集中ニ於ケル善行章及行狀ノ陞級若ハ復級ノ年月計算ハ其ノ召集ニ應ジ入團シタル日ヨリ起算ス

第十九條 本則ニ於テ所轄長ト稱スルハ概ネ左ノ如シ

海兵團長、艦長、水雷艇隊司令、水雷敷設隊司令、造兵廠長、造船廠長、兵器廠長、港務部長、豫備艦部長、病院長、醫品庫主官、兵學校長、機關學校長、砲術練習所長、水雷術練習所長、機關術練習所長、主計官練習所長、臨時建築支部長

鎮守府附屬隊下士卒ニ在テハ首府副官、兵事官附ノ者ニ在テハ首府兵事官、其ノ他鎮守府各部ノ者ニ在テハ各其ノ長、所管長官ト稱スルハ概ネ左ノ如シ

鎮守府司令長官、艦隊司令長官、要港部司令官、教育本部長、艦政本部長、經理局長、臨時建築部長

○海軍省達第七十八號

信號練習生規則中左ノ通改ム

明治三十七年四月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

信號練習生規則中「信號適任證書」トアルヲ總テ「信號證狀」ニ改ム

本達ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

○海軍省達第七十九號

海軍各學生生徒及練習生ニ授與スル證書及證狀書式中左ノ通改ム

明治三十七年四月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第九號書式中「適任證書」トアルヲ「信號證狀」ニ改ム

○海軍省達第八十號

下士教員資格ニ關スル規定中左ノ通改ム

明治三十七年四月十三日

第二項中「信號適任證書」トアルヲ「信號證狀」ニ改ム

○海軍省達第八十一號

軍人恩給法第十四條ニ當ル者ニ對シ同法第十五條ノ範圍内ニ於テ給與スヘキ賑恤金ハ海軍軍人傷

疾疾病恩給等差例第二條ニ定ムル等差ニ應シ別表ノ通トス

(別表)

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍大臣男爵山本權兵衛

軍	種別	下士				卒					
		一等	二等	三等	四等	海軍一等卒	陸軍一等卒	海軍二等卒	陸軍二等卒	海軍三等卒	
甲	乙	1000	800	600	400	1100	1000	900	800	700	600
甲	甲	1100	900	700	500	1200	1100	1000	900	800	700
乙	乙	1200	1000	800	600	1300	1200	1100	1000	900	800
乙	甲	1300	1100	900	700	1400	1300	1200	1100	1000	900
甲	甲	1400	1200	1000	800	1500	1400	1300	1200	1100	1000
甲	乙	1500	1300	1100	900	1600	1500	1400	1300	1200	1100
乙	乙	1600	1400	1200	1000	1700	1600	1500	1400	1300	1200
乙	甲	1700	1500	1300	1100	1800	1700	1600	1500	1400	1300
甲	甲	1800	1600	1400	1200	1900	1800	1700	1600	1500	1400
甲	乙	1900	1700	1500	1300	2000	1900	1800	1700	1600	1500
乙	乙	2000	1800	1600	1400	2100	2000	1900	1800	1700	1600
乙	甲	2100	1900	1700	1500	2200	2100	2000	1900	1800	1700
甲	甲	2200	2000	1800	1600	2300	2200	2100	2000	1900	1800
甲	乙	2300	2100	1900	1700	2400	2300	2200	2100	2000	1900
乙	乙	2400	2200	2000	1800	2500	2400	2300	2200	2100	2000
乙	甲	2500	2300	2100	1900	2600	2500	2400	2300	2200	2100
甲	甲	2600	2400	2200	2000	2700	2600	2500	2400	2300	2200
甲	乙	2700	2500	2300	2100	2800	2700	2600	2500	2400	2300
乙	乙	2800	2600	2400	2200	2900	2800	2700	2600	2500	2400
乙	甲	2900	2700	2500	2300	3000	2900	2800	2700	2600	2500
甲	甲	3000	2800	2600	2400	3100	3000	2900	2800	2700	2600
甲	乙	3100	2900	2700	2500	3200	3100	3000	2900	2800	2700
乙	乙	3200	3000	2800	2600	3300	3200	3100	3000	2900	2800
乙	甲	3300	3100	2900	2700	3400	3300	3200	3100	3000	2900
甲	甲	3400	3200	3000	2800	3500	3400	3300	3200	3100	3000
甲	乙	3500	3300	3100	2900	3600	3500	3400	3300	3200	3100
乙	乙	3600	3400	3200	3000	3700	3600	3500	3400	3300	3200
乙	甲	3700	3500	3300	3100	3800	3700	3600	3500	3400	3300
甲	甲	3800	3600	3400	3200	3900	3800	3700	3600	3500	3400
甲	乙	3900	3700	3500	3300	4000	3900	3800	3700	3600	3500
乙	乙	4000	3800	3600	3400	4100	4000	3900	3800	3700	3600
乙	甲	4100	3900	3700	3500	4200	4100	4000	3900	3800	3700
甲	甲	4200	4000	3800	3600	4300	4200	4100	4000	3900	3800
甲	乙	4300	4100	3900	3700	4400	4300	4200	4100	4000	3900
乙	乙	4400	4200	4000	3800	4500	4400	4300	4200	4100	4000
乙	甲	4500	4300	4100	3900	4600	4500	4400	4300	4200	4100
甲	甲	4600	4400	4200	4000	4700	4600	4500	4400	4300	4200
甲	乙	4700	4500	4300	4100	4800	4700	4600	4500	4400	4300
乙	乙	4800	4600	4400	4200	4900	4800	4700	4600	4500	4400
乙	甲	4900	4700	4500	4300	5000	4900	4800	4700	4600	4500
甲	甲	5000	4800	4600	4400	5100	5000	4900	4800	4700	4600
甲	乙	5100	4900	4700	4500	5200	5100	5000	4900	4800	4700
乙	乙	5200	5000	4800	4600	5300	5200	5100	5000	4900	4800
乙	甲	5300	5100	4900	4700	5400	5300	5200	5100	5000	4900
甲	甲	5400	5200	5000	4800	5500	5400	5300	5200	5100	5000
甲	乙	5500	5300	5100	4900	5600	5500	5400	5300	5200	5100
乙	乙	5600	5400	5200	5000	5700	5600	5500	5400	5300	5200
乙	甲	5700	5500	5300	5100	5800	5700	5600	5500	5400	5300
甲	甲	5800	5600	5400	5200	5900	5800	5700	5600	5500	5400
甲	乙	5900	5700	5500	5300	6000	5900	5800	5700	5600	5500
乙	乙	6000	5800	5600	5400	6100	6000	5900	5800	5700	5600
乙	甲	6100	5900	5700	5500	6200	6100	6000	5900	5800	5700
甲	甲	6200	6000	5800	5600	6300	6200	6100	6000	5900	5800
甲	乙	6300	6100	5900	5700	6400	6300	6200	6100	6000	5900
乙	乙	6400	6200	6000	5800	6500	6400	6300	6200	6100	6000
乙	甲	6500	6300	6100	5900	6600	6500	6400	6300	6200	6100
甲	甲	6600	6400	6200	6000	6700	6600	6500	6400	6300	6200
甲	乙	6700	6500	6300	6100	6800	6700	6600	6500	6400	6300
乙	乙	6800	6600	6400	6200	6900	6800	6700	6600	6500	6400
乙	甲	6900	6700	6500	6300	7000	6900	6800	6700	6600	6500
甲	甲	7000	6800	6600	6400	7100	7000	6900	6800	6700	6600
甲	乙	7100	6900	6700	6500	7200	7100	7000	6900	6800	6700
乙	乙	7200	7000	6800	6600	7300	7200	7100	7000	6900	6800
乙	甲	7300	7100	6900	6700	7400	7300	7200	7100	7000	6900
甲	甲	7400	7200	7000	6800	7500	7400	7300	7200	7100	7000
甲	乙	7500	7300	7100	6900	7600	7500	7400	7300	7200	7100
乙	乙	7600	7400	7200	7000	7700	7600	7500	7400	7300	7200
乙	甲	7700	7500	7300	7100	7800	7700	7600	7500	7400	7300
甲	甲	7800	7600	7400	7200	7900	7800	7700	7600	7500	7400
甲	乙	7900	7700	7500	7300	8000	7900	7800	7700	7600	7500
乙	乙	8000	7800	7600	7400	8100	8000	7900	7800	7700	7600
乙	甲	8100	7900	7700	7500	8200	8100	8000	7900	7800	7700
甲	甲	8200	8000	7800	7600	8300	8200	8100	8000	7900	7800
甲	乙	8300	8100	7900	7700	8400	8300	8200	8100	8000	7900
乙	乙	8400	8200	8000	7800	8500	8400	8300	8200	8100	8000
乙	甲	8500	8300	8100	7900	8600	8500	8400	8300	8200	8100
甲	甲	8600	8400	8200	8000	8700	8600	8500	8400	8300	8200
甲	乙	8700	8500	8300	8100	8800	8700	8600	8500	8400	8300
乙	乙	8800	8600	8400	8200	8900	8800	8700	8600	8500	8400
乙	甲	8900	8700	8500	8300	9000	8900	8800	8700	8600	8500
甲	甲	9000	8800	8600	8400	9100	9000	8900	8800	8700	8600
甲	乙	9100	8900	8700	8500	9200	9100	9000	8900	8800	8700
乙	乙	9200	9000	8800	8600	9300	9200	9100	9000	8900	8800
乙	甲	9300	9100	8900	8700	9400	9300	9200	9100	9000	8900
甲	甲	9400	9200	9000	8800	9500	9400	9300	9200	9100	9000
甲	乙	9500	9300	9100	8900	9600	9500	9400	9300	9200	9100
乙	乙	9600	9400	9200	9000	9700	9600	9500	9400	9300	9200
乙	甲	9700	9500	9300	9100	9800	9700	9600	9500	9400	9300
甲	甲	9800	9600	9400	9200	9900	9800	9700	9600	9500	9400
甲	乙	9900	9700	9500	9300	10000	9900	9800	9700	9600	9500
乙	乙	10000	9800	9600	9400	10100	10000	9900	9800	9700	9600
乙	甲	10100	9900	9700	9500	10200	10100	10000	9900	9800	9700
甲	甲	10200	10000	9800	9600	10300	10200	10100	10000	9900	9800
甲	乙	10300	10100	9900	9700	10400	10300	10200	10100	10000	9900
乙	乙	10400	10200	10000							

○海軍省達第八十二號

本年達第七十八號中施行スノ下ニ但シ現ニ信號適任證書ヲ有スル者ハ信號番狀ヲ有スル者トス  
ヲ加フ

明治三十七年四月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十三號

海軍給與令施行細則第四十一條中「善行章」ノ下ニ「證書若ハ證狀」ヲ加フ

明治三十七年四月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十四號

文官及文官待遇者タル海軍豫備役後備役軍人及歸休兵ニシテ召集中明治二十七年勅令第百二十九號、明治二十七年勅令第七十七號、同勅令第百二十一號、同勅令第百二十二號、公立學校職員俸給令第十五條及巡查看守俸給令第五條ノ二ニ依リ文官及文官待遇者ノ奉職官衙ヨリ其ノ俸給ノ補給ヲ受クヘキ者ハ所屬艦團其ノ他各部ノ説明ヲ受ケ左ノ事項ヲ該官衙ニ通報スヘシ

一 召集ニ應シタルトキ准士官以上ニ在リテハ指定地到着ノ月日、下士卒ニ在リテハ入團ノ月日

二 並海軍ニ於テ受クヘキ俸給額但シ俸給額ニハ海軍戰時給與規則ノ増俸ヲ加算セス

三 俸給額ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ月日及異動額

三 召集ヲ解カレタルトキ准士官以上ニ在リテ事務引繼業務調理ニ従事スルトキハ其ノ事務ノ了リタル月日之ニ従事セザルトキハ召集ヲ解カレタル月日、下士卒ニ在リテハ退團ノ月日

召集中死亡其ノ他事故ニ因リ給與ヲ停止シタル者アルトキハ當時所屬ノ艦團其ノ他各部ニ於

テ本人召集前ノ奉職官衙ニ通報スヘシ

文官及文官待遇者外ニシテ其ノ奉職官衙ヨリ俸給ノ補給ヲ受クヘキ者アルトキハ前各項ノ規定ヲ適用ス

明治三十七年四月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十五號

俘虜給養規程第六條第一項中「左ノ區別ニ從ヒテ」ヲ「汽車料、船舶料、車馬料、棧橋料、解舟料、手荷物運送料及宿泊賄費トシ總テ」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ汽車料、船舶料及宿泊賄費ハ左ノ區別ニ依ル

明治三十七年四月二十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第四十四號俘虜給養規程(明治三十七年二月二十九日)抄録

第六條 俘虜ヲ旅行セシムル必要アルトキハ其ノ旅費ハ左ノ區別ニ從ヒ實費拂トス

陸軍第九十五號

陸軍軍人休暇規則左ノ通定ス

明治三十七年五月三日

陸軍大臣寺内正毅

勳員部隊ニ屬スル陸軍軍人休暇規則

第一條 勳員部隊ニ屬スル陸軍軍人ハ留守部隊及内地ニ在ル特設部隊ニ屬スル者ノ請願休暇ヲ除ク外陸軍軍人休暇規則ノ休暇ハ總テ之ヲ許與セス

第二條 留守部隊及内地ニ在ル特設部隊ニ屬スル陸軍軍人ノ請願休暇ハ左ノ場合ニ限り之ヲ許可ス

- 一 現役將校同相當官及准士官傷疾疾病ノ爲轉地療養ヲ要スルトキ
  - 二 將校同相當官及准士官ニシテ父母ノ死亡又ハ重病ノ爲歸郷ヲ要スルトキ
  - 三 下士兵卒ニシテ父母ノ死亡又ハ重病ノ爲歸郷ヲ要スルトキ
- 前項休暇日數ハ往復ヲ除キ第一號ノ場合ニ在リテハ十四日以内第二號ノ場合ニ在リテハ五日以内第三號ノ場合ニ在リテハ三日以内トス但シ轉地療養ニ限リ其ノ延期ヲ追願スルコトヲ得
- 第三條 轉地療養ノ爲請願休暇ヲ爲サントスルトキハ轉地療養地ヲ定メ軍醫ノ診斷書ヲ添へ所屬部隊長ヲ經テ所管長官ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ但シ其ノ場所ハ一日中ニ當該衛戍地ニ歸還シ得ルコトヲ要ス

第四條 父母ノ死亡又ハ重病ノ爲請願休暇ヲ爲サントスルトキハ准士官以上ニ在リテハ所屬部隊長ヲ經テ所管長官ニ下士兵卒ニ在リテハ明治三十四年陸軍省令第十二號ニ依リ所屬部隊長ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ



- 二 問題ハ初級士官ノ任務ニ據ルベシ其實力ヲ檢定シ得ルヲ度トシテ選擇スヘシ
- 三 學科問題ノ數ハ各科目毎ニ各兵科ニ在リテハ三題以上各部ニ在リテハ二題以上トシ成ル可ク應用問題ヲ指定スヘシ
- 四 一年志願兵條例第二十三條ニ依リ 終末試験及筆體書ヲ附與スヘキ者ハ左ノ二號ノ資格ヲ具有スル者ニ限ル
  - 一 但採點ハ各科目共其ノ滿點ヲ二十點トス
  - 二 終末試験ニ於テ學術各科目八點以上ヲ得タル者
  - 三 終末試験ニ於ケル學科平均點術科平均點及筆體成績ノ平均點ヲ平均シ其點數十二點以上ヲ得タル者

○陸軍第九十七號

今回ノ戰役ニ關シ軍人軍屬所要ノ特種被服貸與交付及返納方等左ノ通定ム

明治三十七年陸軍第十七號ハ之ヲ廢止ス

明治三十七年五月十五日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 海外戰地ニ在ル軍人軍屬ニハ必要ニ應シ特種被服ヲ貸與ス其ノ品種貸與ノ期間及區分ハ附表ニ依ル

第二條 各部隊ノ特種被服ハ陸軍被服廠又ハ貨物廠ヨリ當該部隊所要數ニ若干ノ豫備ヲ加ヘ豫メ當該經理部ニ交付ス

第三條 單獨者所要ノ特種被服ハ戰地ニ向ヒ出發スル者ハ其ノ際貨物廠ニ請求シ戰地ニ在ル者ハ最寄經理部ニ請求スヘシ

經理部ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ豫備品ノ内ヲ以テ貸與シ若シ豫備品ナキトキハ貨物廠ニ追送ヲ請求スヘシ

第四條 特種被服ノ着用ヲ止メタルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ貨物廠ニ還送スヘシ

一 各部隊ニ在リテハ取纏メ梱包トナシ其ノ品種數量及梱包數ノ調査ヲ作り之ヲ當該經理部ニ送付シ現品ハ最寄兵站司令部ニ差出シ還送ノ手續ヲ爲スヘシ

二 單獨者ニ在リテハ返納證ヲ添ヘ最寄兵站司令部又ハ經理部ニ返納シ兵站司令部及經理部ハ前號ニ準シ還送ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ還送シタル特種被服ノ品種數量ハ各經理部ヨリ野戰經理長官部ヲ經テ陸軍省經理局ヘ報告スヘシ

第五條 前條ノ場合ニ於テ毛織物及毛メリヤス製ノモノハ廢品ト雖之ヲ還送スヘシ

(附表)

品名	貸與期間	貸與人		區分
		軍	民	
防 毛布製外套一式	冬	-	-	-
防 毛メリヤス製襪袴袴下	冬	-	-	-
防 混綿メリヤス製同	冬	-	-	-
寒 木小襪製同	冬	-	-	-
寒 毛メリヤス製手套	冬	-	-	-
寒 混綿メリヤス製同	冬	-	-	-
寒 毛メリヤス製靴下	冬	-	-	-
寒 混綿メリヤス製同	冬	-	-	-
防 混綿メリヤス製同	夏	-	-	-
防 布	夏	-	-	-



本	小	製	製	股	帶	四	
携	帶	天	幕	季			携帶天幕使用心得附表配當區分ニ依ル
補	助	隊	卒	隊	後	備	隊
考	者	ニ	在	リ	テ	ハ	毛メリヤス製ノモノヲ貸與スルヲ例トス

〔参照〕

明治三十七年十月陸軍省第九十七號ハ戰時又ハ事變ニ際シ軍人軍屬ニ貸與スヘキ防禦被服ノ貸與交付及返納方等ノ件ナリ

○陸軍第九十七號ノ二

俘虜取扱細則左ノ通定ス

明治三十七年陸軍第五十四號俘虜給與規則ハ之ヲ廢止ス

明治三十七年五月十五日

陸軍大臣寺內正毅

俘虜取扱細則

- 第一條 本細則ハ俘虜收容所ニ於ケル俘虜ノ取扱ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス
- 第二條 俘虜收容所ニ俘虜ヲ收容シタルトキハ速ニ其ノ階級區分及人員ヲ陸軍省ニ報告シタル後各俘虜ニ關スル通報ヲ俘虜情報局ニ送付スヘシ
- 第三條 俘虜中准士官以上ノ收容所ハ成ルヘク下士兵卒等ノ收容所ト區別シテ之ヲ設置スヘキモノトス
- 第四條 准士官以上ノ俘虜ニハ俘虜兵卒中ヨリ選定シタル從卒ヲ附スヘシ但シ其ノ人員ハ二名テツキ概ネ一名トス
- 第五條 俘虜中准士官以上ニハ逃走ヲ謀ラス且帝國陸軍官憲ノ定メタル軍紀風紀上ノ法則ヲ遵守スヘキコトヲ宣誓ノ上其ノ收容所以外一定ノ地區ヲ限リ外出セシムルコトヲ得但シ其ノ地區ハ

衛戍司令官之ヲ定メ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ相當ノ監視者ヲ附スルコトヲ要ス

下士以下ノ俘虜ト雖取締上差支ナシト認ムルトキハ前二項ニ準シ外出セシムルコトヲ得

第六條 俘虜收容所以外ノ地區ニ外出セシムル場合ニハ地方官ニ協議シ地方人民トノ關係ニツキ取締上相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第七條 俘虜收容所ニハ相當ノ衛兵ヲ附シ其ノ警備ニ任セシムヘシ

第八條 俘虜收容所内ニ於テハ特ニ火災ノ豫防ニ注意シ濫ニ飲酒喫煙スルコトヲ禁シ燧爐火鉢等ハ居室ノ構造ニ應シ適宜支給スヘシ

第九條 俘虜收容所ニハ衛戍司令官ノ許可ヲ得タル者ノ外出入セシムヘカラス

外國人ニシテ俘虜收容所ニ出入セムトスル者アルトキハ陸軍大臣之ヲ許可ス

第十條 俘虜ニ面會ヲ許ス場合ニ於テハ其ノ面會ノ場所、時間等ニ關シ取締上相當ノ制限ヲ爲シ且監視者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十一條 俘虜收容所ニハ日誌ヲ備ヘ同收容所ノ執務、俘虜ニ關スル事項及俘虜面會者ノ氏名等ヲ記入シ就中主要ナル事項ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

前項ノ日誌ハ俘虜收容所閉鎖ノ後之ヲ陸軍省ニ送致スヘキモノトス

第十二條 俘虜收容所ニハ病室ヲ附屬セシメ入院ヲ要スル患者ヲ收療ス

病室ニハ所要ノ衛生材料被服寢具及器具雜品ヲ備附ク

入院ヲ要セザル患者ノ診斷ハ俘虜收容所ニ於テ行フモノトス

第十三條 俘虜患者ニシテ治療上特ニ必要アルモノ及傳染病者ハ所在地陸軍病院ニ收療セシムルコトヲ得

第十四條 病室ノ衛生勤務ハ所在地陸軍病院ノ職員ヲシテ之ヲ擔任セシム但シ日本赤十字社救護員ヲシテ陸軍醫官ノ指揮監督ノ下ニ治療ニ從事セシムルコトヲ得

第十五條 俘虜ノ勞役及其ノ賃銀ニ關スル規定ハ必要ニ應ジ別ニ之ヲ定ム

第十六條 俘虜ニ給スヘキ糧食ハ附表第一號ノ金額以內ニ於テ第二號ノ現品ヲ支給シ准士官以上ニ在リテハ當該從卒 要スレハ傭人ヲシテ炊爨セシメ下士兵卒等ニ在リテハ數名ヲ一班トシテ自炊セシムルヲ例トス

第十七條 附表第一號ノ定額内ニ於テ間食トシテ將校以下ニビスケット、菓子、菓物ノ内若干及紅茶數回ヲ支給スルコトヲ得

第十八條 俘虜收容所ニハ衛戍司令官ノ管理ノ下ニ於テ酒保ヲ設置スルコトヲ得

第十九條 俘虜中准士官以上ニハ各人ニ襪蛋、毛布、洗面器類ヲ貸與シ下士兵卒等ニハ毛布又ハ蒲團等及敷名ニツキ一組ノ洗面器類ヲ貸與スルコトヲ得

第二十條 被服ハ本人著裝ノモノヲ使用セシメ其ノ使用ニ堪ヘサルモノハ准士官以上ニアリテハ新品附表第三號 被服内下士兵卒等ニハ古品ヲ貸與ス但シ下士兵卒ト雖必要已ムヲ得サルトキハ新品附表第三號 貸與スルコトヲ得

第二十一條 前條ニ依リ貸與シタル被服ハ俘虜解放若ハ死亡ノ際之ヲ本人ニ支給スルコトヲ得

第二十二條 被服ノ修理其ノ他消耗品等ハ附表第四號ノ金額以內ヲ以テ實費支給スヘシ

第二十三條 患者ノ治療ニ要スル諸費ハ實費支給トス

第二十四條 寢具及陣營具ハ在庫品ヲ應用スルヲ例トス但シ其ノ維持費ハ實費支給トス

第二十五條 燈室用薪炭ハ陸軍給與令第二十四表ヲ標準トシ實費支給トス

第二十六條 俘虜ニシテ旅行ノ必要アルトキ其ノ舟車馬賃ハ陸軍旅費規則第四表ノ金額以內ヲ以テ實費支給トス

第二十七條 俘虜ノ埋葬ハ土葬ヲ主トシ其ノ死亡者ノ身分階級ニ應ジテ相當ノ儀式ヲ行ヒ埋葬ノ場所ハ陸軍埋葬地ノ一隅ニ區別シテ設置スヘシ但シ時宜ニ依リテハ別ニ之ヲ設定スルコトヲ得

第二十八條 俘虜埋葬ノ費用ハ左ノ金額以內ヲ以テ實費支給スヘシ  
准士官以上及同相當者 貳拾圓  
下士及同相當者 拾五圓  
兵卒等 拾圓

(附表第一號)

糧食費標準額	
名	額
將校同相當者及准士官	六拾
下士兵卒等	拾錢

(附表第二號)

糧食品目數量概定表 (一日一人分)	
種	階級
麵	將校同相當者
米	將校同相當者
豆	將校同相當者
油	將校同相當者
鹽	將校同相當者
糖	將校同相當者
茶	將校同相當者
酒	將校同相當者
肉	將校同相當者
魚	將校同相當者
蛋	將校同相當者
蔬菜	將校同相當者
果	將校同相當者
其他	將校同相當者
下士兵卒等	下士兵卒等

(附表第三號)

精肉(歐魚島)	百	百	百	百	百	百	百	百	百
蔬菜	百	百	百	百	百	百	百	百	百
食鹽	五	五	五	五	五	五	五	五	五
砂糖	四	四	四	四	四	四	四	四	四
香	味	若	若	若	若	若	若	若	若

備考 本表ハ概例ヲ掲示シタルモノトス故ニ各地方ノ狀況ニ應ジ適宜増減スルコトヲ得又粟スレハ米麥ヲ以テ廻廻ニ換用スルコトヲ得

(附表第四號)

被服新調費定額表

名	稱		額	
	冬	夏	冬	夏
將官同相當者	參拾圓	拾貳圓	五圓	貳圓五拾錢
上長官同相當者	貳拾五圓	拾圓	四圓	貳圓
士官准士官及同相當者	拾五圓	六圓	參圓	壹圓五拾錢
下士兵卒等	八圓	參圓	八拾參錢	八拾參錢

被服及消耗品定額表

名	稱	月	額
上長官以上及同相當者		五	圓

士官准士官及同相當者	參	圓
下士及同相當者	壹	圓
兵卒等	五	拾錢

○陸軍第九十八號  
戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタル陸軍監獄看守及陸軍警守ニハ本年勅令第百二十一號第一項ニ依リ當該官廳ニ於テ召集中休職ヲ命シ同第三項ニ該當スル者ニハ休職給トシテ召集前ノ俸給ト軍人俸給トノ差額ヲ給ス  
明治三十七年五月二十日 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第九十九號  
士官候補生士官學校分遣中ノ帶革ハ當分ノ内明治二十一年陸軍第百六十四號ノ規定ニ拘ラス各兵科ニ應スル兵器ノ帶革ヲ使用スルコトヲ得  
明治三十七年五月三十日 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第百號  
戰場掃除及戰死者埋葬規則左ノ通定ム  
明治三十七年五月三十日 陸軍大臣寺內正毅

戰場掃除及戰死者埋葬規則  
第一條 各部隊ハ戰鬪終ル毎ニ速ニ掃除隊ヲ編成シ戰場ニ於ケル傷病者及死者ヲ搜索シ且其ノ遺留品ヲ處理スヘキモノトス  
高等指揮官ハ時宜ニ依リ特ニ一部隊ヲ指定シテ前項ノ任務ニ服セシムルコトヲ得

第二條 傷病者ハ戰時衛生勤務令ノ規定ニ依リ之ヲ取扱ヒ死者ハ帝國軍隊ニ屬スルト敵國軍隊ニ屬スルトヲ問ハス身分階級ニ應シ共ノ死體ヲ鄭重ニ取扱フヘシ

第三條 總テ死者ニ付テハ爲シ得ル限リ共ノ氏名身分階級及所屬部隊等ヲ軍隊手帳被服ノ標記及認識票等ニ依リ調査スヘキモノトス

第四條 帝國軍隊所屬者ノ死體ハ火葬シ敵國軍隊所屬者ノ死體ハ土葬スルヲ例トス但シ敵國軍隊所屬者ノ死體ト雖傳染病流行等ノ虞アル場合ニ在リテハ火葬スルコトヲ得

第五條 埋葬ハ總テ死亡ヲ確メタル後ニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第六條 掃除隊ハ帝國軍隊所屬者ノ死體ト敵國軍隊所屬者ノ死體トヲ區分シテ一地點若ハ敷地點ニ集聚シ成ルヘク席筵等ヲ以テ之ヲ掩蔽スヘシ但シ死體ノ集聚ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テモ共ノ掩蔽ヲカムヘキモノトス

第七條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ成ルヘク速ニ第四條ノ區別ニ從ヒ死體ヲ火葬若ハ土葬スヘシ

第八條 火葬ノ場所ハ左ノ第一號及第二號ニ又土葬ノ場所ハ左ノ各號ニ注意シテ之ヲ選定スヘシ  
一 道路市街村落及軍隊ノ駐在地ヨリ遠隔スルコト  
二 水源水流及飲用井泉ヨリ離隔スルコト  
三 高原又ハ緩傾斜ニシテ土地鬆疎且適度ニ乾燥シアルコト

第九條 帝國軍隊所屬者ノ死體ハ各別ニ火葬シ共ノ遺骨ヲ内地ニ還送スヘシ但シ場合ニ依リ還送ヲ還送シ遺骨ハ之ヲ戰場ニ假葬スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ下士兵卒等ニ在リテハ事情ノ許ササルトキハ遺髮ヲ還送シ死體ハ取纏メ火葬スルコトヲ得

第十條 前條還送ノ遺骨若ハ遺髮ハ陸軍埋葬規則第六條ニ基キ内地ノ陸軍埋葬地ニ葬ルヲ例トス但シ遺族ヨリ共ノ引受ヲ願フトキハ之ヲ許スコトヲ得

前條假葬ノ遺骨モ他日之ヲ内地ノ陸軍埋葬地ニ改葬スヘキモノトス

第十一條 第九條ニ依リ假葬スル場合ニハ成ルヘク左ノ各號ニ依ルヘキモノトス  
一 將校同相當官及准士官ノ遺骨ハ各別ニ埋葬スルコト  
二 下士兵卒等ノ遺骨モ成ルヘク各別ニ埋葬スヘク若シ之ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ合葬スルコト

三 合葬ノ場合ニ於テモ准士官以上ノ墳墓ト下士兵卒等ノ墳墓ハ之ヲ區別スルコト

第十二條 敵國軍隊所屬者ノ死體ヲ土葬スルニハ成ルヘク左ノ各號ニ依ルヘキモノトス  
一 將校同相當官及准士官ノ死體ハ各別ニ埋葬スルコト  
二 下士兵卒等ノ死體ハ各別ニ埋葬スルカ又ハ五十個以內ヲ合葬スルコト

三 土葬ノ穴ハ成ルヘク之ヲ深クシ死體ヲ平地ヨリ一米突以上ノ深サニ埋ムルコト  
四 穴底ニハ若干ノ粗朶若ハ藁ヲ敷キ之ニ死體ヲ積ミ其上層ニ石灰、木炭、灰若ハ溶礮ヲ置キ尙ホ衛生上必要ノ注意ヲ加ヘテ之ヲ埋ムルコト

五 發掘シタル土砂ハ之ヲ埋葬ノ地點ニ堆積シテ小塚ヲ作ルコト

第十三條 帝國軍隊所屬者ノ死體ヲ土葬スル場合ニ於テハ各遺髮ヲ保存シタル後前條ニ準シ埋葬スヘシ

第十四條 敵國軍隊所屬者ノ死體ヲ火葬スル場合ニ於テ其ノ遺骨ノ埋葬ハ第十一條ノ例ニ依ル

第十五條 墳墓ハ帝國軍隊所屬者ト敵國軍隊所屬者トヲ區別シ適宜ノ墓標ヲ建ツヘシ

第十六條 總テ死體ヲ埋葬スルニ方リテハ死者ノ身分階級ニ應シ相當ノ儀式ヲ行ヒ且其ノ地所在ノ部隊ニ從軍ノ神官僧侶教師又ハ他ノ教法家アルトキハ之ニ會葬セシムヘシ

第十七條 戰場ニ於テ地方人民ノ死體アルトキハ敵國軍隊所屬者ノ死體ニ準シ之ヲ埋葬スヘシ但シ關係者ヨリ其ノ引渡ヲ願出ツルトキハ成ルヘク之ヲ許可スヘシ

第十八條 帝國軍隊所屬者ノ遺留品中私有物ハ本人ノ遺骨又ハ遺髮ト共ニ一包ト爲シ其ノ氏名階級及所屬部隊ヲ表記シ其ノ地所在ノ司令部若ハ軍隊ヨリ本人所屬部隊ノ動員若ハ編成ニ關係アル師團司令部若ハ官衙ニ送付スヘシ

第十九條 敵國軍隊所屬者ニシテ其ノ氏名年齢國籍身分階級所屬部隊等ヲ知得シタルモノニツキテハ其ノ死體發見及埋葬ノ場所並月日ト共ニ連名簿ヲ作り之ヲ其ノ地所在ノ司令部若ハ軍隊ヨリ停屍情報局ニ通報スルト同時ニ兵器馬匹及軍用圖書ヲ除クノ外本人ノ遺留品ヲ一包ト爲シ其ノ氏名階級等ヲ表記シテ之ヲ同局ニ送付スヘシ

第二十條 戰場ニ於テ死亡シタル地方人民ノ遺留品ハ本人ノ關係者ニ還付セシムル爲其ノ地所在ノ司令部若ハ軍隊ヨリ之ヲ最寄地方官衙ニ交付スヘシ

第二十一條 兵器糧食馬匹及軍用圖書並所有者不明ノ遺留品ハ其ノ地所在ノ司令部若ハ軍隊ニ於テ適當ニ之ヲ處理スヘシ

前項ノ物件ニシテ帝國陸軍ニ屬スルモノノ外ハ之ヲ戰利品トス

第二十二條 埋葬ニツキテハ其ノ狀況遺留品ニツキテハ前四條ニ依リ處理シタル概況並品目員數等ヲ當該司令部若ハ軍隊ヨリ所屬高等司令部ニ報告スヘシ

第二十三條 馬匹ノ死骸ハ之ヲ埋却又ハ燒却スヘシ但シ死骸ヲ埋却スル場合ニ於テハ第十二條第三號及第四號ニ準シ衛生上一層ノ注意ヲ爲スヘキモノトス

第二十四條 本規則ハ戰場以外ノ戰地ニ於ケル死者ノ埋葬及遺留品ノ取扱ニ之ヲ準用ス

○海軍省達第八十六號  
艦艇機關取扱教範追加トシテ「ニクローズ」水管艦取扱法別冊ノ通定ム

但別冊ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヨリ配付ス (別冊略ス)

明治三十七年五月四日 海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十七號  
海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年五月五日 海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條中「所在不明ト爲リタル者又ハ」ヲ「戰地ニ臨ミ若ハ艦船沈没其ノ他ノ場合ニ於テ所在不明ト爲リタル者ニハ海軍大臣ニ於テ所在不明ト認定シタル日ノ翌日ヨリ」ニ改ム

第十號書式中「被服物品交付年月證明表」ヲ「被服物品交付表」ニ改ム

附則  
本達ハ明治三十七年四月二十四日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第八十八號  
海軍戰時給與規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年五月五日 海軍大臣男爵山本權兵衛

第五條 軍人軍屬ニシテ増俸ヲ受クル各部隊艦船艦及官衙ニ轉シタルトキハ出發ノ日ヨリ、戰地若ハ陸戰合圍地境外ニ在リテ規則第六條及第二十條ノ増俸ヲ受クル者増俸ヲ受ケサル各部隊艦船艦及官衙ニ轉シタルトキハ退職若ハ退船ノ日マテ各其ノ増俸ヲ給ス但シ死亡者ニ在リテハ其ノ俸給及給料ノ支給區分ニ依ル

第七條 戰地ニ臨ミ若ハ艦船沈没其ノ他ノ場合ニ於テ所在不明ト爲リ又ハ敵ノ俘虜ト爲リタル者ニハ其ノ翌日ヨリ所在判明又ハ復歸ノ前日マテ増俸ヲ停止ス

第二十六條第二項ヲ左ノ通改ム

前項ノ場合ニ於テ現品ノ給與ヲ必要トスルトキハ規定ノ糧食ヲ給スルコトヲ得

附則

本達ハ明治三十七年四月二十四日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍省達第八十九號

海軍給與令施行細則第三表中備考ノ欄左ノ通改正ス

明治三十七年五月十四日

海軍大臣野村浩藏

備考	備考
本表ノ加俸ハ毎年十二月一日ニ於テ前年十二月一日ヨリ其ノ年十一月末日迄ニ三回以上戰線射撃ヲ爲シ其ノ得點平均十二回連射砲以下ニ在リテハ五十點以上、十二回連射砲以上ニ在リテハ三十點以上、十二回連射砲以下ト十二回連射砲以上ト相勝ル場合ニ於テハ其ノ得點ヲ通算シ(十二回連射砲以下ノ得點ヲ算入シテ)トスルコトナシ、又ハ其ノ得點ニ五點以上三點シテ射撃ノ命セラルタル者ニ支給ス	本表ノ加俸ヲ受クル射撃ノ資格ハ一箇年間有數トス但シ射撃ノ部署ヲ離レタルトキハ此ノ限ニ在ラス

○海軍省達第九十號

海軍工廠處務細則中左ノ通改正ス

明治三十七年五月三十一日

海軍大臣野村浩藏

第九條計算課第四號中「屬具製造用物件ヲ」屬具ノ製造用物件ニ改メ「購買」ノ下ニ「廢却物件」ノヲ加ヘ同條工場庫第四號中「廢兵器」ヲ削ル

〔參照〕

海軍省達第九十二號海軍工廠處務細則(明治三十六年十一月十日)抄録

第九條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

四 艦船兵器及其ノ屬具製造用物件、造兵造船材料暨艦船用品ノ購買賣却其ノ他運搬ノ契約ニ關スルコト

工場課

四 艦船取外物品、廢兵器其ノ他工業上生シタル廢材殘廢物等ノ保管出納ニ關スルコト

○海軍省達第九十一號

海軍經理部處務規程中左ノ通改正ス

明治三十七年五月三十一日

海軍大臣野村浩藏

第八條第一號中「準備」ノ下及第九條第四號中「購買」ノ下ニ「賣却」ヲ加フ

〔參照〕

海軍省達第九十二號海軍經理部處務規程(明治三十六年十一月十日)抄録

第八條 表檢料ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 被服物品糧食品ノ調辦運搬出納保管供給準備及運搬ニ關スルコト

第九條 建築課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

四 建築材料物件ノ購買保管出納ニ關スルコト

○海軍省達第九十二號

海軍測器庫處務規程中左ノ通改正ス

明治三十七年五月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條第一號中「購買」ノ下ニ「賣却」ヲ加フ

〔參照〕

海軍省達第六十六號海軍測器庫處務規程(明治三十四年五月十四日)抄錄

第一條 海軍測器庫ノ所掌事務ヲ細別スルコト左ノ如シ

一 測器ノ購買・整備及海圖水路圖等ノ整備ニ關スルコト

○陸達第百一號

携帶天幕製式及使用法中左ノ通改正ス (國中改正略ス)

明治三十七年六月一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸達第百二號

野戰郵便夫規則中左ノ通改正ス

明治三十七年六月六日

陸軍大臣寺內正毅

○陸達第百三號

附錄第二號野戰郵便夫制服圖中外套ノ部「釦衣ニ同シ」ノ下ニ「但シ黒護謄製」ヲ加フ

明治三十七年六月六日

陸軍大臣寺內正毅

一 戰時編制又ハ臨時ノ編成ニ依リ成立シタル諸部團隊ニ於テ憲兵ノ缺員ヲ生シタルトキハ其ノ補充ヲ憲兵司令部ニ請求ス但シ韓國駐劄軍司令部ニ屬スル憲兵ノ補充ハ陸軍省ニ請求スルモノトス

二 憲兵司令部ハ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之カ供給ニ關シ將校及准士官ニ在リテハ同司令部ヨリ陸軍大臣ニ稟申シ下士上等兵ニ在リテハ適宜憲兵隊ニ配當シテ供給セシメ其ノ官ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

三 補充員所要ノ兵器ハ憲兵司令部ヨリ兵器本廠長ニ請求シ兵器本廠長ハ之カ請求ニ應シ其ノ品目員數ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

四 補充員所要ノ被服ハ憲兵司令官ヨリ陸軍省ニ請求スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニハ憲兵隊長ヨリ最寄軍隊ニ一時繰替ヲ請求スルコトヲ得

五 補充員所要ノ携帶口糧ハ當該憲兵隊長ヨリ最寄軍隊ニ請求シテ受領スヘシ之カ爲補填ヲ要スルモノハ師團長ヨリ陸軍大臣ニ補填ヲ申請スヘシ

○陸軍部百四號

陸軍平時備入定員表中左ノ通改正ス

明治三十七年六月六日

陸軍大臣寺内正毅

陸軍會計監督部ノ欄中「三」ヲ「四」ニ「一」ヲ「二」ニ「四」ヲ「六」ニ改ム

○陸軍部百五號

明治三十七年陸軍第十六號(併教師ヲ職中左ノ通改正ス

明治三十七年六月七日

陸軍大臣寺内正毅

師團長ノ下ニ「獨立旅團長」及「二名以内」ノ下ニ「獨立旅團」一名ヲ加フ

〔參照〕

陸軍第十六號(明治三十七年二月九日)

戰時又ハ非常ニ際シ師團長及兵站監ハ所要ニ應ジ相當ノ資格ヲ有スル附屬教師ヲ職地ニ伴行スルコトヲ得但シ其ノ人員ハ一師團ニ三名一兵站監部ニ二名以内ニシテ其ノ取扱ニ關シテハ當該師團長又ハ兵站監ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

○陸軍部百六號

本年陸軍部百二十五號戰時陸軍報告例中左ノ通改正ス

但シ第十三及第十四表ニ限リ本月十日嗣ノ事實ヲ取敢ヘス報告スヘシ

明治三十七年六月八日

陸軍大臣寺内正毅

第七條中「月報」ニ「何師團司令部步兵何旅團(騎兵何旅團)聯隊(何兵站司令部)馬廠(何)馬匹出入及現在數表」ヲ「一」也何何隊馬匹出入及現在數表」ニ改メ「十三」ノ次ニ「十四 戰時事務紀事」ヲ加フ

(別表中改正加除アリ略ス)

○陸軍部百七號

明治三十七年六月十一日

陸軍大臣寺内正毅

出張所名稱ノ欄中「軍馬補充部鍛冶谷澤支部冬備山出張所」ノ次ニ「軍馬補充部鍛冶谷澤支部及位出張所」ヲ「軍馬補充部高原支部福元出張所」ノ次ニ「軍馬補充部高原支部加久藤出張所」ヲ、同位置ノ欄中「秋田縣由利郡院内村」ノ次ニ「山形縣最上郡及位村字及位」ヲ「鹿兒島縣鹿兒島郡谷山村字福元」ノ次ニ「宮崎縣西諸縣郡加久藤村字西長江浦」ヲ加フ

○陸軍部百八號

本年陸軍部百十四號野戰酒保規程中左ノ通改正ス

明治三十七年六月十四日

陸軍大臣寺内正毅

第二條第一項中「師團司令部」ノ下ニ「兵站監部」ヲ「獨立セル大隊」ノ下ニ「架橋縱列、衛生隊、野戰病院ヲ及末尾」ニ但シ野戰病院ニ在リテハ「二箇」ニツキ野戰酒保「一箇」トス」ヲ加フ

〔參照〕

陸軍部百十四號野戰酒保規程(明治三十七年二月九日)抄錄

第二條 軍司令部師團司令部步兵騎兵砲兵工兵艦隊兵、彈藥大隊其ノ他獨立セル大隊及兵站司令部ニ於テハ所要ニ應ジ野戰酒保ヲ設置シ當該部隊長之ヲ管理スルモノトス



○陸軍部百九號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

第十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ戰地ニ於テ死亡セル者ノ俸給ハ營内居住下士以下ニ在リテハ其ノ旬ノ全額ヲ其ノ他ノ者ニ在リテハ其ノ月ノ全額ヲ給ス

第三十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ戰地ニ於テ死亡ノ者ハ其ノ月ノ全額ヲ給ス

附則

本改正ハ本年二月五日以降戰地ニ於テ死亡シタル者ニ之ヲ適用ス

○陸軍部百十號

陸軍兵卒進級規則中左ノ通改正ス

第八條 削除

第十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十條ノ二 敵前ニ在リテ其ノ功績顯著ナル者ハ前諸條ノ期限ニ拘ハラズ之ヲ進級セシムルコトヲ得

〔参照〕

陸軍部百三號陸軍兵卒進級規則(明治三十六年十二月一日)抄録  
第八條 戰地ニ在リテ其ノ功績顯著ナル者ハ前諸條ノ期限ニ拘ラス進級セシムルコトヲ得

○陸軍部百十一號

下士ニシテ任官後十五年以上陸軍(營外居住ノ職務ニ服シ勤務勉勵品行端正ナル者ハ陸軍地方幼年學校條例第十三條第五號後段ニ該當スル下士タルヲ證明スル爲メ本人滿期歸郷又ハ死歿ノ際軍隊官術學校ノ長官ニ於テ證明書ヲ付與スヘシ

明治三十七年六月十八日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍部百十二號

陸軍補充條例第五百十一條ニ據リ同第五百十二條第四號ニ該當スル者ヲ以テ士官ノ闕員ヲ補充スルコトヲ得

明治三十七年六月二十日

陸軍大臣寺內正毅

〔参照〕

勅令第三百七十九號陸軍補充條例(明治二十九年十二月二日官報)抄録  
第五百十一條 戰時若シハ事變ニ際シ士官及下士ノ缺員アルトキハ本條例各章ニ依ルノ外尙ホ本令(特別補充)ニ依リ補充スルコトヲ得  
第五百十二條 士官ハ左ニ掲クル者ノ中ヨリ補充スルコトヲ得但シ補充ヲ爲スヘキ時期及區分ハ陸軍大臣ノ指定ニ依ル

四 現役預備役後備役特務曹長ニシテ曹長ニ任セラレタル日ヨリ二箇年六箇月ヲ過キタル者

○陸軍部百十三號

營外居住ノ職ニ在ル下士ハ營内居住ノ職ニ轉セシメサルモノトス但シ戰時事變ノ際又ハ編制改正等ノ爲メ過員トナリシ者ニシテ隊附ニ適任ノ者ハ營内居住ノ職ニ轉セシムルコトヲ得

明治三十七年六月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍部百十四號

明治三十七年勅令第七十五號ニ依ル手當支給方左ノ通定

明治三十七年六月二十三日

陸軍大臣寺内正毅

第一條 戰時ニ際シ陸軍准士官以上及軍屬ニシテ乘組船舶ノ破壊又ハ沈没ノ爲被服器具ヲ亡失シタルトキハ生存者ニ左ニ掲クル金額以内ノ手當ヲ給ス

將校同相當官

高等文官

委任待遇者

准士官

判任文官

判任待遇者

雇員

百五十圓 (自辨馬鞍ヲ亡失シタル場合ニ在リテハ五十圓ヲ増加ス)

百二十圓

八十圓

第二條 前條ニ該當スル者アルトキハ所屬長官ニ於テ損害ノ程度ヲ調査シ支給金額ヲ定メ之ヲ本人ニ支給シ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

本通ハ今回戰役ノ始メニ遡リテ之ヲ適用ス

○陸軍部百十五號

戰時又ハ事變ノ際ニ於ケル第一補充兵輜重輸卒臨時教育召集ニ關スル件左ノ通定

明治三十七年六月二十五日

陸軍大臣寺内正毅

一 師團長ハ輜重兵補充隊ニ於ケル補充ノ景況ト該隊ノ教育力ヲ顧慮シ第一補充兵輜重輸卒中補助輸卒隊引宛ノ者ヲ除キ新年次ノ者ヨリ逐次三箇月間臨時教育召集ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ教育期間ニ於テ補充ノ必要アルトキハ直ニ補充召集ニ移シ該隊ニ編入スルコトヲ得

二 師團長ハ前項實施ニ際シ其ノ人員及時期ヲ報告スヘシ

三 近衛師團長ハ必要ノ人員ヲ第一師團長ニ通知シ第一師團長ハ其ノ人員ヲ近衛師團ニ召集スヘシ

四 第七師團長ハ其ノ師管在籍ノ者ヲ以テ所要ノ人員ヲ充シ能ハサルトキハ其ノ不足人員ヲ第一

第二第八師管在籍ノ第七師團配當員ニ比例スル如ク分配シ第一第二第八師團長ニ通知シ當

該師團長ハ其ノ人員ヲ第七師團ニ召集スヘシ

○陸軍部百十六號

陸軍武官進級取扱規則各級擢進例ノ裁決期ハ本年ニ限リ七月ト定メラル

但シ本年ノ決定候補名簿ハ必要ニ應シ各兵科各階級ニ於テ前年ノ決定候補者並クルニ從ヒ使用スル事ニ定メラル

明治三十七年六月二十六日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍部百十七號

陸軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十七年六月二十八日

陸軍大臣寺内正毅

第十八條 東京衛戍總督及衛戍司令官ハ當該衛戍地内ニ屯在スル軍人ノ服裝ヲ齊一ナラシムルノ

必要アルトキハ本規則ノ範圍内ニ於テ其ノ裝著法ヲ定ムルコトヲ得各部團隊長勤務演習等ノ爲  
當該部團隊ニ於ケル服裝ノ齊一ヲ要スルトキ亦同シ

〔參照〕

陸軍第五十九號陸軍服裝規則(明治三十四年九月二十一日)抄録  
第十八條 隊伍ニ列スルトキ其ノ他服裝ノ齊一ヲ要スルトキハ當該團隊長若ハ長官本規則ノ範圍内ニ於テ其ノ裝著法ヲ定  
ムルモノトス

○陸軍部百十八號

陸軍入院患者ノ轉地療養所ニ於ケル取締方左ノ通定ム

明治三十七年六月二十八日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 衛戍地外ニ在ル轉地療養所ニ於ケル軍紀風紀ノ監視ハ其ノ地所管師團長ノ管轄トス
- 二 轉地療養所直接ノ取締ハ通常患者中高級故參ノ將校(將校在ラサルトキハ附之ニ任ス  
前項ノ將校在ラサル場合ニ在リテハ師團長ハ隨時部下將校ヲシテ轉地療養所ヲ巡視セシムヘ  
シ但シ時宜ニ依リ師團長ハ憲兵隊長ト協議シ轉地療養所最寄ノ憲兵ヲシテ巡視セシムルコト  
ヲ得
- 三 患者ノ取締ニ任スル將校ハ毎旬其ノ狀況ヲ其ノ地所管ノ師團長ニ報告スヘシ
- 四 師團長ハ他師管ニ患者ヲ轉地セシムルトキハ其ノ場所、患者ノ階級人名、轉地ノ豫定日數及取  
締ニ任スル將校、附屬衛生部員ノ階級人名等ヲ當該師團長ニ通報スヘシ其ノ轉地ヲ終ルトキ  
モ亦同シ

○海軍省達第九十三號

明治三十六年十一月達第百三十一號通常物品出納命令官會計官吏表中出納命令官ノ欄造兵廠會計部  
長及工廠會計部長ノ上段品名ノ内「廢兵器」ヲ削ル

明治三十七年六月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十四號

本年達第八十四號第二項中「死亡」其ノ他事故ニ因リ給與ヲ停止シ「死亡」處刑共ノ他事故ニ因リ給  
與ノ停止若ハ減額セラレニ改正ス

明治三十七年六月七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十五號

海軍里程表別冊ノ通改正シ明治三十七年七月一日ヨリ施行ス但シ別冊ハ之ヲ要スル向ヘ經理局ヨ  
リ配付セシム(別冊略ス)

明治三十七年六月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十六號

本年達第四十六號海軍功績調查手續第一項第二號勳功ノ下(甲乙ニ區分ス)ヲ(甲乙丙丁ニ區分ス)  
ニ改メ第四號功勞ノ下(甲乙丙ニ區分ス)ヲ削リ第六項ヲ左ノ通改ム

六 屢所轄長ヲ異ニセルモノ、武功明細書ハ各所轄長部下ニ在リシトキノ武功明細書ヲ作り之ヲ  
現時ノ所轄長又ハ軍務ヲ離ルハトキノ所轄長タリシ者ニ移ス此所轄長ハ具申ノ必要ヲ認メタ  
ルトキハ他ヨリ送り來リシ明細書ヲ自己ノ作リシ明細書ニ添ヘ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進達又  
ハ移牒スヘシ但履歷書履歷書ハ具申ヲ爲ストキノミ添フルモノトス

明治三十七年六月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第四十六號海軍功績調查手續(明治三十七年三月一日抄録)  
六 既所轄長ヲ異ニセルモノ、武功明細書ハ各所轄長部下ニ在リシトキ、武功明細書ヲ作り之ヲ所屬長官ニ送達スヘシ所屬長官ハ必要ト認ムル時之ヲ海軍大臣ニ送達若ハ移膜スヘシ

○海軍省達第九十七號

雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治三十七年六月十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條左表中機關手ノ部、舞鶴海軍病院ノ下ニ「海軍工廠造兵部武庫」ヲ加ヘ、火夫ノ部「横須賀海軍經理部」ノ下ニ「海軍工廠造兵部武庫」ヲ加フ

○海軍省達第九十八號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年六月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第十五條ニ左ノ二項ヲ加フ

一 係給ノ一部家族ニ下渡シテ請求シタル者所屬ヲ轉シ尙引續キ下渡シテ要スルトキハ其ノ下渡シニ屬セサル當月分ノ給額ハ費途ノ款ヲ異ニセサル場合ニ限リ本則第十三條第一項ノ區分ヲ爲サス支給定日本人所屬ノ艦團其ノ他各部ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

給與令第十六條ノ場合ニ於テ所在不明ト爲リタル者ニ支給スヘキ俸給ハ第一項ニ拘ラス適宜本人所屬ノ艦團其ノ他各部又ハ經費所管ノ艦ニ於テ軍人恩給法ニ定ムル所ノ順位ニ從ヒ之ヲ家族ニ下渡スルコトヲ得

第三十二條第二項但書及第七十條第二項但書中「多キトキハ」ノ下ニ「其ノ差額ハ」ヲ加フ

第八十三條第四號中「所在不明ト爲リタルトキ又ハ」ヲ削ル

○海軍省達第九十九號

海軍戰時給與規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年六月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二十一條ニ左ノ二項ヲ加フ

一 係給給料及増俸増給ノ家族ニ下渡シテ請求シタル者所屬ヲ轉シ尙引續キ下渡シテ要スルトキハ其ノ下渡シニ屬セサル當月分ノ給額ハ海軍給與令施行細則第十三條第一項ノ區分ヲ爲サス支給定日所屬部隊艦船艦艇ニ於テ支給スルコトヲ得

戰地ニ臨ミ若ハ艦船沈没其ノ他ノ場合ニ於テ所在不明ト爲リ又ハ敵ノ俘虜ト爲リタル者ニ支給スヘキ俸給給料ハ第一項ニ拘ラス適宜所屬部隊艦船艦艇又ハ經費所管艦ニ於テ軍人恩給法及官吏遺族扶助法ニ定ムル所ノ扶助料ヲ受クヘキ者ノ順位ニ從ヒ之ヲ家族ニ下渡スルコトヲ得増俸増給ノ支給スヘキモノアルトキ亦同シ

第二十二條 前條第四項ノ場合ニ於テ死亡ノ事實判明シ若ハ所在不明ト認定セラレ又ハ敵ノ俘虜ト爲リ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第十七條ニ基キ給與ヲ受ケタル等ノ爲過渡若ハ重複拂ト爲リタルトキハ該家族ヲシテ之ヲ返納セシムヘシ

○海軍省達第一百號

明治三十六年十一月達第三百二十四號別表收入官吏ノ欄中「海軍探炭所主計長」ヲ「海軍探炭所書記」ニ改

明治三十七年六月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省通第百一號

明治三十一年二月第二十一號別表中へ左ノ通追加ス

明治三十七年六月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

委任仕務命令官同	代理
海軍下關火藥製造所長	海軍下關火藥製造所主幹
海軍探炭所長	海軍探炭所主計長

○海軍省通第百二號

勅令第百七十九號發布前ニ於テ商船學校學生ノ海軍生徒ノ身分ヲ有シ海軍豫備員ナリシ者ハ此ノ際別ニ辭令ヲ用非ス之ヲ廢シ更ニ航海科學生ニ在テハ海軍豫備生徒ヲ機關科學生ニ在テハ海軍豫備機關生徒ヲ命セラレタル者トシ身分ハ海軍生徒ニ准セシム

明治三十七年六月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○會計検査院通第百三號

國債募集金出納證明規程左ノ通改正ス

明治三十七年六月二十日

會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎

國債募集金出納證明規程

第一條 明治三十三年勅令第二十號ニ依リ日本銀行ノ調製スヘキ國債募集金出納計算書ハ別記第一號書式ニ據ルヘシ

出納計算書ノ提出期限ハ募集ヲ終リントキヨリ六十日以内トス

第二條 左ノ事項ハ出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雜ニ涉ルモノハ説明書ヲ添付スヘシ

一 市場ノ時價ニ準シ公債證書ヲ發行シ日本銀行ニ交付セラレタルモノアルトキハ其區分

二 應募額募集額ニ超過シタルトキハ其割當テノ方法

三 外國貨幣ヲ以テ領收スヘキトキニ在テハ其員額及換算相場

第三條 出納計算書ニハ別記第二號書式ニ據リ調製シタル申込價格分類表ヲ添付スヘシ

失權者ヲ生シタルトキハ其金額額額書ヲ提出スヘシ

第四條 國債募集金出納ノ證據トシテ提出スヘキモノハ金庫ノ領收證書大藏大臣命令書ノ謄本及應募申込書トス但應募申込書ハ會計検査院ノ指定ヲ俟テ之レヲ提出スヘシ

第五條 國債募集金拂込ノ撤回ニ涉ルモノアルトキハ別記第三號書式ニ據リ出納内譯書ヲ調製シ其月末日ヨリ六十日以内ニ之ヲ提出スヘシ

前項ニ依リ内譯書ヲ調製スルトキハ第二條乃至第四條ニ規定セル事項ハ之ヲ内譯書ニ記載又ハ添付スヘシ但申込價格分類表ハ初度拂込ヲ受ケタル月ノ内譯書ニ添付スヘシ

第六條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ出納計算書 出納内譯書及證據書ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

下検査書ハ出納計算書 出納内譯書等ニ調製シ事實ニ適合セスト認定シタル事項アルトキハ其金額事由ヲ記載スヘシ

第七條 審理書及答辯書ハ下検査ヲ執行スル官吏ヲ經由スヘシ

(別記)

第一號

- 一 計算書及内譯書ヲ受授スル者ハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ
- 一 計算書及内譯書ノ用紙ハ罫沙引厚紙ニシテ折ラ用ヒ左側ニ曲尺一寸餘ノ緩代ヲ存スヘシ
- 一 計算書及内譯書ハ改竄塗抹ヲ禁ス若シ誤脱脱字等ニテ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ横畫シ主任者ニ捺印スヘシ

<p>(第何回發行)何公債(國庫債券、大藏省證券)募集金出納 計算證明候也</p> <p>日本銀行總裁氏名 願</p> <p>會計検査院長宛</p> <p>年月日</p>		<p>摘要</p> <p>何公債(國庫債券、大藏省證券)募集金 延滞金利息 何</p> <p>計</p>
---	--	--

<p>(第何回發行)何公債(國庫債券、大藏省證券)募集金</p> <p>出納計算書</p>		<p>備考</p>																			
<table border="1"> <tr> <th>領收額</th> <th>納付額</th> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <tr> <td>圓</td> <td>角</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table> </td> <td> <table border="1"> <tr> <td>圓</td> <td>角</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	領收額	納付額	<table border="1"> <tr> <td>圓</td> <td>角</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>	圓	角	0	0	0	0	0	0	<table border="1"> <tr> <td>圓</td> <td>角</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>	圓	角	0	0	0	0	0	0	<p>証憑書 何冊</p> <p>何 何冊</p> <p>日本銀行</p>
領收額	納付額																				
<table border="1"> <tr> <td>圓</td> <td>角</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>	圓	角	0	0	0	0	0	0	<table border="1"> <tr> <td>圓</td> <td>角</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>	圓	角	0	0	0	0	0	0				
圓	角																				
0	0																				
0	0																				
0	0																				
圓	角																				
0	0																				
0	0																				
0	0																				

別				總括										
申込額		募入額		價格以上差金		備考	價格		應募額		募入額		拂込額	
円	銭	円	銭	円	銭		円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第二號

(第何回發行)何公債(國庫債券、大藏省證券)申込價格分類表

最低價格申込ノモ  
フニシテ減少セシ  
ム何口同ノ分  
ニシテ減少セル  
何口

○拂込額ニハ價格以上差金ヲ加算扱スヘシ

日本銀行

明治三十七年六月 總 會計檢査院第三號 國債募集金出納證明規程

	第三號
期 券	(第何回發行)何公債(國庫債券・大藏省證券)募集金
	何年何月出納 內 譯 書
	何冊 何冊 何冊
	日本銀行

三三

年月日 日本銀行總裁氏名 願	店										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 70%;">納 要</th> <th style="width: 30%;">口數</th> </tr> <tr> <td>何 地 發行價格以上 發行價格ノ分</td> <td style="text-align: center;">0 0</td> </tr> <tr> <td>何 地 發行價格以上 發行價格ノ分</td> <td style="text-align: center;">0 0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </table>	納 要	口數	何 地 發行價格以上 發行價格ノ分	0 0	何 地 發行價格以上 發行價格ノ分	0 0	計	0	合計	0
納 要	口數										
何 地 發行價格以上 發行價格ノ分	0 0										
何 地 發行價格以上 發行價格ノ分	0 0										
計	0										
合計	0										

明治三十七年六月 總 會計檢査院第三號 國債募集金出納證明規程

三三



明治何年何月何日公債(國庫債券、大藏省證券) 募集金出納内附證明候也  日本銀行總裁氏名 宛 會計検査院長宛 年月日		領	
		水 月 中	
保 誰 金 第 何 期 何 格 以 上 差 第 何 期 延 滞 拂 込 金 利 子 何	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	0	0	0
	計	0	0

收 領				納 付 額				残 額	
前月迄累計		合 計		水 月 中		前月迄累計		合 計	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

○宮内省達甲第五號

宮内省官制中左ノ通改正追加ス

第三十四條中御料局技師ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

御料局技師補 六人 奏任六等以下

御料局技師ノ職務ヲ補助ス

第三十六條中膳部長膳部副長ノ項ヲ左ノ通改ム

膳部長 一人 准奏任六等以下

供御饗宴ノ事ヲ掌ル

膳部副長 准判任一等二等三等

第四十二條中侍醫ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ並ニ藥劑師長ノ項五等以下ヲ「四等以下」ニ改ム

侍醫補 八人 奏任六等以下

掌侍醫ニ亞フ

第四十五條中帝室會計審査官補ノ項六等以下ヲ「五等以下」ニ改ム

第五十條乙號宮内省技師官俸給表別項技師ノ次ニ「技師補」三字及奏任侍醫ノ次ニ「侍醫補」ノ三字ヲ加フ又丁號宮内省准官俸給表中膳部長ノ俸給ハ千二百圓以下トシ膳部副長一等ノ俸給ヲ上級

七十五圓下級六十圓ト定ム

明治三十七年七月十三日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

〔參照〕

宮内省通第十號宮内省官制(明治二十二年七月二十三日)抄録  
第三十六條 大膳職ニ左ノ職員ヲ置キ供御要及共器具ニ關スル業務ヲ管理シ主管ニ關スル會計ヲ掌ル  
膳部長 准判任一等二等  
膳部副長 准判任二等三等四等

○宮内省通甲第六號

明治二十二年九月宮内省通第十六號御料局支應職制中第二條及第五條中技師ノ次ニ「技師補」ノ三字ヲ加ヘ第三條及第六條ヲ左ノ通改ム

第三條 支應ニ監督ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充テ出張所其他ノ業務ヲ監督ス  
第六條 出張所長ハ技師補又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

明治三十七年七月十三日  
奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

〔參照〕

宮内省通第十六號御料局支應職制(明治二十二年九月六日)抄録  
第二條 御料局支應ニ左ノ職員ヲ在勤セシム  
第三條 支應管内支應ナルトキハ監督ヲ置キ技師補又ハ技手ヲ以テ之ニ充テ出張所其他ノ業務ヲ監督ス  
第五條 技師補技手技手補監督ハ各其主務ニ従事ス  
第六條 出張所長ハ職又ハ技手技手補ヲ以テ之ニ充ツ

○陸軍第九十九號

退役主計ニシテ陸軍主計ノ職務ヲ執ラシムル雇員ノ給料左ノ通定ム

明治三十七年七月五日

陸軍大臣寺內正毅

一 恩給ヲ受クル者ハ左ノ區分ニ依ル

退役一等主計 月額 四十圓

同 二等主計 同 二十五圓

同 三等主計 同 二十圓

二 恩給ヲ受ケサル者ハ豫備役主計召集中ノ額ニ依ル

三 勤務ノ成績ニ依リ前各項ノ區分ニ拘ハラヌ月額三十圓以内ヲ増給スルコトアルヘシ

○陸軍第九十九號

明治三十二年陸軍第九十一號獸醫材料取扱規則第一表中馬術ノ欄臺灣諸隊ノ區畫内ニ「砲兵隊」ニテ加フ

明治三十七年七月九日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第九十一號

今回ノ戰役中採用シタル現役見習獸醫官ハ獸醫部士官勤務習得期間内ニ於テ約二箇月間陸軍獸醫學校ニ分遣シ勤務上必要ノ教育ヲ受ケシムルコトニ定メラル

明治三十七年七月十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第九十二號

明治二十七年陸軍第七十號臨時費支出及整理規程中左ノ通改正ス

明治三十七年七月十五日

陸軍大臣寺內正毅

第一條第一項中「任命令官」ノ下ニ「及收納金ノ歳入徴收官」ヲ加フ

第二條第一號中「金櫃委員」ヲ削リ第二號ヲ左ノ如ク改ム

明治三十七年七月 陸軍省陸軍第九十九號 陸軍第九十一號 陸軍第九十二號

二 内地及臺灣所在ノ各部各隊ニ於テ所要ノ金額ハ部隊長ヨリ所管經理部ニ請求スヘシ  
經理部ハ前項ノ金額ヲ陸軍省ニ請求スルモノトス

第三條中「各部各隊ヲ」各經理部ニ改ム

第四條ノ二 第二條第二號ニ依リ經理部分任出納官吏ニ於テ各部各隊ニ送金ヲ要スルトキハ雜部  
引出切符ニ裏書ヲ爲シ金額ニ送金ヲ請求スヘシ

第七條中「任擢命令官ヲ」所管經理部ニ改ム

第十二條中「當該部隊長ヨリ」ノ下ニ「所管經理部ヲ經テ」ヲ加フ

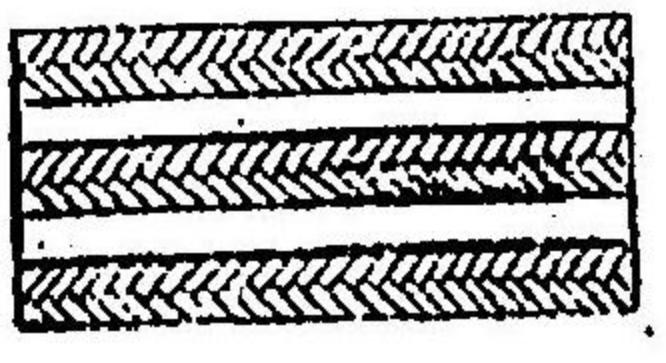
本規程中「陸軍監督部」ヲ「陸軍會計監督部」ニ「野戰監督長官」ヲ「野戰經理長官」ニ改ム

○陸軍部百二十三號  
當分ノ内地ニ屯在スル各部隊 砲兵隊及砲隊 以上ニハ略衣袴ヲ貸與シ絨衣袴ノ補  
助用トシテ之ヲ著用セシムヘシ

明治三十七年七月十八日

陸軍大臣寺內正毅

上等兵徽章



章 三分山黃内記打三條ヲ附著シ各間隙ヲ一分トス  
地 質 茶褐色雲縹  
縦 八 分  
横 一寸七分

○陸軍部百二十四號

野戰郵便夫規則中左ノ通改正ス

明治三十七年七月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

附錄第一號野戰郵便夫給與物品表中帽ノ欄内「縹」ヲ「藍」ニ、冬服夏服ノ欄内「鼠」ヲ「茶褐色」ニ改  
ム

○海軍省百二十三號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年七月一日

海軍大臣野村浩平

第八表第九表第十一表第十二表第十三表第十九表及第十七表中イノ部、ロノ部、ハノ部、ニノ部、  
イ及軍樂手、ハ及軍樂生、イハニノ部備考ノ欄ヲ別表ノ通改ム

第二號書式乙中正服帽徽章ノ欄 一等下士ヲ「甲ノ部」ニ「二等下士以下」ヲ「丙ノ部」ニ改メ第二號書  
式中襟紐、シャツノ欄ヲ削リ夏服略帽ノ欄「三箇年」ヲ「二箇年」ニ改ム

各表及各書式中「イノ部」ヲ「甲ノ部」ニ「ロノ部」ヲ「乙ノ部」ニ「イハニノ部」ヲ「イハニノ部」ヲ「甲  
丙ノ部」ニ「軍服」ヲ「通常禮服」ニ「通常軍服」ヲ「軍服」ニ改メ表中襟紐、シャツノ欄ヲ削ル

附則

本通ニ依リ改正ノ各表及各書式ハ當分ノ内營各表及各書式ニ依ルコトヲ得

明治三十七年勅令第百八十三號附則ニ依リ當分ノ内營第十三表ニ依ルヘキ期間及前項ニ依リ當分  
ノ内營各表及各書式ニ依ルヘキ期間ハ別ニ之ヲ定ム

**第八表** (第八十四條第一項ニ依リ筆記及卒)

品目	乙部		丙部	
	新品	古部	新品	古部
正服上衣袴	二			
通常禮服上衣袴				
軍服上衣袴				
夏服上衣袴	二			
胸衣				
外装				
雨衣				
正服帽				
夏服帽				
夏服略帽	二			
中著				
中著				
袴				

(水兵備置兵)

品目	乙部	丙部
脚絆		二
麻鞋		二
襪		二
手袋		二
手袋		二
袴		二
靴		二
靴		二
短靴		二
御帶		二
前立		二
前立		二
毛布		二
蒲團		二
衣		二
腹巻		二
折ズ		二
折ズ		二
紐		二
紐		二

(機關兵)

(水兵備置兵)

品目	甲部		乙部		丙部		丁部	
	夏期	冬期	夏期	冬期	夏期	冬期	夏期	冬期
前		一(主厨)	一(主厨)					
頭巾		一(右同)	一(右同)					
事業服上衣袴		一(軍部借傭兵)						
正服帽徽章								
通常禮服帽徽章								
臂章		附著スヘキ 衣數ニ同シ						
食器								
備考	<p>通常禮服帽徽章ハ所管領守府海兵團ノ名ヲ附シタルモノトス 夏服帽徽章ハ十月一日ヨリ翌年五月三十一日マテノ期間ニ入團シタル者ニハ六月一日ニ至リ之ヲ交 付ス 紺尾袋ハ乗艦シタルトキ之ヲ交付ス 水袋ノ古品ナキトキ又ハ在庫品ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ新品ヲ交付スルコトヲ得</p>							

第九表 (第八十四條第二項ニ依リ下士)  
(本召集ノトキ交付スル定數)

品目	甲部	乙部	丙部	丁部
夏服上衣袴	二			
軍服上衣袴		二		
通常禮服上衣袴			二	
正服上衣袴				二
夏帽	二			
正服帽		二		
雨表				二
外装				二
脚絆				二
中著				二
中著				二
脚絆				二
手袋				二
靴				二

品目	定交換	甲ノ部	乙ノ部	丙ノ部
靴	一組	一年	四箇月	五箇月
正服上衣袴	一組	一年	二箇月	三箇月
通常禮服上衣袴	一組	一年	二箇月	三箇月
軍服上衣袴	一組	一年	二箇月	三箇月
夏服上衣袴	一組	一年	二箇月	三箇月
外 套	一個	七箇月	同	同
雨 衣	一個	無	同	同
正 帽	一個	無	同	同
夏服略帽	一個	九箇月	同	同
中 著	一個	同	二箇月	同
中 著	一個	同	二箇月	同
袴	一個	同	同	同
脚 袴	一個	同	同	同

第十一表 (第八十六條ノ交換) (定數及交換期限)

備考 水袋ノ被服物品ハ古品ヲ交付シ古品ナキトキニ限り新品ヲ交付ス  
夏則冬期ノ區分ハ海軍服規則ニ依ル  
水袋ノ定數ハ召集中ノ所持スルモノトス

品目	定交換	甲ノ部	乙ノ部	丙ノ部
正服上衣袴	一組	一年	二箇月	三箇月
通常禮服上衣袴	一組	一年	二箇月	三箇月
軍服上衣袴	一組	一年	二箇月	三箇月
夏服上衣袴	一組	一年	二箇月	三箇月
外 套	一個	七箇月	同	同
雨 衣	一個	無	同	同
正 帽	一個	無	同	同
夏服略帽	一個	九箇月	同	同
中 著	一個	同	二箇月	同
中 著	一個	同	二箇月	同
袴	一個	同	同	同
脚 袴	一個	同	同	同

前	紺	折	折	腹	衣	蒲	毛	前	釧	短	靴	靴	袴	手	襪	襪	麻
足	ズ	ズ	ズ	ズ	ズ	ズ	ズ	立	帶	靴	下	下	釣	釣	飾	飾	襪
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一
個	組	個	個	個	個	個	個	個	個	個	組	組	個	組	個	個	個
九	六			四	無	無	無				四	七	七				一
箇	箇			箇							箇	箇	箇				箇
月	月			年	期	期	期				月	月	年				年
同	同	一	二	同	同	同	同				同	七			二	四	
上	上	年	箇	上	上	上	上				上	箇			箇	箇	
												七	七	六			一
												箇	箇	箇			箇
												月	年	月			年

品名	正服	常服	野服	食器	官名		事項	備考
					品名	官名		
正服上衣袴	一	一	一	一	組	個	一箇年	紺足袋ハ初メテ艦艇ニ乗組ミ若ハ砲術練習所水雷術練習所ニ入所シタルトキ又ハ其ノ交換期限満了ノ際現ニ艦艇若ハ砲術練習所水雷術練習所ニ在ル者ニ限リ交付ス 夏服時節ハ六月一日交換ス 毛布蒲團靴ハ實際使用ニ堪ヘサル員數ニ限リ交換ス
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	
	一	一	一	一	個	個	一箇年	

明治三十七年七月 海軍省第三號



品目	甲ノ部	乙ノ部	丙ノ部	丁ノ部
軍服上衣袴	-	-	-	-
夏服上衣袴	-	-	-	-
軍帽	-	-	-	-
正服帽	-	-	-	-
福袴	-	-	-	-
中袴	-	-	-	-
袴	-	-	-	-
靴	-	-	-	-
靴	-	-	-	-
正服帽徽章	-	-	-	-
通常禮服帽徽章	-	-	-	-
備考	<p>通常禮服帽徽章ハ所管領守府海兵團ノ名ヲ附シタルモノトス 夏期ノ被服ヲ給與スルトキハ併セテ冬期ノ被服ヲ給與ス 夏期ノ被服ヲ給與スルトキハ併セテ冬期ノ被服ヲ給與セス又夏期ノ被服ヲ給與 免官免役ノトキハ本表中ノ中著正服帽徽章通常禮服帽徽章付章ヲ給與セス又夏期ノ被服ヲ給與 スルトキハ冬期ノ被服ヲ給與セス</p>			

第十三表 (第九十二條ニ依リ下士卒死亡シタルトキ死體ニ著セシメ又ハ葬儀ヲ行フ者ニ下付スル定數)

品目	甲ノ部	乙ノ部	丙ノ部	丁ノ部
軍服上衣袴	-	-	-	-
通常禮服上衣袴	-	-	-	-
正服帽	-	-	-	-
靴	-	-	-	-
袴	-	-	-	-
袴	-	-	-	-
靴	-	-	-	-
靴	-	-	-	-
正服帽徽章	-	-	-	-
備考	<p>通常禮服帽徽章ハ所管領守府海兵團ノ名ヲ附シタルモノトス 夏期ノ被服ヲ給與スルトキハ併セテ冬期ノ被服ヲ給與ス 夏期ノ被服ヲ給與スルトキハ併セテ冬期ノ被服ヲ給與セス又夏期ノ被服ヲ給與 免官免役ノトキハ本表中ノ中著正服帽徽章通常禮服帽徽章付章ヲ給與セス又夏期ノ被服ヲ給與 スルトキハ冬期ノ被服ヲ給與セス</p>			

第十九表 (第四百四條ノ被服 物品容器容量)

品目	甲ノ部	乙ノ部	丙ノ部	丁ノ部
正服上衣袴	小	大	大	大
通常禮服上衣袴	小	大	大	大
正服帽	小	大	大	大
靴	小	大	大	大
袴	小	大	大	大
袴	小	大	大	大
靴	小	大	大	大
靴	小	大	大	大
正服帽徽章	小	大	大	大
通常禮服帽徽章	小	大	大	大
備考	<p>通常禮服帽徽章ハ所管領守府海兵團ノ名ヲ附シタルモノトス 夏期ノ被服ヲ給與スルトキハ併セテ冬期ノ被服ヲ給與ス 夏期ノ被服ヲ給與スルトキハ併セテ冬期ノ被服ヲ給與セス又夏期ノ被服ヲ給與 免官免役ノトキハ本表中ノ中著正服帽徽章通常禮服帽徽章付章ヲ給與セス又夏期ノ被服ヲ給與 スルトキハ冬期ノ被服ヲ給與セス</p>			



部		部		部		部	
夏服袴	正服袴	夏服略帽	襪	中著	中著	襪	正服帽
表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	絹製 襪	生厚木綿製長一尺	生厚木綿製長一尺九寸	毛織子力製長一尺一寸	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦
尺一寸二分	尺一寸二分	尺一寸二分	絹製 襪	五分	五分	尺一寸五分	尺一寸二分
法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内
一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分
上	上	上	上	上	上	上	上

部		部		部		部	
軍服袴	夏服上	夏服袴	外袴	手袋	前立毛	麻袴	正服帽
表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦	表麻織 腰廻り裏生厚木綿 鈕釦
尺一寸二分	尺一寸二分	尺一寸二分	尺一寸二分	尺一寸二分	尺一寸二分	尺一寸二分	尺一寸二分
法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内	法周 尺内
一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分	一尺八寸五分
上	上	上	上	上	上	上	上



○海軍省達第百五號

今般海軍服制改正ノ結果海軍服制服裝ニ關スル諸法令中ニ於テ「軍服」ハ「通常禮服」ニ「通常軍服」ハ「軍服」ニ改メラレタル儀ト心得ヘン

明治三十七年七月二日

海軍大臣 野村 權三

○海軍省達第百六號

艦船造修試驗檢査規則別冊ノ通改正ス

明治三十七年七月二日

海軍大臣 野村 權三

(別冊)

艦船造修試驗檢査規則

第一章 軍艦驅逐艦及水雷艇ノ製造

第一條 艦艇ヲ製造セシメントスルトキハ海軍大臣海軍艦政本部長ニ命シ共ノ計畫ヲ爲サシム

第二條 海軍艦政本部長ハ計畫圖面、製造方法書及其ノ他ノ附屬書類並豫算書ヲ調製シ起工、竣工年度及製造所ヲ定メ海軍大臣ニ提出スヘシ

第三條 海軍大臣ハ前條ノ計畫圖面等ヲ共ノ艦艇ヲ製造スヘキ海軍工廠ノ屬スル鎮守府司令長官ニ下付シ製造ヲ令達ス鎮守府司令長官ハ所屬海軍工廠長ニ命シ令達ノ起工、竣工年度及豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ製造セシムヘシ

第四條 艦艇ノ製造ニ必要ナル明細圖面ハ總テ海軍工廠ニ於テ調製スヘシ但シ製造方法書ノ指定ニ依リ協議ヲ要スルモノ又ハ圖面及製造方法書ニ明記ナキ事項ニシテ計畫上疑義ニ涉ルモノアルトキハ海軍工廠主務部長ヨリ海軍艦政本部長ニ協議ヲ遂ケ工事ニ著手スヘキモノトス

第五條 内外國私立製造所ヲレテ艦艇若ハ其ノ機械又ハ艦ノ全部ヲ製造セシメントスルトキ又ハ機械若ハ艦ノ全部ヲ購入セントスルトキハ海軍大臣海軍艦政本部長ヲシテ之ヲ處理セシム

第六條 海軍工廠長艦艇製造ノ令達ヲ受ケタルトキハ左ノ第一號及第二號ノ事項ヲ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ、第三號及第四號ノ事項ヲ直接海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

一 起工 船骨材料附及竣工 本則第五條乃至第八條ノ諸試驗及公 豫定期日

二 起工 船骨材料附及竣工 本則第五條乃至第八條ノ諸試驗及公 豫定期日

三 起工後毎三箇月ニ工事ノ程度歩合及第一號樣式ニ依リ搭載重量

四 機關据附ニ著手スルトキ

第七條 新造軍艦ノ工事進水ノ時期ニ近キタルトキハ鎮守府司令長官進水スヘキ日ヲ定メ排水量千噸以上ノモノハ三十日以前ニ海軍大臣ニ具申シ千噸未満ノモノハ十日以前ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 艦艇ノ進水ヲ執行シタルトキハ直ニ鎮守府司令長官ヨリ海軍大臣ニ報告スヘシ

第九條 鎮守府司令長官ハ新造艦艇ノ工事進行スルニ從ヒ機裝委員若ハ乘組員ヲ要スル月日ヲ豫定シ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十條 新造艦艇竣工シタルトキハ海軍工廠長之ヲ艦長 艦長ナキトキハ副 水雷艇隊司令若ハ艇長ニ引渡シ各授受了ノ旨ヲ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ其ノ艦艇他ノ鎮守府在籍ナルトキハ艦長、水雷艇隊司令若ハ艇長ハ同時ニ本籍鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第十一條 艦艇ノ進水ノ旨ヲ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ其ノ艦艇他ノ鎮守府在籍ナルトキハ鎮守府司令長官本條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十條 内國私立製造所ニ於テ製造シタル艦艇ヲ其ノ製造所ニ於テ授受シ軍港ニ回航セシメントスルトキハ海軍大臣受領スヘキ鎮守府ヲ定ム鎮守府司令長官ハ麾下ノ職員中ヨリ適宜回航委員ヲ編成シ海軍艦政本部員立會ノ上製造所長ヨリ之ヲ受領シ軍港ニ回航セシムヘシ

第十一條 前條ノ艦艇軍港ニ回航シタルトキハ海軍工廠長之ヲ受領シ兵裝及其ノ他未済ノ工事アラハ之ヲ完了シ第九條ニ依リ授受及報告ヲ爲スヘシ

第十二條 新造艦艇試運轉及諸試験ヲ了セシテ授受ヲ必要トスルトキハ鎮守府司令長官其ノ理由ヲ具シ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 海軍工廠長ハ第二號甲様式ノ要目簿及第三號目錄ニ掲ケル圖面等ヲ調製シ艦艇授受ノ際之ヲ艦長、水雷艦隊司令若ハ艇長ニ交付シ其ノ艦艇他ノ鎮守府在籍ナルトキハ尙本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿ヲ送付スヘシ

第十四條 内國私立製造所ニ於テ製造シタル艦艇ノ要目簿及圖面等ハ海軍艦政本部長ヨリ本艦艇ヲ受領シタル海軍工廠長ニ送付シ工廠長之ヲ艦長、水雷艦隊司令若ハ艇長ニ交付スヘシ其ノ艦艇他ノ鎮守府在籍ナルトキハ海軍艦政本部長ハ尙本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿ヲ送付スヘシ

第十五條 前項ノ艦艇工事完了セサルモノナルトキハ海軍艦政本部長ハ其ノ工事ノ程度ニ應シタル要目簿及圖面等ヲ本艦艇ヲ受領シタル海軍工廠長ニ送付ス海軍工廠長ハ之ヲ完成シ艦艇授受ノ際艦長、水雷艦隊司令若ハ艇長ニ交付シ尙本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿ヲ送付スヘシ

第十六條 外國ニ於テ製造ヲ完了シタル艦艇ノ要目簿及圖面等ハ當該造船監督官ヨリ艦長若ハ艇長ニ交付シ

尙海軍艦政本部長ヨリ其ノ艦艇ノ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿ヲ送付スヘシ

第十五條 海軍工廠長ハ第四號甲様式ノ明細簿及第五號目錄ニ掲ケル完成圖面等ヲ調製シ新造艦艇竣工ノトキ之ヲ海軍艦政本部長ニ送付シ其ノ艦艇他ノ鎮守府在籍ナルトキハ尙本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ之ヲ送付スヘシ

内外國私立製造所ニ於テ製造ヲ完了シタル艦艇ノ明細簿及完成圖面等ハ海軍艦政本部長ヨリ其ノ艦艇ノ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ送付スヘシ

第十六條 新造艦艇ニ初度備附ヘキ艦營需品中ノ備品、水路測器及定備療用品ハ其ノ艦艇ノ製造費ノ支辨トシ備品ハ其ノ艦艇ヲ製造スル海軍工廠、測器及療用品ハ該工廠所在地ノ海軍測器庫及海軍病院ニ於テ調製シ各其ノ經理規程ニ依リ供給スヘシ

第十七條 内外國私立製造所ニ於テ製造スル艦艇ニ備附ヘキ艦營需品中ノ備品、水路測器及定備療用品ニテ其ノ製造所ニ於テ供給セシメサルモノアルトキハ海軍大臣其ノ調製供給應ヲ定メ鎮守府司令長官ニ令達ス

第十八條 内外國私立製造所ニ於テ製造シタル艦艇ニ既ニ備附ケアル艦營需品中ノ備品、水路測器及定備療用品ハ其ノ艦船ニ於ケル各兵備品取扱主任ニ於テ之ノカ品名員數等ヲ詳記シ本籍鎮守府兵備品會計官吏ニ報告スヘシ兵備品會計官吏ハ各其ノ經理規程ニ依リ處理シ同時ニ其ノ詳細ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十九條 海軍工廠長ハ工務ノ都合ニ依リ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ艦艇ノ船體機關ノ一部又ハ其ノ屬具ノ工事ヲ他ノ海軍工廠又ハ内國私立製造所ニ依託スルコトヲ得但シ機械又ハ艦ノ全部ノ製造ヲ依託セントスルトキハ豫メ海軍艦政本部長ノ承認ヲ得テ鎮守府司令長官ノ認可ヲ

受クヘシ

第二十條 内外國ニ於テ艦艇ノ組立ヲ爲サシムルトキハ總テ製造ノ手續ニ準シ本章各條ノ規定ヲ適用スルモノトス

第二章 雜役船ノ製造

第二十一條 雜役船ノ製造ヲ要スルトキハ鎮守府司令長官ニ於テ大體ノ要領書ヲ製シ起工、竣工年度ヲ豫定シ所要ノ理由ニ第六號様式ノ豫算書ヲ添ヘ起工年度ノ歳出概算書提出期日迄ニ海軍大臣ニ提出スヘシ海軍大臣ハ當該年度ノ豫算決定ノ上其ノ製造ヲ鎮守府司令長官ニ令達ス但シ要港部司令官、水路部長、學校長及練習所長雜役船ノ製造ヲ必要トスルトキハ本文提出期日前ニ其ノ船舫ノ屬スヘキ本籍鎮守府司令長官ニ要求スヘシ

第二十二條 鎮守府司令長官前條ノ令達ヲ受ケタルトキハ竣工期日ヲ定メ左記ノ計畫圖面及目錄類ヲ提出シ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ海軍工廠長ヲシテ製造セシムヘシ

- 船體部圖面
  - 線圖 船内側面圖 諸甲板圖 船艙平面圖 最大幅橫斷圖 檣帆裝置圖
  - 機關部圖面
  - 機關全體裝置圖 箭ノ明細圖 艦ノ明細圖
  - 目錄類
  - 船體製造方法書 機關製造方法書 排水量及復原點等ノ曲線(噸位排水量五百噸以上ノモノ)
  - 豫算明細書
- 右圖面及目錄類ノ外ニ雜役船ノ種類ニ依リ必要トスルモノアルトキハ之ヲ附加スヘシ又不用トスルモノハ之ヲ除クヘシ

スルモノハ之ヲ除クヘシ

第二十三條 前條ノ圖面及目錄類ハ海軍大臣海軍艦政本部長ヲシテ審査セシム

第二十四條 外國私立製造所ヲシテ雜役船若ハ其ノ機械又ハ艦ノ全部ヲ製造セシメントスルトキハ海軍大臣海軍艦政本部長ヲシテ之ヲ處理セシム

第二十五條 海軍大臣ハ必要ニ應ジ雜役船ノ製造ヲ第一條乃至第四條ニ依リ鎮守府司令長官ニ令達スルコトアルヘシ

第二十六條 端舟通船及傳馬船ハ第七號表ノ規定ニ依リ製造シ第二十二條ノ圖面及目錄類ノ提出ヲ要セス

第二十七條 海軍工廠長ハ工務ノ都合ニ依リ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ雜役船ノ船體、機關又ハ其ノ屬具ノ工事ヲ他ノ海軍工廠又ハ内國私立製造所ニ依託スルコトヲ得但シ船體、機械又ハ艦ノ全部ノ製造ヲ依託セントスルトキハ豫メ海軍艦政本部長ノ承認ヲ得テ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ載荷排水量五百噸未満ノ無汽裝雜役船ニ關スルトキハ但書ヲ適用セス其ノ旨海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第二十八條 鎮守府司令長官雜役船ヲ製造セシムルニ方リ其ノ機械又ハ艦ノ全部ヲ購入セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 海軍工廠長雜役船ノ製造ニ著手シタルトキハ其ノ起工及竣工ノ年月日ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ私立製造所ニ於テ製造スルトキ亦同シ

第三十條 新造雜役船ノ進水ヲ執行シタルトキハ其ノ旨海軍工廠長ヨリ海軍艦政本部長ニ報告

スヘシ但シ載貨排水量五百噸未満ノ無汽裝雜役船ニ在リテハ報告ヲ要セス

第三十一條 海軍工廠長雜役船製造ノ令違フ受ケタル後其ノ計畫ニ變更ヲ加フルノ必要ヲ認メタルトキハ豫メ海軍艦政本部長ノ承認ヲ得テ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 新造雜役船竣工シタルトキハ海軍工廠長之ヲ其ノ所屬艦船其ノ他各部ノ長ニ引渡シ第九條ニ依リ報告ヲ爲スヘシ但シ事故ニ依リ竣工後一箇月以内ニ艦船其ノ他各部ノ長之ヲ受領スルコト能ハサル場合ニハ海軍港務部長之ヲ受領シ保管スヘシ

第三十三條 内國私立製造所ニ於テ製造シタル雜役船ヲ其ノ製造所ニ於テ授受シ軍港ニ回航ヲ要スルモノハ第十條ニ依リ海軍工廠員立會ノ上製造所長ヨリ之ヲ受領シ軍港ニ回航シタルトキハ

第三十四條 内國私立製造所ニ於テ製造シタル雜役船ニシテ軍港ニ於テ授受スルモノ若ハ契約ニ定メタル場所ニ於テ授受シ回航ヲ要セサルモノハ海軍工廠長之ヲ製造所長ヨリ受領シ第三十二條ニ依リ授受シ第九條ニ依リ報告ヲ爲スヘシ

第三十五條 海軍工廠ニ於テ組立テ又ハ私立製造所ニ組立テ依託スル雜役船ニ關シテハ總テ製造ノ手續ニ準シ本章各條ノ規定ヲ適用スルモノトス

第三十六條 試運轉及諸試驗ヲ了セスシテ雜役船ヲ授受セントスルトキハ海軍工廠長其ノ理由ヲ具シ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ其ノ旨海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第三十七條 海軍工廠長ハ第二號甲乃至丙様式ノ要目簿及第三號目錄ノ圖面等ヲ調製シ新造雜役船授受ノ際之ヲ其ノ所屬艦船其ノ他各部ノ長ニ交付シ其ノ船舟他ノ鎮守府在籍ナルトキハ尙本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ其ノ要目簿ヲ送付スヘシ

第三十八條 海軍工廠長ハ第四號甲乃至丙様式ノ明細簿及第五號目錄ノ圖面等ヲ調製シ新造雜役船竣工ノトキ之ヲ海軍艦政本部長ニ送付シ其ノ船舟他ノ鎮守府在籍ナルトキハ尙本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ之ヲ送付スヘシ

第三十九條 新造雜役船ノ艦營用品中ノ備品水路測器ハ第十六條第十七條及第十八條ニ依リ處理スヘシ

第三章 艦船ノ修理、改造、附屬物ノ増減及引換

第四十條 露底艦船ハ六箇月乃至十二箇月、驅逐艦及水雷艇ハ四箇月乃至六箇月ニ一回入渠若ハ上梁シ底部ヲ検査シ塗換ヲ爲スヘシ又包底艦船ハ六箇月毎ニ潜水者ヲシテ底部ヲ検査セシメ必要アルトキニ於テノミ入渠又ハ上梁スルモノトス

前項ノ如ク入渠ノ時期ヲ定ムト雖モ時々潜水者ヲシテ底部ヲ検査セシメ底部ノ狀況不良ニシテ其ノ儘差置キ難キトキハ速ニ入渠ノ手續ヲ爲スヘシ又其ノ狀況ニシテ塗換ノ必要ナキトキハ時期ヲ經過スルモ入渠ヲ爲スヘカラス但シ遠洋航海ヲ爲ス等ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第四十一條 艦船ノ修理、改造、附屬物ノ増減、引換及入渠以下單ニ修理等ト稱スヲ要スルトキハ艦船其ノ他各部ノ長ハ詳細ニ其ノ理由ヲ記シ艦隊及要港部ニ屬スル艦船ハ所屬長官ヲ經テ其ノ艦船ノ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ請求スヘシ

艦船本籍鎮守府所在地外ノ軍港ニ於テ修理等ヲ要スルモ役務其ノ他ノ都合ニ依リ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ請求スルノ限ナキトキハ艦船其ノ他各部ノ長ハ所屬長官同所ニアリ其ノ所在地ノ海軍工廠長ニ請求スルコトヲ得

第四十二條 軍港ト遠隔シタル地ニ於テ艦船ニ修理等ノ必要ヲ生シ其ノ所在地ニ於テ施行セザル



ヘカヲサルトキハ其ノ理由ヲ記シ艦船其ノ他各部ノ長ヨリ所屬長官同所ニア最寄海軍工廠長ニ請求スヘシ但シ其ノ地方ニ工事ヲ依託シ得ル工場ノ有無ヲ附記スヘシ

第四十三條 海軍工廠長艦船修理等ノ請求ヲ受ケタルトキハ精細ニ其ノ要否緩急ヲ調査シ至當ト認メタルモノハ本則ノ規定ニ依リ豫算定額ノ範圍内ニ於テ工事ヲ施行スヘシ

第四十四條 海軍工廠長ハ艦船ノ修理、附屬物ノ引換又ハ豫備品ノ補充ヲ必要ト認メタルトキハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケテ工事ニ著手スヘシ其ノ工事ニシテ當該年度内ニ竣工セサルモノハ其ノ工事ヲ各年度ニ區分シ之ニ要スル入費概算書ヲ添ヘ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十五條 海軍工廠長艦船ノ改造、附屬物ノ増減、變更又ハ搭載物ノ位置變更ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ理由書ニ左ノ書類ヲ添ヘ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 一庫毎ノ工事方案 一面ヲ要スルモノハ之ヲ添ヘ又一面毎ニ順次番號ヲ付スヘシ

二 一庫毎ノ工事日數及工費材料費概算書

三 全工事ノ竣工期日及工費材料費總概算書

四 改造等ニ依リ艦船ノ重量ニ變更ヲ及ボスモノハ第八號様式ノ重量増減表

五 工事二箇年度以上ニ亘ルモノナルトキハ各年度ニ要スル入費概算書

第四十六條 兵器簿ノ改正其ノ他令違ノ結果ニ依リ艦船ノ機裝及附屬物ノ増減、變更ヲ要スルトキハ海軍工廠長ハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケテ工事ニ著手シ工事方案入費調書及重量増減表ヲ添ヘ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第四十七條 艦船備附ノ汽艇、端舟及通船ヲ増備若ハ引換ノ爲製造スルトキハ艦船ノ修理費ヲ以

テ支辨シ第二十一條ヲ除キ總テ第二章ノ規定ニ依ルヘシ但シ原形通りノモノト引換フル場合ニハ第二十二條第三十七條及第三十八條ヲ適用セズ

艦船ニ搭載スル水雷艇ヲ引換ノ爲製造セントスルトキハ總テ第二章ノ規定ニ依ルヘシ但シ其ノ入費概算書ハ第四十八條ニ依リ提出スヘシ

第四十八條 艦船ノ艦入換其ノ他特定修理ヲ要スルトキハ鎮守府司令長官其ノ施行年度及入費概算ヲ定メ當該年度ノ前々年度十二月迄ニ海軍大臣ニ提出スヘシ海軍大臣ハ當該年度ノ豫算決定ノ上其ノ施行方ヲ鎮守府司令長官ニ令達ス

第四十九條 海軍工廠長第四十二條ノ請求ヲ受ケ其ノ地方ニ於テ施行セサルヲ得サルモノト認ムルトキハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ該艦船長ニ依託シテ便宜ノ製造所ニ於テ工事ヲ施行セシメ又ハ材料ヲ送付シ技術官、職工ヲ派遣シ工事ヲ施行セシムヘシ但シ工事著手方ハ第四十四條及第四十五條ニ依ルヘシ又其ノ艦船他ノ鎮守府在籍ノモノナルトキハ第五十一條ニ依ルヘシ

鎮守府司令長官前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨直ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五十條 鎮守府司令長官前條ノ場合ニ於テ他ノ海軍工廠ヨリ材料ヲ送付シ技術官、職工ヲ派遣スルヲ便宜ト認ムルトキハ便宜ノ鎮守府司令長官ニ要求スヘシ其ノ要求ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ所屬海軍工廠長ヲシテ前條ニ依リ工事ヲ施行セシメ其ノ旨直ニ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五十一條 海軍工廠長ハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ當該鎮守府在籍艦船ノ検査及修理等ヲ他ノ海軍工廠長ニ要求スルトコトヲ得其ノ要求ヲ受ケタル海軍工廠長ハ其ノ艦船未タ要求元海軍工廠ノ調査ヲ經サルモノナルトキハ精細ニ之ヲ調査シ至當ト認メタルモノハ工事方案、竣工期限、入費概算ヲ定メ要求元海軍工廠長ニ協議シ第四十四條及第四十五條ノ手續ヲ爲シ工事ヲ施行ス

ハシ第四十一條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキ亦同シ但シ其ノ工事急施ヲ要スルモノナルトキハ修理又ハ引換ニ限リ入費概算ノミヲ協議シ工事着手ノ後方案等ヲ送付スルコトヲ得

前項ノ協議ヲ受ケタル海軍工廠長ハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ其ノ協議ニ應スヘシ

第五十二條 艦船航海中其ノ安危ニ關シ又ハ航行ヲ妨クル等ノ爲修理等ヲ要シ第四十一條及第四十二條ニ依ルノ違ナキトキハ其ノ所屬長官ニ報告シ在リテハ艦船其ノ他各部ノ長於テ便宜之ヲ處理シ其ノ理由書ニ工事日數、入費明細書ヲ添ヘ本鎮守府司令長官ニ報告スヘシ鎮守府司令長官ハ之ヲ審査シ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五十三條 海軍工廠長ハ職務ノ都合ニ依リ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ艦船修理等ノ工事ヲ私立製造所ニ依託スルコトヲ得

海軍工廠長前項ニ依リ私立製造所ニ工事ヲ依託シ又ハ第四十四條及第四十五條ニ依リ海軍大臣ノ認可ヲ受ケタル工事ヲ他ノ海軍工廠ニ移シタルトキハ其ノ旨海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第五十四條 海軍工廠長艦艇ノ修理等ニ著手シ又ハ艦船ヲ入渠シシメタルトキハ工事區分別ノ入渠ノ目的、船渠番號及竣工又ハ出渠ノ期日ヲ記シ爾後其ノ期日ニ異動ヲ生シタルトキ及竣工、出渠シタルトキハ其ノ都度鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ私立製造所ヘ工事ヲ依託シタルモノ亦同シ但シ戰時事變ニ際シテハ電信ニテ報告スヘシ

第四章 艦船ノ著色、著標

第五十五條 艦船外部ノ著色ハ左表ニ依ルヘシ

艦船外部著色規定	軍艦											
	水艦				格				水			
	水艦			格			水			艦		
	水	汽	雜	水	汽	雜	水	汽	雜	水	汽	雜
外艦全部並外艦ノ上 部以下ニアル大砲其 他艦外ノ附著物	黒	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠
	黒	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠
煙突、橋桁、斜桁、コ リソク、アンカー、デ ザイント、全部	黒	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠
司令塔、艦橋、通風筒、 「ケーシング」等	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠
一 軍艦ノ格ハ「トラス」下約十呎ノ所迄此ノ部分ニ取附タルモノ及最上甲板以下ノ鼠色トス	黒	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠
二 鼠色及黄色ノ煙突ノ頭部ハ左ノ深サヲ黒色ト爲スヘシ	黒	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠	鼠

- 一 圓形ノ煙突ハ其ノ直徑ノ三分ノ一
- 二 等巡洋艦艦ノ水雷艇ノ煙突ハ其ノ直徑ノ全徑
- 三 艦ノ直徑ヲ異ニスル煙突ハ其ノ最大直徑ノ三分ノ一
- 四 艦ノ直徑ニ搭載スル水雷艇ノ「ラッピンダ」ビスハ黒色トス但シ眞鍮ノ覆ヒアルモノヲ除ク
- 五 汽艇及端舟ノ「ガソネル」ハ乗御用、司令官官、司令官及艦長用ニ在リテハ「ヴァ」ニシテ塗トシ其ノ他ハ黒色トス
- 六 雜役船ニシテ後部ヲ要セサルモノハ著色セズ
- 七 艦艇ニシテ戰時等ニ際シ外部ノ著色ヲ變更シタルトキハ其ノ旨所屬長官ヨリ海軍大臣ニ報告スヘシ其ノ著色ヲ規定ニ復シタルトキ又同シ

第五十六條 艦船ノ船内及上甲板ノ内舷下部ノ塗料ハ總テ白色トシ鐵鋼製ノ船口線等及上甲板ノ内舷下部汚レ易キ部分ニ依リ伸縮スルコトヲ得

第五十七條 外舷ノ塗料ハ露底ノ艦艇ニ在リテハ常備狀態水線上適宜ノ所ニ於テ之ヲ止メ而シテ該線以下ハ總テ防藻塗料ヲ施スヘシ又包底艦艇ニ在リテハ其ノ金屬包板ニ於テ之ヲ止ムヘシ但シ重量増加若ハ「ツリ」ノ變更ニ依リ常備狀態水線ニ變更ヲ生シタルトキハ速ニ其ノ新水線ニ基キ塗料スヘシ

水線上ノ高サ  
 前部 艦艇ニ在リテハ船ノ幅ノ三十分ノ一  
 後部 艦艇及水雷艇ニ在リテハ船ノ幅ノ二十分ノ一  
 中央部 艦艇ニ在リテハ船ノ幅ノ三十分ノ一  
 後部 艦艇及水雷艇ニ在リテハ船ノ幅ノ二十分ノ一  
 中央部及前部ノ高サノ平均

第五十八條 艦船ハ其ノ喫水ヲ標識スル爲船首及船尾ノ兩側ニ喫水標ヲ附著スヘシ其ノ法左ノ如ク

船ノ長サノ中央部ニ於ケル船脊骨下面ノ直線部ヲ前後ニ延長シタル線ヲ基礎トシ船首ニ於テハ船首骨ノ前面ト計畫水線ト交叉シタル點ニ於ケル垂線ノ高サヲ測リ船尾ニ於テハ船尾骨ノ後面ト計畫水線ト交叉シタル點ニ於ケル垂線ノ高サヲ測リ基礎線ト垂線ト交叉シタル點ヲ零點トシ計畫水線以上ニ二呎ノ所迄船首骨及船尾骨ノ基礎線ト垂線ト交叉シタル點ニ至ル迄一呎毎ニ數字ヲ下ニ標記スヘシ但シ船尾ノ他螺旋推進器等ニシテ本文ノ基礎線ヨリ下ニ垂下スルモノアルトキハ船尾ノ喫水ハ其ノ垂下物ノ下端ニ於ケル垂線ノ高サヲ測リ船尾骨ニ沿フテ標記スヘシ

第五十九條 軍艦ハ艦首正面ニ徽章トシテ金色ノ御紋章ヲ附著スルモノトス其ノ形状寸法ハ海軍工廠長之ヲ定メ海軍艦政本部長ノ承認ヲ受クヘシ

第六十條 艦艇名ハ平假名、雜役船名ハ漢字ヲ以テ船體ノ左ノ箇所ニ總テ右ヨリ始メ横列ニ附著スヘシ其ノ書體及寸法ハ海軍工廠長之ヲ定メ海軍艦政本部長ノ承認ヲ受クヘシ

軍艦及雜役船ハ船尾ノ最後面又ハ船尾兩側ノ見易キ所  
 驅逐艦及水雷艇ハ中央部ノ兩舷外及船尾ノ最後面又ハ船尾兩側ノ見易キ所  
 軍艦名ノ文字ハ金色、驅逐艦及水雷艇名ノ文字ハ黒色、雜役船名ノ文字ハ白色、外舷白色ノモノトス、驅逐艦及水雷艇ニシテ戰時等ニ際シ外舷ノ著色ヲ變更シ其ノ艦艇名ヲ識別シ難キトキハ適宜鮮明ナル塗色ニ改メ其ノ旨所屬長官ヨリ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六十一條 雜役船ニシテ名稱ヲ要スルモノハ海軍工廠長之ヲ定メ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大

臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 名稱ヲ附セサル水雷艇汽艇ニ搭艦ス及雜役船ニハ海軍艦政本部長ヲシテ公稱番號ヲ付與セシム  
 公稱番號ハ水雷艇ニ在リテハ第六十條ノ艇名ヲ附著スル所ニ汽船及端舟ニ在リテハ船内適宜  
 ノ箇所ニ其ノ他ノ雜役船ニ在リテハ船舟ノ兩舷外ニ漢字ヲ以テ右ヨリ始メ横列ニ附著スヘシ  
 其ノ色ハ白色ノ船ニハ黑色、黑色ノ船ニハ白色トシ其ノ文字ノ寸法ハ海軍工廠長之ヲ定ムヘシ  
 第六十二條 艦艇備附ノ水雷艇、汽艇、端舟其ノ他名稱ヲ附セサル汽艇、端舟乘御用司令官及司令  
 ハ其ノ所屬ヲ識別スル爲目標ヲ附ス其ノ目標ハ本艦艇及所屬團部隊校名ノ平假名ノ内頭字一字  
 若ハ頭字ヲ加ヘ二字或ハ三字ヲ左記ノ寸法ニ依リ縱ニ船首ノ兩舷外ニ附著スヘシ其ノ色ハ艦長  
 用端舟ハ金色、其ノ他白色ノ船ニハ黑色、黑色ノ船ニハ白色トシ其ノ文字及書體ハ海軍艦政本部  
 長之ヲ定ム

一字ノ目標 縱四吋半  
 二字ノ目標 一字ノ縱三吋四分ノ一  
 三字ノ目標 三字ニテ縱七吋  
 公稱番號ヲ附シタル水雷艇備附ノ端舟ニハ第六十一條第三項中雜役船ノ例ニ依リ本艇ノ公稱番  
 號ヲ船首ノ兩舷外ニ附著スヘシ  
 司令官及司令官乘用ノ汽艇、端舟ハ該官相當ノ旗章圖艦八吋ヲ目標トシテ船首ノ兩舷外ニ附  
 著スヘシ  
 第六十三條 艦船内諸室諸倉庫ノ名稱左ノ如シ

- 將官室
- 參謀長寢室
- 將官公室
- 幕僚事務室
- 將官寢室
- 艦隊機關長室
- 參謀長室
- 副官室

副官事務室	艦(船)長室	艦(船)長公室	艦(船)長寢室
副長室	航海長室	砲術長室	水雷長室
機關長室	分隊長室	軍醫長室	主計長室
軍醫官室	主計官室	士官室	士官次室
機關官事務室	主計官事務室	士官病室	藥劑室
准士官室	掌砲長室	治療室	消毒器室
掌水雷長室	掌帆長室	兵曹長室	上等兵曹室
機關兵曹長室	上等機關兵曹室	船匠長室	船匠師室
上等信號兵曹室	軍樂長室	軍樂師室	筆記長室
上等筆記室	看護長室	看護師室	前任衛兵伍長詰所
下士室	下士卒病室	將官食器室	艦(船)長食器室
士官食器室	士官次室食器室	准士官食器室	將官浴室
艦長浴室	士官浴室	士官次室浴室	機關官浴室
准士官浴室	機關兵浴室	下士卒浴室	士官病室附浴室
下士卒浴室附浴室	士官次室洗面所	將官廁	艦長廁
士官廁	士官次室廁	准士官廁	下士廁
卒廁	士官病室附廁	下士卒病室附廁	禁錮室
將官糧食庫	艦(船)長糧食庫	士官糧食庫	士官次室糧食庫
准士官糧食庫	糧食庫	醬油庫	酒保

藥品庫	火藥庫	彈庫	速射砲彈藥庫
機砲彈藥庫	準備彈藥庫	小銃彈藥庫	米庫
麵粉庫	水庫	火酒庫	揮發油庫
網庫	鐵鎖庫	帆布庫	塗具庫
塗具室	燈具室	石炭庫	砂庫
測器室	經緯儀室	海圖室	無線電信室
軍樂器室	舵取室	舵取機械室	舵柄室
補助機械室	發電機室	水雷發射管室	水雷庫
水雷頭庫	電話交換室	製水機室	冷却機室
水壓唧筒室	蒸溜器室	通風機室	空氣壓榨機室
反裝水雷室	發火電輪室	水雷要具格納所	綿火藥庫
爆發藥庫	筆記事務室	厨宰事務室	機械室
儲室	補助儲室	機關工場	兵器工場
水雷工場	鍛冶工場	木工工場	火藥庫燈室
彈庫燈室	速射砲彈藥庫燈室	機砲彈藥庫燈室	小銃彈藥庫燈室
火酒庫燈室	揮發油庫燈室	水タンク室	將官烹炊室
士官烹炊室	兵員烹炊室	廚室	物品交付室
被服庫	主計用品庫	掌砲科要具庫	掌水雷科要具庫
掌帆科要具庫	機關科要具庫	船匠科要具庫	信號旗格納所

信號器具格納所

薪炭庫

諸室諸倉庫ノ名稱ハ必要ニ應シ具餘板ニ刻記シ室外見易キ所ニ標著スヘシ又新ニ名稱ヲ附スヘキ場所ヲ要スルトキハ海軍工廠長其ノ名稱ヲ定メ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十四條 艦船ニ設備シタル諸管及電路線ハ總テ第九號表ニ依リ著色區別スヘシ

第五章 艦船ノ機關試運轉

第六十五條 艦船ノ機關試運轉ヲ分テ左ノ三種トス

一 豫行試運轉

二 新造公試運轉

三 修理改造公試運轉

第六十六條 豫行試運轉ハ第六十七條及第六十八條ノ公試運轉ヲ執行スルニ先テ豫メ機關ノ運轉ヲ試驗スルノ必要アルトキ豫留又ハ碇泊ノ儘若ハ汽走中之ヲ執行スルモノトス但シ其ノ方法ハ海軍工廠長ノ必要ト認ムルモノニ依ル

第六十七條 新造公試運轉ハ新造艦艇又ハ機械若ハ艦ヲ入換タル艦艇ニ就キ其ノ機關ノ完全ナルヤ否及馬力ト速力トノ關係如何ヲ試驗スル爲執行スルモノトス但シ其ノ方法等ハ第七十七條及第七十八條ニ依ル

第六十八條 修理改造公試運轉ハ左ノ場合並方法ヲ以テ執行スルモノトス

一 機關ノ總檢査ヲ行ヒ修理結了シタルトキ若ハ機關ニ大修理改造ヲ施シタルトキ其ノ修理等

完全ナルヤヲ試驗スル爲自然通風全力小管式水管艦ニ在リテハヲ以テ四時間ノ繼續運轉ヲ爲スモノトス但シ噴水ハ艦艇ノ常備状態ニ於ケルモノトシ船底ノ狀況ハ清潔ナルヲ要ス

二 推進器ヲ變更シ若ハ船體機關ニ著シキ修理改造ヲ加ヘ馬力ト速力トノ關係如何ヲ試驗スルノ必要アルトキ第七十七條中必要ト認メタル事項及第七十八條ニ依リ執行スルモノトス

第六十九條 各艦艇ハ第六十七條ノ公試運轉成績ニ於ケル全力ヲ以テ其ノ艦艇ノ標準全力トシ修理改造公試運轉ノ全力ニシテ標準全力ト差違アル場合ト雖モ全力ノ五分ノ四、五分ノ三、五分ノ二、五分ノ一等ノ速力ハ標準全力ニ依ルヘシ

第七十條 試運轉中艦艇ノ指揮官及機關運轉ノ主任者ハ左ノ職員ヲ以テ之ニ充フルモノトス

艦艇指揮官

艦艇長 ナキトキハ副長

豫備艦ニシテ艦長副長ナキトキハ豫備艦部長

其ノ他ノ艦艇ハ港務部長

機關運轉主任者

未成艦艇ハ海軍工廠造艦部長

修理改造ノ試運轉及第七十三條ノ試運轉ハ軍艦ニ在リテハ本艦機關長、機關長ナキトキハ豫備艦部機關長、驅逐艦ニ在リテハ本艦ノ機關官、機關官ナキトキハ豫備艦部機關長、水雷艦ニ在リテハ水雷團機關長、水雷團ニ屬セサル水雷艦ニ在リテハ其ノ所屬團ノ機關官

第七十一條 海軍工廠長第六十五條ノ試運轉ヲ執行スヘキ時期ニ達シタルトキハ其ノ執行期日ヲ

豫定シ鎮守府司令長官ニ具申スヘシ鎮守府司令長官ハ豫行試運轉ニ在リテハ前條ノ指揮官及主任者共ノ他必要ナル部下ノ職員ニ命シ公試運轉ニ在リテハ前條ノ指揮官及主任者共ノ他必要ナル部下ノ職員並其ノ艦艇ノ乗員ヲ適宜選定シテ公試運轉委員ヲ編成シ之ヲ執行セシムヘシ

第七十二條 鎮守府司令長官艦艇ノ試運轉ヲ其ノ麾下ニ於テ執行シ能ハサルカ又ハ他ノ鎮守府ニ於テ執行スルヲ便宜ト認ムルトキハ他ノ鎮守府司令長官ニ之ヲ依託スルコトヲ得

第七十三條 外國ニ於テ製造シタル艦艇本邦ニ回著シタルトキハ其ノ艦艇ノ本籍鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ六箇月以内ニ第六十五條ノ第一號及第二號ノ試運轉ヲ執行スヘシ但シ第一號ノ試運轉ヲ必要トセサルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第七十四條 艦艇ノ試運轉ヲ執行スル時日確定シタルトキハ海軍工廠長之ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ但シ其ノ報告ハ海軍艦政本部長試運轉臨見員ヲ派遣スルニ充分ナル時日アルヲ要ス

第七十五條 艦艇ノ公試運轉終了シタルトキハ公試運轉委員ヨリ直ニ其ノ成績ノ要點ヲ摘記シ鎮守府司令長官ニ報告シ又第十號様式ニ依リ其ノ成績表ヲ關製シ一週間以内ニ鎮守府司令長官ニ提出スヘシ但シ成績表ニハ各委員署名スヘシ

第七十六條 鎮守府司令長官前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ海軍大臣ニ電報シ其ノ成績表ヲ受領シタルトキハ一通ヲ海軍大臣ニ進達シ一通ヲ本艦艇長ニ交付スヘシ又其ノ艦艇他ノ鎮守府在籍ナルトキハ尚本籍鎮守府司令長官ニ一通ヲ送付スヘシ

第七十七條 艦艇ノ試運轉ニ關シテハ第七十八條ニ規定シタルモノ、外左ノ各號ニ依ルヘシ

一 石炭ハ艦營用品ノ第一種炭若ハ之ト同等ノモノヲ使用スヘシ

二 指壓器ハ海軍工廠備附ノモノヲ使用スヘシ

- 三 試運轉中ハ特ニ規定シタル場合ノ外指壓圖畫撥方其ノ他成績表ニ掲クヘキ諸目ノ登録方ハ每三十分ニ之ヲ行フヘシ
- 四 公試運轉執行中規定ノ全力試航時間外ニ於テ機械ノ發動、停止及後進試航ヲ行フヘシ
- 五 公試運轉ヲ執行スルトキハ其ノ出航ニ先テ操舵機械、消防機械、車地機械其ノ他必要ノ補助機械ヲ試験スヘシ
- 六 標柱間ヲ航行スル公試運轉ニ於テハ標柱間ニ入ラサル前ヨリ全ク公試運轉ヲ終ル迄機械ヲシテ絶エス齊一ノ度合ニ於テ働作セシムヘシ
- 七 公試運轉ノ航行標柱間ノ距離ハ軍艦ニ在リテハ約四海里乃至十二海里、驅逐艦ニ在リテハ約四海里、水雷艇ニ在リテハ約一海里乃至四海里ト爲シ成ルヘク長距離ヲ撰ムヘシ
- 第七十八條 第六十七條ノ新造公試運轉ノ機關試驗ハ製造方法書ニ規定シタル方法ニ依リ又馬力ト速力トノ關係ニ就テハ軍艦ニ在リテハ左記第一號乃至第五號、驅逐艦及水雷艇ニ在リテハ第六號乃至第八號ノ方法及程度ニ依ルヘシ
  - 一 圓艦若ハ大管式水管艦ニ在リテハ強壓通風全力、自然通風全力ニテ各標柱間ヲ順潮二回、逆潮二回試航シ其ノ各速力ト定ムヘシ又自然通風全力ノ五分ノ四、五分ノ三、五分ノ二、五分ノ一及十海里ニ對スル馬力ニテ各標柱間ヲ順潮二回、逆潮一回以上試航スルモノトス
  - 小管式水管艦ニ在リテハ強壓通風全力ニテ標柱間ヲ順潮二回、逆潮二回試航シ其ノ各速力ノ第二平均ヲ以テ一時間ノ全速力ト定ムヘシ又強壓通風全力ノ十分ノ八ニテ標柱間ヲ順潮二回、逆潮二回強壓通風全力ノ十分ノ六、十分ノ四、十分ノ三、十分ノ二及十海里ニ對スル馬力ニ

- テ各標柱間ヲ順潮一回、逆潮一回以上試航スルモノトス
- 二 自然通風全力ヲ以テ六時間ノ航續試驗ヲ執行スヘシ但シ本試驗ノ前項ノ標柱間自然通風全力公試運轉ニ引續キ執行スルトキハ其ノ時間ヲ含有セシムルコトヲ得又本試驗ニ於ケル速力ハ標柱間ノ自然通風全力公試運轉ニ於テ得タル毎分時平均回轉數ニ依ルヘシ
- 三 指壓圖ハ標柱間ノ各試航中ニ畫撮スヘシ
- 四 標柱間試航中ハ其ノ總回轉數ヲ計測スヘシ
- 五 公試運轉ハ艦艇ノ常備狀態ニ於ケル喫水ヲ以テ執行シ其ノ船底ノ狀況ハ清潔ナルヲ要ス
- 六 驅逐艦及水雷艇ノ強壓通風全力公試運轉ハ最初標柱間ヲ三回試航シ後引續キ一時間ノ航行航路ハ成ルヘクヲ爲シ然ル後引續キ再ヒ標柱間ヲ三回試航スルモノトス
- 七 前項標柱間ノ每試航ニ於テ螺旋推進器ノ全回轉數ヲ測リ之ヲ以テ標柱間ノ距離ヲ除シ各試航ニ於ケル一回轉毎ノ速力ヲ求メ而シテ第一、第二、第四、第六試航ニ於テ得タル一回轉毎ノ速力ヲ合セ之ニ第二、第五試航ニ於テ得タル一回轉毎ノ速力ヲ各倍シテ加ヘ此ノ合數ヲ八ヲ以テ除シ之ヲ一回轉毎ノ平均速力ト定ムヘシ
- 八 第六號ニ規定シタル一時間ノ航行ニ於テハ又精密ニ全回轉數ヲ測リ之ヲ以テ測リ之ニ前項ニ定メタル一回轉毎ノ平均速力ヲ乘シ之ヲ一時間ノ全速力ト定ムヘシ
- 第七十九條 汽裝雜役船ノ試運轉ハ其ノ種類若ハ使用ノ目的ニ依リ本章ノ條項ヲ適宜參酌シ海軍工廠長之ヲ執行シ其ノ成績表ヲ鎮守府司令長官ニ提出シ其ノ雜役船ノ所屬艦船其ノ他各部ノ長及海軍艦政本部長ニ送付スヘシ但シ無汽裝雜役船ニ在リテハ試運轉ヲ要セス





高圧管 同 蒸気溜管	百	「パウンド」
低圧管		
同		
同		
中低圧管 同 蒸気溜管	2(D + 16)	
低圧管 同 出路及諸排山管	五十	「パウンド」
復水器ノ胴部及其ノ附屬管等	三十	「パウンド」
復水器ノ接水部及送水唧筒	十五	「パウンド」
復水器ノ管 試メストキ	三百	「パウンド」
抽油唧筒及其ノ附屬管等	三十	「パウンド」
湯溜タンク	三十	「パウンド」
船管及シヤフト、ケーシング、シヤフトニ取付ケサル前	三十	「パウンド」
消防機、機、主管並其ノ附屬弁及消防機機唧筒ノ弁箱並	二百五十	「パウンド」
空気室		
給水タンク、海水タンク、油タンク	十	「パウンド」
以上明記セサル船體附著ノ水中諸弁及連接ノ諸管	百	「パウンド」

水壓試験ニハ二箇ノ精確ナル壓力計ヲ用ヒ一ハ唧筒ニ一ハ試験ヲ施スヘキ器具ノ頂部ニ附著ス

ヘシ但シ著大ナル高低ヲ有スルモノニ水壓試験ヲ施ス場合ニハ其ノ頂部ニ於ケル水壓力ヲ以テ試験壓力ト定ム

第八十三條 艦ノ水壓試験ヲ施行セントスルトキハ壓力ヲ施ス前ニ先ツ艦體外面ノ狀況ヲ熟視シ且ツ適宜ノ計器ヲ以テ豫メ爐筒及燃室ノ内部兩板相對スル距離或ハ艦體ノ外面扁平ノ部分等ノ尺度等ヲ精確ニ測リ然後試験唧筒ノ運動ヲ始ムヘシ而シテ壓力前條ノ定度ニ達シタル後前ニ測リタル部分ノ尺度等ヲ再ヒ精確ニ測リ若シ變形ノ箇所アルトキハ之ヲ精測シ全ク點檢ヲ終ルニアラサレハ定度ノ壓力ヲ減降セシムヘカラス其ノ時間ハ凡ソ五分乃至十分間トス

第八十四條 艦ノ水壓試験中水壓力ノ未だ定度ニ達セシテ艦體ニ治スヘカラサル不完全ノ兆候ヲ現ハシタルトキハ直ニ試験ヲ停止スヘシ而シテ計器壓力九十封度未滿ノ艦ニ在リテハ不完全ノ兆候ヲ現ハシタルトキハ水壓力ノ五分ノ二ヲ超エサル壓力、又計器壓力九十封度以上ノ艦ニ在リテハ不完全ノ兆候ヲ現ハシタルトキハ水壓力ヨリ九十封度ヲ減シタルモノヲ超エサル壓力ヲ以テ本艦ニ使用スヘキ壓力ト定メ安全弁ヲ調整スヘシ然レトモ水壓試験ノ結果ニ依リ計器壓力ノ三分ノ二ヨリモ尙低キ壓力ヲ使用セサルヲ得サルモノナルトキハ本艦ハ修理ヲ加ヘスシテ使用スルコトヲ得ス但シ修理ヲ加ヘタルトキハ再ヒ水壓試験ヲ行フモノトス

第八十五條 艦ノ安全弁ノ發條ノ試驗ハ艦ノ最大使用壓力ヲ本弁ノ面積ニ乘シタル壓力ヲ以テ之ヲ壓權シ其ノ縮變ノ距離本弁ノ直徑ヨリ少カラサルモノヲ撰ミ而シテ之ニ前記試驗壓力ノ百分ノ二十五以内ノ壓力ヲ増加シテ本弁直徑ノ四分ノ一ニ等シキ距離ヲ増縮シ然後壓力ヲ放鬆スルトキハ原狀ニ復シ更ニ長サニ差違ヲ生セサルモノヲ以テ合格ノモノト定ムヘシ但シ安全弁ニシテ發條ヲ延長スルノ裝置ナルトキハ本條ノ規定方法ニ依リ壓權力ヲ延長力ニ代ヘ試験スヘシ

第八十七條 艦ノ試験終了シタルトキハ海軍工廠長ハ其ノ都度其ノ壓力ヲ證明スル爲左ノ如キ真  
鍍製ノ票章ヲ附體適宜ノ所ニ附著スヘシ

試験番號	年月日	壓力		施行所
		使用	水壓試驗	
1	(87/6/10)			(船工區)
2				(兵工區)
3				(船工區)
4				(兵工區)
5				

三時半 概ノ原中八分ノ一吋

十時半 十時三十分ノ間

十時半 十時三十分ノ間

十時半 十時三十分ノ間

第八十八條 新製ノ艦竣工シ陸上ニ於テ試験シテ爲ストキハ左ノ方法ニ依リ施行スヘシ

- 一 艦ノ覆被鐵架其ノ他周圍ノ狀況ハ成ルヘク本艦ヲ備附ヘキ艦船ノ艦室内ノ狀況ト等シカラ  
シムヘシ
- 二 艦ノ焚試シテ行フ前ニハ受熱面ノ内外ヲ清淨ニ爲スヘシ
- 三 焚試シ用ノ艦水ニハ純良ノ淡水ヲ用フヘシ
- 四 艦ノ焚試シテ二種ニ分チ一ハ艦營用品ノ第一種炭ヲ用ヒ一ハ第二種炭ヲ用フヘシ但シ艦營  
用品ノ石炭ヲ用ヒサル場合ニハ同炭種ト同等ノモノヲ用フヘシ
- 五 焚試シノ繼續時間ハ三時間以上トス
- 六 焚試シノ時間ハ送風 燃焼 給水 蒸氣發生等ノ狀況一定シタル後ヨリ算定スルモノトス
- 七 焚試シ中ハ送風 燃焼 給水 蒸氣發生等ノ狀況ヲ成ルヘク一様ニ保持スヘシ
- 八 焚試シ中ノ最終ニ於ケル火床上火氣ノ狀況ハ其ノ最初ニ於ケル狀況ト同一タラシムヘシ
- 九 焚試シ中ノ最終ニ於ケル艦内ノ水準ハ最初ノ水準ト同一タラシムヘシ
- 十 焚試シ中ハ同一ノ焚火手ヲ用フヘシ
- 十一 焚試シ中艦水ノ洩溢 漏失等ニ原因シ其ノ成績不正確ト認メタルトキハ該試験ヲ無效ト  
爲スヘシ
- 十二 蒸氣發生ノ全量ヲ知ランカ爲適宜ノ水函ヲ設ケ給水量ヲ測定スヘシ
- 十三 焚試シ中使用スヘキ各種測器ハ正確ナルヲ要ス
- 十四 焚試シ中ハ火床ノ下ニ落チタル炭粉ハ再用セサルモノトス
- 十五 艦ノ蒸氣發生效率ヲ檢定スルニハ使用石炭ヲ分析シ其ノ燃焼ニ依テ發生シ得ヘキ熱量ニ  
依ルヘシ

十六 備ノ蒸氣發生力試驗ニ要スル強壓通風ハ總テ「ステーム、プラスト」ヲ用フルモノトス  
 第八十九條 艦艇ノ備ノ試驗終了シタルトキハ海軍工廠長ハ第十一號様式ノ成績表ヲ調製シ海軍  
 艦政本部長及其ノ艦艇長ニ送付スヘシ又其ノ艦艇當該鎮守府在籍ニアラサルトキハ本籍鎮守府  
 ニ屬スル海軍工廠長ニモ送付スヘシ

第七章 艦船ノ重心査定試験

第九十條 艦艇左ノ場合ノ一ニ該ルトキハ海軍工廠長ハ其ノ重心ノ査定試験ヲ執行スヘシ  
 一 船殼ノ重心ノ位置ヲ確知スル爲艦艇ヲ進水シタルトキ  
 二 艦艇ノ製造完成ニ近キ爾後搭載スヘキ物品ノ重量及重心ノ位置ヲ確知シ得ル時期ニ達シタ  
 ルトキ  
 三 船體ノ改造若ハ搭載物ノ位置變更ノ爲其ノ重量ノ配置著シク變更シタルトキ

第九十一條 前條第二號及第三號ノ試驗終了シタルトキハ海軍工廠長ハ二週間以内ニ第十二號様  
 式ノ成績表並滿載常備輕荷ノ三状態ニ於ケル「メタセントリック、グイアグラム」及復原力ノ曲線  
 ヲ調製シ鎮守府司令長官ニ提出シ海軍艦政本部長ニ送付スヘシ  
 第九十二條 雜役船ニシテ其ノ種類ニ依リ海軍工廠長ニ於テ本試驗ヲ必要ト認ムルモノハ第九十  
 條ノ規定ニ依リ前條ノ成績表ノミヲ海軍艦政本部長ニ送付スヘシ

第八章 艦船ノ旋回力試験

第九十三條 本試驗ハ新造艦艇ニ在リテハ第六十五條ノ新造公試運轉終了シタルトキ、既成艦艇  
 ニ在リテハ船殼ハ推進器ニ變更ヲ加ヘ若ハ船體水線下ニ著シク改造ヲ施シタルトキ之ヲ執行ス  
 ルモノトス

第九十四條 海軍工廠長前條ノ試驗ヲ執行セントスルトキハ鎮守府司令長官ニ具申シ鎮守府司令  
 長官ハ第七十一條ニ準ニ必要ナル職員ヲ以テ試験委員ヲ編成シ其ノ執行ヲ命スヘシ但シ指揮官  
 及主任者ハ第七十條ニ準ス

第九十五條 本試驗ハ艦艇直線ニ進行中最大速度ヲ以テ舵ヲ正直ニ位置ヨリ片舷極度ノ位置ニ  
 轉シ之ヲ其ノ儘ニ保チ左ノ場合ニ於ケル旋回力ヲ測定スルモノトス

- 一 單螺旋推進器ヲ有スル艦艇ニ在リテハ自然通風全力ノ五分ノ四在リテハ五分ノ三ヲ以テ  
 前進中右舷及左舷ニ回頭スル各場合
- 二 雙螺旋推進器ヲ有スル艦艇ニ在リテハ左ノ各場合但シ各場合トモ右舷又ハ左舷ノ一方ノミ  
 ノ同方向ニ回頭シ試験スヘシ

- (イ) 兩舷推進器ヲ用ヒ自然通風全力ノ五分ノ四在リテハ五分ノ三ヲ以テ前進中ノ場合
- (ロ) 兩舷推進器ヲ用ヒ自然通風全力ノ五分ノ四在リテハ五分ノ三ヲ以テ前進中舵ヲ轉スル  
 ト同瞬時ニ回頭舷ノ推進器ノミヲ停止スル場合
- (ハ) 兩舷推進器ヲ用ヒ自然通風全力ノ五分ノ四在リテハ五分ノ三ヲ以テ前進中舵ヲ轉スル  
 ト同瞬時ニ回頭舷ノ推進器ヲ後退スル場合但シ後退推進器ノ回頭數ハ前進繼續ノモノト  
 同一ナラントコトヲ勉ムヘシ

第九十六條 前後兩舵ヲ有スル艦艇ニ在リテハ前後舵トモ使用ノ場合及後舵ノミ使用ノ場合ニ於  
 テ前條ノ試驗ヲ爲スヘシ又前條第二號ノ(ロ)片舷推進器停止及(ハ)片舷推進器後退ノ場合ノ試驗  
 ハ試験委員ニ於テ艦艇ノ構造上船體又ハ機關ニ危害ヲ生スヘシト認ムルトキハ適宜減却セル力  
 ヲ以テ之ヲ執行スルカ若ハ之ヲ廢止スルコトヲ得

第九十七條 本試驗終了シタルトキハ試驗委員ハ一週間以内ニ第十三號様式ノ成績表ヲ調製シ第九十五條第一號ノ試驗ニハ本成績表附屬ノ甲圖ヲ添ヘ同條第二號ノ試驗ニハ乙圖ヲ添ヘ鎮守府司令長官ニ提出スヘシ鎮守府司令長官ハ第七十六條ニ依リ進達送付スヘシ但シ成績表ニハ各委員署名スヘシ

第九十八條 雜役船ニシテ本試驗ヲ必要トスルトキハ前諸條ニ依リ海軍工廠長之ヲ執行スヘシ

第九章 艦船ノ機關總檢査

第九十九條 艦船ノ機關總檢査ハ艦艇ノ製造竣工ヲ接受シタル月及前總檢査ノ修理竣工シタル月ヨリ滿五箇年若ハ新製ノ艦ヲ入換ニル時期ニ於テ施行スルモノトシ鎮守府司令長官ハ其ノ施行年度立檢査ニ要スル費用及修理 改造新設等ヲ要スルトニ關スル入費概算ヲ定メ第四十八條ニ依リ提出スヘシ

第一百條 鎮守府司令長官艦艇ノ機關總檢査ヲ施行スヘキ令達ヲ受ケタルトキハ豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ總費ヲ量リ海軍工廠長ヲシテ檢査及修理等ヲ施行セシムヘシ

第一百一條 海軍工廠長艦艇ノ機關總檢査ヲ施行スルトキハ機械部中平常檢査シ能ハサル箇所ヲ解放シ又水壓等ヲ要スル箇所ハ之ヲ用ヒ精密ニ檢査試驗ヲ爲シ其ノ狀況ヲ詳記シ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ但シ機關總檢査ヲ施行スルニ先テ試運轉ヲ必要トスルトキハ第六十六條ノ豫行試運轉ニ準シ之ヲ執行スヘシ

第一百二條 艦艇ノ機關總檢査ハ第九十九條ニ定メタル期間内機關ヲシテ其ノ全力ヲ維持セシムルヲ目的トス故ニ製造後初回ノ機關總檢査ニ在リテハ中心線及變損部等ヲ檢査シテ其ノ回復ヲ主トシ又各部ノ檢査モ此ノ目的ニ伴フ程度ニ於テ之ヲ止メ第二回以後ノ機關總檢査ニ在リテハ機關

ノ老衰腐朽ノ箇所多カルヘキニ依リ所要ノ部分若ハ全部解放ノ上檢査ヲ行ヒ完全ナルヲ期スヘシ

第十章 附則

第一百三條 雜役船ニシテ機關總檢査ヲ施行シ修理ヲ加フルノ必要アルモノハ本章ノ條項ヲ適宜參酌シ鎮守府司令長官ハ海軍工廠長ヲシテ之ヲ施行セシムヘシ

第一百四條 船體機關ノ改造 附屬物ノ増減等ニ依リ艦艇要目簿ニ異動ヲ生シタルトキハ海軍工廠長之ヲ艦船共ノ他各部ノ長ニ通知シ又明細簿及附屬物目録ニ異動ヲ生シタルトキハ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第一百五條 海軍工廠長受託艦船ノ工事ニ著手シ又ハ之ヲ入渠セシメタルトキハ第五十四條ニ依リ報告スヘシ

第一百六條 海軍工廠ニ於テハ第十四號様式ノ艦船入出渠記録ヲ備ヘ艦船入出渠ノ都度之ヲ登記シ保存スヘシ若シ入出渠艦船ニ異狀ヲ生シタルトキハ海軍工廠長ハ異狀ノ詳細ニ共ニ記録ノ寫ヲ添ヘ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第一百七條 本則ニ依リ海軍大臣ニ提出又ハ海軍艦政本部長ニ送付スル圖面及目錄類ニハ總テ其ノ書類ノ番號 附屬ノ如シ及調製年月日ヲ記入シ海軍工廠長及部長調印スヘシ

艦船造修試驗檢査規則附屬様式目錄

- 第一號様式 搭載重量表
  - 第二號甲様式 要目簿
  - 第二號乙様式 要目簿
  - 第二號丙様式 要目簿
- 軍艦噸位艦水雷艦噸位排水量五百噸以上ノ汽機雜役船ニ適用スルモノ  
 兼貨排水量五百噸未満ノ汽機雜役船ニ適用スルモノ  
 無汽機雜役船ニ適用スルモノ

第三號目錄

艦船ニ交付スヘキ完成圖面及目錄類

第四號甲樣式 明細簿 軍艦船艦艇水管艦艇排水量五百噸以上ノ汽機雜役船ニ適用スルモノ

第四號乙樣式 明細簿 鐵骨排水量五百噸未満ノ汽機雜役船ニ適用スルモノ

第四號丙樣式 明細簿 無汽機雜役船ニ適用スルモノ

第五號目錄 完成圖面及目錄類

第六號樣式 雜役船製造費概算書

第七號表 端舟通船及傳馬船製造規定

第八號樣式 重量增減表

第九號表 諸管及電路著色表

第十號樣式 試運轉成績表

第十一號樣式 焚試成績表

第十二號樣式 重心査定試驗成績表

第十三號樣式 旋回力試驗成績表

第十四號樣式 附屬甲圖

第十五號樣式 附屬乙圖

艦船入出渠記錄 第三號及第五號目録中ニアルモノ

總積及正積噸數測定表 第三號及第五號目録中ニアルモノ

○海軍省達第百七號 艦船公試規則ヲ廢ス

明治三十七年七月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百八號

明治三十六年達第六十六號ヲ廢ス

明治三十七年七月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

(參照)

明治三十六年十一月二日海軍省達第六十六號ハ端舟通船及傳馬船製造規定表ナリ

○海軍省達第百九號

明治二十七年五月達第六十九號海軍兵器造修供給規則ハ之ヲ廢止ス

明治三十七年七月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第百十號

兵器造修試驗檢査規則別紙ノ通定ス

明治三十七年七月二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

(別紙)

兵器造修試驗檢査規則

第一章 製造修理兵裝

第一條 艦艇(軍艦船艦艇及汽機雜役船)ヲ製造セシメントスルトキハ海軍大臣海軍艦政本部長ニ命シ其ノ兵裝ニ關スル大體ノ計畫ヲ爲サシム

第二條 艦艇ノ製造若ハ組立ヲ令達セラレタル鎮守府司令長官ハ所屬海軍工廠長ヲシテ前條ノ大體計畫ニ基キ兵裝ニ關スル明細圖面及豫算書ヲ調製セシメ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 外國製造所ニ於テ艦艇ノ兵裝ヲ爲サシメントスルトキ若ハ兵器ヲ購買セントスルトキハ第一條ノ大體計畫ニ基キ海軍總政本部長ヲシテ一切ノ處理ヲ爲サシム但レ内國私立製造所ニ於テ製造若ハ組立タル艦艇ノ兵裝ハ所在海軍區ヲ管スル鎮守府ヲシテ之ヲ爲サシムルヲ例トス此ノ場合ニ在テハ第二條ヲ準用ス

第四條 艦艇ノ兵裝竣工シタルトキハ海軍工廠長ハ左記ノ圖面ヲ作成シ艦艇長ニ交附スヘシ

- 大砲及砲架
- 水壓唧筒機
- 大砲旋回機
- 揚彈藥機
- 水壓管裝置
- 水雷發射管
- 空氣壓搾唧筒及氣雷器
- 空氣管裝置
- 發電機及發動機
- 電線配置

第五條 供用兵器ノ増設、改造及修理ヲ要スルトキハ艦艇其ノ他各部ノ長ニ於テ其ノ品名數量及詳細ノ事由ヲ具シ在籍又ハ所管鎮守府ノ海軍工廠長<sup>(鎮守府司令長官ニ直屬セサル艦)</sup>ニ鎮守府

所管ニアラサル各部ハ東京ニ在リテハ海軍造兵廠長ニ其ノ他ハ最寄鎮守府ノ海軍工廠長ニ請求スヘシ

兵備品會計官<sup>(貯藏兵器ノ修理改造ヲ要スルトキハ品名數量及事由ヲ詳記セル調書ヲ製シ出納命令官ノ認可ヲ受ケ)</sup>海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長ニ申請スヘシ

第六條 海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長前條第一項ノ請求ヲ受ケ之ヲ至當ト認メタルトキハ豫算定額内ニ於テ其ノ緩急ヲ量リ修理ニ係ルモノハ海軍工廠ニ在リテハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ海軍造兵廠ニ在リテハ直ニ工事ニ著手シ、増設又ハ改造ニ係ルモノハ意見書<sup>(圖面ヲ要ハ之)</sup>工事日子、重量増減及一隊毎ノ入費概算書ヲ添へ鎮守府司令長官若ハ海軍總政本部長ヲ經テ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ就役艦艇兵器ノ修理等ニシテ其ノ工事一週日以上ニ涉ルモノハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ報告スヘシ

前條第二項ノ修理工事ハ豫算定額内ニ於テ其ノ緩急ヲ量リ著手スヘシ但シ改造ニ係ルモノハ前項ノ手續ニ依リ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 艦艇木籍鎮守府ニ遺隔ノ地ニ於テ兵器ノ増設、改造及修理ノ急施ヲ要シ役務其ノ他ノ都合ニ依リ本籍鎮守府ニ屬スル海軍工廠長ニ請求スルノ違ナキトキハ最寄海軍工廠長ニ請求スルコトヲ得此場合ニ在リテハ其ノ旨本籍鎮守府司令長官<sup>(鎮守府司令長官ニ直屬セサル艦艇ハ所屬長官ヲ經テ)</sup>ニ報告スヘシ

第八條 海軍工廠長ハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ得テ兵器ノ据付及修理等ヲ他ノ海軍工廠長又ハ海軍造兵廠長ニ依託スルコトヲ得依託ヲ受ケタル海軍工廠長又ハ海軍造兵廠長其ノ据付及修理等ニシテ米々依託工廠ノ調査ヲ經サルモノナルトキハ精細之ヲ調査シ至當ト認メタルモノハ工事方案竣工期限等ヲ定テ依託海軍工廠長ニ協議シ第六條ノ手續ヲ爲シ工事ニ著手スヘシ前條ノ請

求ヲ受ケタルトキ亦同シ

第九條 海軍工廠、海軍造兵廠及海軍下湖火藥製造所ニ於テ製造スヘキ兵器ノ注文手續ハ海軍艦政本部長ヲシテ其ノ通牒書ヲ調製シ、海軍工廠長、海軍造兵廠長及海軍下湖火藥製造所長ニ送付セシム。但シ海軍工廠長ニ送付スルモノハ、鎮守府司令長官ヲ經由スルモノトス。

海軍造兵廠ニ於テ購買スヘキ兵器ノ注文手續ハ前項ノ例ニ依ルヘシ。

第十條 海軍工廠長、海軍造兵廠長若シテ海軍下湖火藥製造所長前條ノ通牒書ヲ受領シタルトキハ其ノ入費概算及落成期限ヲ豫定シ、工事又ハ購買ニ著手シ、其ノ入費概算及落成期限ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ。

第十一條 海軍工廠長若シテ海軍造兵廠長兵器ヲ製造若シテ改造スルニ當リ從來制式ノモノヲ改良セント欲スルカ又ハ領收検査規格ニ變更ヲ要スルトキハ之カ理由及必要圖面ヲ具シ海軍艦政本部長ノ承認ヲ受クヘシ。但シ本項ノ改良ニシテ重大ナルモノニ關シテハ海軍艦政本部長ハ其ノ承認ヲ與フル前豫メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ。

第十二條 海軍工廠長若シテ海軍造兵廠長ハ兵器ノ増設、改造或重大ナル修理ニシテ前月中完成シタルモノヲ第六號表式ニ依リ鎮守府司令長官ヲ經テ翌月五日迄ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ。

第二章 試驗検査

第十三條 兵器ノ試驗検査ヲ分テ左ノ三種トス

第一 領收試驗

第二 公試發射

第三 定期検査

第一 領收試驗

第十四條 海軍工廠若シテ海軍造兵廠ニ於テ新ニ砲類ヲ製造シタルトキハ陸上ニ於テ左ノ方法ニ依リ試驗シ第一號表式ニ依リ其ノ成績ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ。

領收試驗ニ於テ發射スヘキ彈數左ノ如シ。但シ必要ニ應シ適宜増減スルコトヲ得

空放 一發、半裝藥 一發、常裝藥 四發、強裝藥 二發、

半裝藥及常裝藥ハ規定ノ初速ヲ得ルヤ否ヤヲ檢シ強裝藥ハ十二斤以上ノ砲ニ在リテハ十八噸乃至二十噸ノ壓力ヲ生セシメ以テ砲架及諸機部ノ耐力ヲ檢スルモノトス。

五十七密米以下ノ砲ニ在リテハ強裝藥ノ壓力ハ常裝藥ノ壓力ヨリ三噸乃至五噸ヲ高ムルモノトス。

第十五條 海軍工廠若シテ海軍造兵廠ニ於テ新ニ魚形水雷ヲ製造シタルトキハ明治三十五年內令第十七號艦隊ニ供給スル保式魚形水雷發射試驗規則ニ準シテ試驗シ其ノ成績ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ。

第十六條 海軍工廠若シテ海軍造兵廠ニ於テ水雷發射管ヲ製造シタルトキハ左記ノ試發射ヲ施シ其ノ成績ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ。

固定水上發射管ハ艦船ニ裝備スヘキ同俯角ト爲シ發射及氣發ヲ以テ四百米突ノ距離ニ向テ完備セル水雷ヲ各二回宛

旋回水上發射管ハ發射若シテ氣發ヲ以テ四百米突ノ距離ニ向テ二回但シ聯裝ノモノハ同時ニ一回發射スルヲ要ス

水中發射管ハ艦船ニ裝備スヘキ水面下ノ位置ト同一ニ据付發射ヲ以テ四百米突ノ距離ニ向テ完備セル水雷ヲ二回

第十七條 内外國私立製造所ニ於テ砲類、水雷若ハ發射管ヲ製造シタルトキモ亦前諸條ニ準シ試驗ヲ行ハ當該監督官ハ其ノ成績ヲ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第二 公試發射  
第十八條 艦艇新ニ其裝ヲ爲メカ又ハ從來ノ兵裝ニ著シキ改造修理ヲ加ヘタルトキハ之カ工事ヲ施シタル海軍工廠ノ屬スル鎮守府ニ於テ公試ヲ爲スヘシ

第十九條 鎮守府司令長官艦艇兵裝ノ公試ヲ要スルニ當リ其ノ麾下ニ於テ之ヲ執行シ能ハサルカ又ハ他ノ鎮守府ニ於テ執行スルヲ便宜ト認ムルトキハ他ノ鎮守府司令長官ニ其ノ執行ヲ依託スルコトヲ得若シ戰時事變等ニ際シ鎮守府ニ於テ公試ヲ爲スノ邊アラサルトキハ鎮守府司令長官ハ艦隊司令長官ニ其ノ執行ヲ依託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ艦隊司令長官ハ麾下ノ職員ヲ以テ兵裝公試委員ヲ編制シ本則ニ準シ之ヲ執行スヘシ

第二十條 艦艇兵裝ノ公試ヲ分テ左ノ二種トス  
一 砲類  
二 水雷

第二十一條 砲類ノ公試ヲ更ニ左ノ二種ニ區別ス  
一 砲類發射  
二 砲類命中發射

第二十二條 砲類發射ハ新ニ砲類ヲ据付タル場合或ハ据付位置ノ改造變更等ノ工事竣工シタル場合ニ於テ砲身砲架ノ船體ニ對スル適當及附屬機關ノ動作ヲ檢スルモノニシテ命中發射ハ裝備發射終了後專ラ砲類照準器ノ適當命中ノ精密ヲ檢スルモノトス

第二十三條 水雷ノ公試ハ水雷兵器ノ据付、改造若ハ修理竣工シタル場合ニ於テ其ノ動作ノ如何並發射管ニ在リテハ諸種ノ速力ヲ以テ發射ヲ檢スルモノトス

第二十四條 兵裝公試中艦艇ノ指揮ハ在役艦艇並豫備艦艇ニ在リテハ本艦艇長本艦艇長ナキトキハ艦艇長其ノ他ノ艦艇ニ在リテハ港務部長之ヲ掌ルヘシ但シ豫備艦部長若ハ港務部長ハ場合ニ依リ部下將校ヲ指定シ本艦艇ノ指揮ヲ掌ラシムルコトヲ得

第二十五條 海軍工廠長ハ公試發射ヲ爲スヘキ時期ニ達シタルトキハ執行期日ヲ豫定シ鎮守府司令長官ニ具申ス鎮守府司令長官ハ前條ノ指揮官、其ノ他必要ナル部下ノ職員及其ノ艦船ノ乘員中ヨリ適宜選定シタル者ヲ以テ公試委員ヲ編制シ兵裝公試ヲ執行セシムヘシ

第二十六條 海軍工廠長ハ公試發射期日確定シタルトキハ海軍艦政本部長ニ通知スヘシ但シ其ノ通知ハ艦政本部ヨリ公試實視員ヲ派遣スルニ充分ノ時日アルヲ要ス

第二十七條 砲類發射ハ左ノ方法ニ依リ施行スルモノトス但シ時宜ニ依リ發射距離ヲ増減スルコトヲ得  
側砲一門ニ付 空放 一發 常裝藥演習榴彈 五發  
旋回砲一門ニ付 常裝藥演習榴彈 六發

機砲一門ニ付 常裝藥演習榴彈 四十發 連發 一回  
實射ハ旋回角度ノ中央位置ニ於テ水平ニテ一發左右全旋回ノ上最大俯仰角度ニテ各一發宛トス又連發ハ一回宛トス但シ八尹以上ノ艦首艦尾砲ニ在テハ「キール」線ヨリ四十五度以上ニ於



テ發砲スヘシ

第二十八條 砲發命中發射ハ左ノ方法ニ依リ施行スルモノトス但シ標的面ハ六「メートル」方形ノ幕トス

同種砲ノ内一門ニ付 減裝藥演習榴彈(減裝藥ナキモ)五發

同種機砲ノ内一門ニ付 單發連發ヲ通シテ五回トス

聯動照準裝置ヲ備フル砲ニ在リテハ各砲四發トス

實射ハ重砲ニ在リテハ千五百米突以內、輕砲機砲ニ在リテハ五百米突以內トス但シ射距離ハ隨時短縮スルコトヲ得

標的ニ十分ノ八以上の中シタルモノヲ良好トス

第二十九條 水雷發射ハ靜的ニ向テ左ノ方法ニ依リ施行スルモノトス

一 軍艦ニ於ケル水上發射管

靜止中 一回

自然通風全力五分ノ一

一回

自然通風全力五分ノ三

一回

自然通風全力

一回

發射管旋回式ナルトキハ以上ノ發射中二回ハ左右全旋回ノ位置ニ於テスルヲ要ス

靜止中

一回

強壓通風全力五分ノ一

一回

三 水中發射管

靜止中 一回

速力十二節

一回

速力十四節

一回

速力十七節

一回

第三十條 兵裝公試中便宜ノ時機ヲ見計ヒ水壓唧筒機、大砲旋回機、發電機、各種發動機、壓搾唧筒等ノ全力働作ヲ試驗シ兼テ附屬器具ノ完否ヲ檢スヘシ

第三十一條 鎮守府司令長官ハ兵裝公試終了シタルトキハ公試委員ヲシテ直ニ其ノ成績ノ要點ヲ報告セシメ之ヲ海軍大臣ニ電報スヘシ

第三十二條 公試委員ハ其ノ成績表ヲ砲發部ニ在リテハ第二號甲乙表式、水雷部ニ在リテハ第三號甲乙表式ニ依リ各四通(本籍鎮守府司令長官ニ提出スル場合ニハ三通)ヲ調製シ各自署名ノ上一週間以內ニ之ヲ鎮守府司令長官ニ提出スヘシ鎮守府司令長官ハ一通ヲ海軍大臣ニ進達シ一通ヲ艦艇本籍ノ鎮守府司令長官ニ移牒シ一通ヲ本艦艇長ニ交附スヘシ

第三十三條 外國ニ於テ兵裝シタル艦艇ハ本邦ニ回著ノ後六箇月以內ニ其ノ艦艇本籍ノ鎮守府ニ於テ本則ニ規定シタル兵裝公試ヲ執行スヘシ但シ外國ニ於テ領收ノ際施行セル試験ヲ以テ一部分公試ニ代ユルコトヲ得

外國ニ於テ施行シタル兵器試驗ノ成績ハ造兵監督官之ヲ海軍總政本部長ニ報告シ海軍總政本部長ハ海軍大臣ニ進達シ尙其ノ寫ヲ艦艇本籍ノ鎮守府司令長官ニ移附スヘシ

第三 定期検査

第三十四條 艦艇其ノ他各部ニ於テ砲類ノ常裝藥發射彈數左記ノ定數ヲ超過シタルトキハ其ノ長ハ造兵監督官ニテ海軍總政本部長ニ報告スヘシ海軍總政本部長ハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ得テ検査ヲ行ヒ其ノ成績表(第四號甲乙)備考欄内ニ意見ヲ記入シテ一通ヲ作成シ一通ハ海軍總政本部長ニ提出シ一通ハ試驗要求元ニ交附スヘシ但シ二分一減裝藥ヲ以テスルトキハ二分一以上ノ常裝藥ノ一發ニ數フ

- 九尹以上 五十發
- 六尹以上 百五十發
- 十二斤(三尹)以上 四百發
- 二斤半以上 八百發

砲ニ損所ヲ生シ又ハ其ノ樞要部ニ疵瑕ヲ生シタル爲検査ノ必要アリト認ムルトキハ發射數ニ關セシ前項ニ依リ臨時艦中検査若ハ發射試驗ヲ請求スヘシ

第三十五條 砲類ノ腑中検査ヲ行フトキハ砲身砲架其ノ他附屬品等樞要部ヲ併セテ點檢スヘシニ本籍鎮守府司令長官(鎮守府司令長官ニ直屬セシ)ニ報告スヘシ

第三十六條 艦艇隊等ニ供用中ナル彈藥並火工品類ハ毎年一回其ノ全數ノ百分ノ一以下(百未滿ナルトキハ其ノ内一箇)ノ數ヲ擇出シテ海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長ニ試驗検査ヲ要求スヘシ

但シ必要ニ依リ其ノ數ヲ増減スルコトヲ得

第三十七條 海軍工廠長若ハ海軍造兵廠長前條ノ要求ヲ受ケタルトキハ試驗検査ヲ施行シ其ノ成績表ヲ第五號表式ニ依リ一通ヲ作成シ一通ヲ海軍總政本部長ニ提出シ一通ヲ試驗要求元ニ交附スヘシ

第三十八條 海軍工廠若ハ海軍造兵廠在庫ノ彈藥並火工品類ノ試驗検査ハ前二條ニ準據シ之ヲ執行スヘシ但シ試驗検査ニ供スヘキ數ヲ半減スルコトヲ得

第三章 陸揚搭載

第三十九條 艦艇ノ供用兵器中大砲、水雷發射管又ハ發電機等ノ如キ本艦ノ勢力ニ關スルモノヲ修理若ハ試驗検査等ノ爲一時陸揚セントスルトキ及之ヲ搭載シタルトキハ其ノ艦艇長(艦艇長トキハ其ノ都度直ニ現狀報告用紙ヲ以テ海軍大臣ニ報告スヘシ)

○海軍省第百十一號

艦艇定期水壓試驗並鑽通試驗規則左ノ通定ム

明治三十七年七月二日

海軍大臣野露山本權兵衛

艦艇定期水壓試驗並鑽通試驗規則

第一條 定期水壓試驗ハ新艦ニ在リテハ新造公試運轉後圓滿ハ二箇年、水管艦ハ一箇年ヲ經過シタルトキ之ヲ施行シ爾後ハ圓滿ハ九箇月乃至十二箇月、水管艦ハ六箇月ノ間隔ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ艦船造修試驗檢査規則ニ依リ水壓試驗ヲ施行シタルトキハ本條ノ間隔ハ其ノ時ヨリ起算スルモノトス

第二條 前條ノ時期ニ違シタルトキハ艦艇長(隊部長ヲ含ム以下同シ)ハ豫メ施行ノ時日ヲ定メ所屬長官ニ報告ノ上艦艇員ノ手ヲ以テ試驗ヲ施行スヘシ但シ場合ニ依リ最近鎮守府ニ要求スルヲ便宜ト認メタルトキハ當該鎮守府司令長官ニ要求スルト同時ニ其ノ旨所屬長官ニ報告スヘシ

所屬長官若ハ鎮守府司令長官前項ノ報告若ハ要求ヲ受ケタルトキハ部下機關官一名ヲシテ本試驗ニ臨檢セシムヘシ

第三條 定期水壓試驗ノ壓力及伸縮計測法ハ艦艇構造試驗檢査規則第六章第八十二條及第八十三條ニ準據ス

第四條 鐵道試驗ハ縮ニ衰弱ノ兆候ヲ呈シ檢査ノ必要ヲ生シタルトキ之ヲ施行シ爾後同類縮ニ對シ一箇年乃至二箇年ノ間隔ニ於テ其ノ必要ヲ認メタルトキ之ヲ施行スヘキモトス

第五條 前條ノ必要ヲ生シタルトキハ艦艇長ハ其ノ理由ヲ詳細ニ所屬長官ニ報告シ併セテ鐵道試驗ノ施行ヲ具申スヘシ但シ場合ニ依リ最近鎮守府ニ要求スルヲ便宜ト認メタルトキハ當該鎮守府司令長官ニ要求スルト同時ニ其ノ旨所屬長官ニ報告スヘシ

所屬長官若ハ鎮守府司令長官前項ノ具申若ハ要求ヲ受ケ之ヲ至當ト認メタルトキハ其ノ施行時日ヲ定メ部下機關官二名乃至三名ヲ鐵道試驗官トシ本試驗ヲ施行セシムヘシ

第六條 鐵道試驗ハ試驗官ニ於テ必要ト認ムル箇所其ノ他一般ニ同類縮數ノ約四分ノ一ノ割合ヲ以テ最モ衰弱シタル縮ニ就キ之ヲ施行スヘシ

第七條 水管縮ニ在リテハ鐵道試驗ノ外ニ最モ衰弱シ或ハ不完全ト認ムル水管ヲ拔取り切開試驗ヲ爲スヘシ

第八條 定期水壓試驗ノ時期ニシテ鐵道試驗ノ必要時期ト互ニ相違隔セサルニ於テハ兩試驗ヲ關

聯セシムルコトヲ要ス而シテ鐵道試驗ノ結果縮ニ著シキ衰弱ヲ表示シタルトキハ水壓試驗ヲ爲スニ當リ過壓ノ爲メ縮ニ損害ヲ與ヘサル機壓力ノ適用ニ注意スヘシ

第九條 定期水壓試驗並鐵道試驗ノ成績ハ別表ニ依リ調製シ海軍艦政本部長及本籍鎮守府司令長官ニ各一通ヲ進達シ又一通ハ本艦艇ニ保存スヘシ

第十條 艦艇ノ乘員不足等ノ爲前諸條ノ試驗ヲ施行スル能ハサルトキハ所屬長官ニ具申シ他艦艇ノ乘員又ハ海軍工廠員若ハ修理工場員ノ手ヲ借ルコトヲ得

第十一條 前諸條ノ試驗ヲ施行スル能ハサルトキ又ハ其ノ延期ヲ要スルトキハ所屬長官ヲ經テ海軍艦政本部長及本籍鎮守府司令長官ニ其ノ理由ヲ報告スヘシ

第十二條 第一條及第四條ノ定期間隔以外ニ前諸條ノ試驗ヲ爲スノ必要ヲ生シタルトキハ艦艇長ハ其ノ理由ヲ所屬長官ニ具申シ本則ニ依リ之ヲ施行スルコトヲ得但シ其ノ成績ハ本則ニ依リ報告スルモトス

(別表略ス)

○海軍省第百十二號

軍艦機關日誌中左ノ通改正及追加シ來ル八月一日ヨリ施行ス (改正追加略ス)

明治三十七年七月二日

海軍大臣 齋山本權兵衛

○海軍省第百十三號

水雷艦機關日誌中左ノ通改正及追加シ來ル八月一日ヨリ施行ス (改正追加略ス)

明治三十七年七月二日

海軍大臣 齋山本權兵衛

○海軍省達第百十四號

軍艦機關日誌摘要並水雷艦機關日誌摘要別冊ノ通り定メ來ル八月一日ヨリ施行ス (別冊略ス)

明治三十七年七月二日

海軍大臣野宮山本權兵衛

○海軍省達第百十五號

海軍豫備員教程ニ關スル件左ノ通定ム

明治三十七年七月五日

海軍大臣野宮山本權兵衛

海軍豫備員又ハ豫備員ヲランコトヲ志願スル者ニ課スヘキ教程ハ左ノ諸號ニ依リ各練習所長之ヲ定メ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第一 海軍砲術練習所ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 上長官、士官、士官コトヲ志望スル者ニハ將校學生教程ト商船學校學生教程トヲ折衷シ六十日以内ニ終了ノ目的ヲ以テ其ノ教程ヲ定ムヘシ
- 二 豫備員曹長、准士官、下士、下士コトヲ志望スル者ニハ兵曹長及上等兵曹教程ニ準シ六十日以内ニ終了ノ目的ヲ以テ其ノ教程ヲ定ムヘシ

第二 海軍水雷術練習所ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 上長官、士官、士官コトヲ志望スル者ニハ將校學生教程ト上等兵曹教程トヲ折衷シ八十日以内ニ終了ノ目的ヲ以テ其ノ教程ヲ定ムヘシ
- 二 豫備員曹長、准士官、下士、下士コトヲ志望スル者ニハ上等兵曹教程ニ準シ八十日以内ニ終了ノ目的ヲ以テ其ノ教程ヲ定ムヘシ

第三 海軍機關術練習所ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ

- 一 士官、士官コトヲ志望スル者ニハ艦艇機關ノ構造及諸裝置中商船ト異ナル要點並海軍機關官トシテ修得スヘキ實務ノ一班、及海軍機關官トシテノ勤務心得ヲ約六十日間ニ終了ノ目的ヲ以テ其ノ教程ヲ定ムヘシ
- 二 豫備員機關兵曹長、准士官、下士、下士コトヲ志望スル者ニハ掌機兵教程ノ學科中艦艇機關ニ關スルコト及之ニ關スル實務ノ一班、勤務心得ヲ約六十日間ニ終了ノ目的ヲ以テ其ノ教程ヲ定ムヘシ

○海軍省達第百十六號

明治三十六年十一月一號通商物品出納命令官會計官吏表中工廠會計部長ノ上段品名ノ欄内ニ工廠資金所屬物品ノ下ノ及特ニ保管ニ關セシメラレタル造兵造船材料物品ヲ加フ

明治三十七年七月二十日

海軍大臣野宮山本權兵衛

○陸軍第百二十五號  
臨時陸軍檢疫部服務規則別冊ノ通定

明治三十七年八月五日

陸軍大臣寺內正毅

(別冊)

臨時陸軍檢疫部服務規則

第一章 檢疫部本部ノ職員

第一條 檢疫部本部ノ分課及其ノ職員ハ附表第一ニ依ル

第二條 本部長ハ陸軍大臣ニ隸屬シ檢疫部ノ事務ヲ總理ス

本部長ハ檢疫事務ニ關シテハ他ノ官衙團隊等ト直接交渉スルモノトス

本部長ハ臨時陸軍檢疫部檢疫規則ノ範圍内ニ於テ檢疫實施ニ關スル細目ヲ規定スヘシ

第三條 次長ハ本部長ヲ補佐シ部務ノ整理ニ任シ本部内各課ノ業務ヲ監督ス

次長ハ本部長不在ノ時ハ部務ヲ代理シ定例ノ事項及輕易ノ事務ハ次長ノ名ヲ以テ他ノ官衙團隊

等ト交渉スルコトヲ得

第四條 庶務課長ハ本部長ノ指揮ニ從ヒ庶務人事經理及文書ノ往復ニ關スル事務ヲ管掌シ部下ヲ

指揮シ其分擔業務ヲ監督ス

第五條 檢疫課長ハ本部長ノ指揮ニ從ヒ檢疫ニ關スル業務、衛生材料ノ補給調辨ニ關スル事務ヲ

管掌シ部下ヲ指揮シ其分擔業務ヲ監督ス

第六條 建築課長ハ本部長ノ指揮ニ從ヒ檢疫部ニ屬スル營繕事務ヲ管掌シ部下ヲ指揮シ其分擔業

務ヲ監督ス

第七條 各課部員ハ課長ノ命ヲ承ケ各分擔ノ事務ヲ掌理ス  
第八條 各課下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第二章 檢疫所ノ職員

第九條 檢疫所ハ甲乙ノ二種ニ分チ其ノ分課及職員ハ附表第二共ノ一其ノ二ニ依ル  
前項ノ區分ハ檢疫所設置ノ都度陸軍大臣之ヲ指定ス

第十條 檢疫所長ハ本部長ニ隸シ所員以下ヲ指揮シ檢疫所全般ノ事務ヲ管理ス  
所長ハ所員以下ニ業務ノ分掌ヲ命ス

所長ハ所員ヲ出張セシムトスルトキハ本部長ノ認可ヲ受クルモノトス。但シ急ヲ要スルトキハ之ヲ決行シ速ニ其ノ旨ヲ本部長ニ報告スヘシ

下士判任文官以下ノ出張ハ所長之ヲ專行ス

第十一條 總務課長ハ所内一般ノ軍紀風紀ヲ維持シ庶務掛、展望所、及電氣掛ヲ指揮シテ其ノ事務ヲ掌理ス

庶務掛ハ檢疫所ノ庶務人事經理文書ノ往復軍役夫水夫等ノ備入解備等ヲ掌ル

展望所ハ晝夜船舶ノ出入ニ注意シ入港船舶アルトキハ之ヲ檢疫課ニ通報スルモノトス  
電氣掛ハ電信電話及電燈ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條 檢疫課長ハ部下ヲ指揮シテ入港船舶ノ檢査及搭載人馬物件ノ消毒ヲ掌ル  
檢疫課ニ屬スル人員ヲ船舶檢査掛、船舶消毒掛、蒸氣消毒掛、及藥物消毒掛ニ區分ス其ノ各掛ノ業務ハ臨時陸軍檢疫部檢疫規則ニ據ル

第十三條 運搬課長ハ部下ヲ指揮シ海面及陸上ニ於ケル人馬物件ノ輸送ヲ掌ル

第十四條 沐浴課長ハ部下ヲ指揮シ入港船舶乗組員ノ沐浴ニ關スルコトヲ掌ル

沐浴課ニ屬スル人員ヲ點檢所、物品預所待合室、浴室、休憩室、著衣室、物品渡所ニ區分シ其ノ業務ハ臨時陸軍檢疫部檢疫規則ニ依ル

第十五條 鏡檢課長ハ部下ヲ指揮シ專ラ檢疫ニ關聯スル細菌學上ノ檢査ヲ掌ル

第十六條 停留舎長ハ部下ヲ指揮シ停留者ノ健康ヲ監視ス

第十七條 避病院長ハ部下ヲ指揮監督シ院内全般ノ事務ヲ掌理ス

第十八條 避病院ニ屬スル人員ヲ事務室、真症室、疑症室、快復室、藥室ニ區分ス

事務室ハ庶務掛發着掛、燒却掛ニ分チ庶務掛ハ院内ノ取締文書報告人事諸給與金錢物品ノ出納

發着掛ハ患者死者ノ發着燒却掛ハ死體其ノ他有毒物件ノ燒却ヲ掌ル

真症室ハ傳染病患者收療ニ關スルコトヲ掌ル

疑症室ハ傳染病ノ疑似患者收療ニ關スルコトヲ掌ル

快復室ハ入院患者ニシテ快復期ニ至リタル者ノ收容ヲ掌ル

藥室ハ調劑並藥物治療器械等ノ貯藏出納ヲ掌ル

第十九條 各課 停留舎ヲ含テ所員ハ課長、避病院附所員ハ院長ノ命ヲ承ケ各分掌ノ勤務ニ服ス

第二十條 檢疫課所員ニハ紅線二色ノ徽章ヲ右肩ヨリ左腋ニ佩ハシメ共ノ乗組タル小蒸氣船ニハ附錄離形ノ小旗ヲ掲揚スヘシ

運搬課所員ニハ紅色ノ徽章ヲ右肩ヨリ左腋ニ佩ハシム

第二十一條 下士判任文官以下ハ各上官ノ指揮ニ從ヒ勤務ニ服ス

第二十二條 各課附屬ノ下士判任文官卒ニハ其ノ業務ヲ表示スル記章ヲ右胸ニ佩ハシム其ノ記章ハ檢疫本部長之ヲ定ム

第二十三條 避病院ニ附屬スル職員ノ勤務ハ戰時衛生勤務令ニ準據スヘシ  
 第二十四條 檢疫所長及避病院長ハ復員後業務詳報ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ三十日以内ニ檢疫部本部長ニ呈出シ檢疫部本部長ハ之ヲ統合シテ六十日以内ニ陸軍大臣ニ進達スヘシ

附表第一

階級	部	職名	大尉同	中尉同	少佐同	大尉同	中尉同	少尉同	下任文官	計
部長	部	部長	1							1
次長	部	次長								1
庶務課長	課	課長								1
檢疫課長	課	課長								1
衛生課長	課	課長								1
消毒課長	課	課長								1
醫藥課長	課	課長								1
事務課長	課	課長								1
技師	部	技師								1
技手	部	技手								1
計			1							7

附表第二 其一

臨時陸軍檢疫(甲)部檢疫所職員區分表

階級	職名	大尉同	中尉同	少佐同	大尉同	中尉同	少尉同	下任文官	計
部長	部長								1
次長	次長								1
庶務課長	課長								1
檢疫課長	課長								1
衛生課長	課長								1
消毒課長	課長								1
醫藥課長	課長								1
事務課長	課長								1
技師	技師								1
技手	技手								1
計									7

馬卒(備人)	電 工	火 夫	洗 濯 夫	斬 柴 師	給 仕	小 使	計
一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三
二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

備  
一 本表ハ凱旋輸送ノ場合ニ於ケル人員トス  
二 所長ハ各限ノ人員ヲ通シテ彼此増減スルコトヲ得  
三 「ナ」ハ調劑助手トス

附表第二 其一

臨時陸軍檢疫部(乙)檢疫所職員區分表

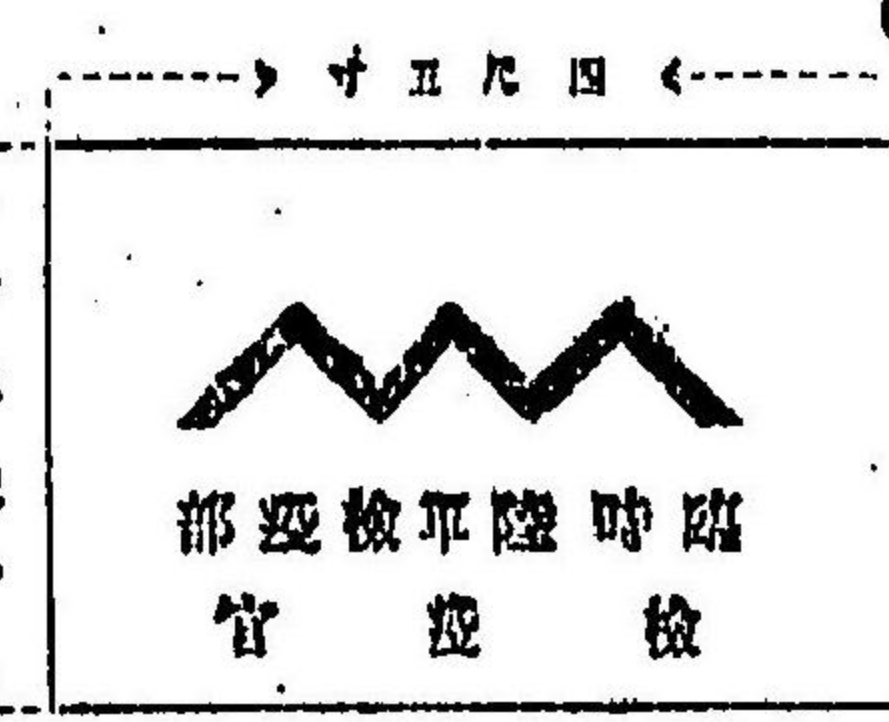
階級	區分		計
	所長	所員	
大(中)尉	一	一	二
大 佐	一	一	二
少佐(大尉)	一	一	二
計	三	三	六

大 尉	一	一	二
大(中)尉	一	一	二
下(判任文官)士	一	一	二
上(判任文官)兵	一	一	二
二等卒	一	一	二
補助輸卒	一	一	二
三等軍醫正	一	一	二
一等軍醫	一	一	二
軍 醫	一	一	二
藥 劑 官	一	一	二
看護長	一	一	二
看護官	一	一	二
看護人	一	一	二
工 工	一	一	二
生 計	一	一	二
計任文官手	一	一	二
電氣技手	一	一	二
機關手	一	一	二
馬卒(備人)	一	一	二
計	三	三	六



電工	火夫	洗滌	斬髮	給仕	小使	計
四	八	六	三	三	六	二六
						二七
						四七
						四七
						八
						八
						八
						八
						八
						八
						八
						六八
						七二
						七
						五八
						九七
						一八
						一五
						六
						一九
						七〇
						九

附録



○陸軍部第二十六號

臨時國民歩兵大隊編成要領ニ依リ陸軍主計ニ代用スル雇員ノ給料ハ月額六十圓以内トス  
 明治三十七年八月七日  
 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍部第二十七號

戰地ヨリ豫備病院ニ還送シタル陸軍軍人軍屬退院後取扱方左ノ通定ム  
 明治二十八年陸軍第十六號ハ之ヲ廢止ス  
 明治三十七年八月九日  
 陸軍大臣寺內正毅

第一條

陸軍軍人軍屬ニシテ戰地ヨリ豫備病院ニ還送一時ノ出張退院ニアラスシテ戰地ニ後退院スル者ハ所屬部隊ノ留守部隊ヲ管轄スル留守師團長又ハ所屬部隊ノ動員編成擔任部隊隊長ニ在リテキハ留ノ長官ニ於テ以下各條ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

第二條

本職ヲ有スル軍人軍屬及現役下士兵卒ハ所屬部隊ノ留守部隊、原所屬部隊又ハ原所屬部隊ノ留守部隊ニ復歸セシメ將校同相當官准士官文官雇員ニ在リテハ其ノ復歸部隊、戰時職務、官氏名ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三條

本職ヲ有セサル現役將校同相當官准士官及文官雇員並豫後備役將校同相當官准士官ハ其ノ本籍師管、戰時職務、官氏名ヲ陸軍大臣ニ報告シ其ノ指示ニ從ヒ區處スヘシ

第四條

豫後備役下士兵卒ハ所屬部隊ノ留守部隊又ハ動員(編成)ヲ擔任シタル部隊ノ隊長ニ在リ

アハ本師所管ノ留守師團ニ編入スヘシ但シ憲兵科ノ者ニ在リテハ憲兵司令官ニ協議シテ適宜ノ長ニ協同シテ適宜ノ留守師團ニ編入スヘシ但シ憲兵科ノ者ニ在リテハ憲兵司令官ニ協議シテ適宜ノ部隊ニ編入シ輜重兵科ノ者ニ在リテハ當該兵科ノ補充隊ニ編入シ補助輸卒隊ノ第一補充兵輜重輸卒ハ一旦其ノ勳員擔任部隊ニ復歸セシメタル後直ニ其ノ召集ヲ解除スヘシ

第五條 第二條ニ依リ復歸シタル軍人軍屬ハ別ニ辭令ヲ用非ス當該部隊ノ定員外トシ又其ノ戰時職務ハ復歸スルト同時ニ自然消滅スルモノトス

第六條 將校同相當官准士官ニ關シテハ第二條及第三條ノ報告ト同時ニ附表様式ニ依リ調査シタル報告ヲ陸軍大臣ニ呈出スヘシ

(報告様式)

**准士官以上退院報告**

姓名	官等	職別	勤務地	勤務	病狀	退院原因
何兵大尉	何	某	某	某	某	某
何兵大尉	何	某	某	某	某	某

年 月 日

陸軍大臣宛

留守師團長 氏 名

(参照)

明治三十七年八月九日

○陸軍部第二十八號

本年勅令第八十三號ニ依リ臨時召集シタル各兵科中少尉ハ其ノ召集部隊ノ缺員アルニ際シテハ別ニ辭令ヲ用非ス當該部隊附ト爲スコトヲ得

前項部隊附トナスヘキ者ハ師團長ニ於テ命課シ其ノ旨陸軍大臣ニ報告スヘシ

明治三十七年八月九日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍部第二十九號

陸軍戰時給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十七年八月十二日

陸軍大臣寺內正毅

第一條第二項ヲ削ル

第二十二條中「休職停職」ヲ削リ末項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

見習士官見習主計見習醫官見習藥劑官見習獸醫官ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者ノ旅費ハ准士官ノ額ニ依ル

第二十五條 本規則第十二條ノ埋葬料ハ戰地ニ於テ死亡シ又ハ戰地ニ在リタル者後送途中若ハ後送後入院院中死亡シタルトキ之ヲ給ス

本規則第十二條ノ埋葬料ヲ給スル雇員備人ハ雇員備人給料支給規則備給表ニ掲クル者トス  
親族ノ願ニ依リ死體ヲ引渡ス場合ニ於テハ棺柩及其ノ覆布ニ要シタル費用ハ埋葬料ノ内ヨリ支  
辨セシム

陸軍ニ於テ埋葬シタルトキ之ニ要セシ諸費ハ埋葬料ノ内ヨリ支辨シ尙殘餘アルトキハ之ヲ其ノ  
親族ニ下付ス但シ埋葬料ヲ給セサル者ヲ埋葬スルトキハ實費トス

第二十五條ノ二 本規則第十三條ノ藥餌ヲ官給スルハ戰時編制ノ各部各隊及時ニ設置セル各部各  
隊ニ屬シタルトキニ於ケル負傷者ハ疾病者ニ限ル但シ平時ニ復スルトキハ平時ノ規定ニ依ル

第二十五條ノ三 本規則第十四條ノ筆紙墨等現品支給ハ同第六條第一項第二項及第四項ノ増給ヲ  
受クル期間トス

附則

第二十五條ノ改正ハ今回戰役ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス

○陸軍第三百三十號

本年陸軍第三百二十七號中左ノ通追加ス

陸軍大臣寺內正毅

明治三十七年八月十九日

第四條中「豫後備役下士兵卒」ノ下ニ「補充兵」ヲ加フ

第七條 第四條ニ依リ部隊ニ編入シタル者ハ同役種ノ待命員ヲ召集シ出戰部隊ノ補充ヲナシ得ル  
間ハ其ノ召集ヲ解除スルコトヲ得但シ補充隊ノ教育其ノ他内地勤務ノ部隊ニ必要ナル者ハ召集  
ヲ解除セス當該部隊ニ編入シ置クヘシ

第八條 前條ニ依リ召集解除ヲナスニハ傷病後ノ衰弱ヲ貽ス者、負傷セシ者、疾病ニ罹リタル者ノ

順序ニ依ルヲ例トス

第九條 戰地ニ在ル部隊ニ補充ヲナスニ方リテハ戰鬪力ニ影響セサル限り未ダ戰地ノ勤務ニ服セ  
サル者ヲ以テスヘシ

○陸軍第三百三十一號

兵器取扱規則中左ノ通改正ス (表中改正略ス)

陸軍大臣寺內正毅

明治三十七年八月二十日

○陸軍第三百三十二號

將校馬匹整理及審査規程別冊ノ通定ム

陸軍大臣寺內正毅

(別冊)

將校馬匹整理及審査規程

第一章 馬匹ノ整理

第一條 戰時將校乘馬取扱規則以下本規第十條ニ依リ編成スル馬匹整理委員ハ左ニ掲クル者ヲ  
以テ組織ス

委員長 現役各兵科上長官

委員 乘馬本分タル現役各兵科士官

委員 現役獸醫部士官

委員 現役經理部士官

委員長ハ各兵科士官ヲ以テ之ニ充テ委員ノ數ハ之ヲ減スルコトヲ得

馬匹整理委員ニハ下士屬若干ヲ附屬ス

第二條 馬匹整理委員ハ各師團又ハ各部隊毎ニ之ヲ設置ス但シ必要ニ應シ數部隊ヲ通シテ一組ヲ置クコトヲ得

第三條 馬匹整理委員ハ本規則ニ依リ點檢又ハ受領スヘキ馬匹ノ集合場及時日ヲ定メ當該部隊長ニ通報スヘシ

第四條 馬匹整理委員ハ將校同相當官ノ乘馬ヲ共ノ戰時馬匹名簿本規則第十一條ニ該當スル馬匹ハ尙乙號馬匹名簿ヲ添ヘト共ニ受領シ點檢ノ後左ノ各號ニ依リ整理スヘシ

一 復員後乘馬本分ノ職ニ在ル者ノ乘馬ハ戰時馬匹名簿馬匹整理名簿附表第二ト共ニ本人ニ交附シ且將校馬匹交付員數表附表第二ヲ關係乘馬委員ニ送附スヘシ

二 本規則第十一條ニ該當スル馬匹ハ戰時馬匹名簿乙號馬匹名簿ト共ニ當該學校ニ送附スヘシ

三 第一號ノ外本規則第十七條ニ依リ乘馬委員ノ管理ニ屬セシムヘキ支給馬ハ戰時馬匹名簿馬匹整理名簿及將校馬匹交付員數表ト共ニ當該乘馬委員ニ交付スヘシ

四 前各號以外ノ馬匹ハ軍用ニ地ニハキモノト否トヲ區分シ馬匹整理名簿ヲ添ヘ共ノ員數ヲ所管長官ニ報告シ所管長官ハ委員ニ命シテ本規則第十九條ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五條 本規則第十五條及第十六條ニ依リ馬匹拂下ヲ願出タル場合ニ於テハ委員長ハ各委員ヲシテ各別ニ評價セシメ共ノ馬匹ノ拂下價格ヲ決定スヘシ

第六條 馬匹整理委員馬匹整理ヲ結了シタルトキハ將校馬匹整理概要附表第三及隊馬補填交換員數表附表第四將校馬匹賣却員數表附表第五ヲ圖製シ整理ノ結果ヲ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二章 馬匹ノ審査

第七條 本規則第二十一條ノ馬匹審査委員ハ陸軍大臣ニ隸シ左ニ掲クル者ヲ以テ組織ス

- 委員長 現役騎砲輜重兵科上長官 一名
- 委員 現役騎砲輜重兵科士官 二名
- 委員 現役獸醫部士官 一名

委員ノ人員ハ必要ニ應シ之ヲ増減スルコトアルヘシ

馬匹審査委員ニハ下士屬若干ヲ附屬ス

第八條 馬匹審査區域ハ概ネ左ノ如シ

- 第一審査區 第二、第七、第八師管
- 第二審査區 第一、第三、第九師管
- 第三審査區 第四、第十、第十一師管
- 第四審査區 第五、第六、第十二師管
- 第五審査區 臺灣

第九條 馬匹審査委員ハ通常一審査區毎ニ之ヲ置ク

第十條 馬匹審査委員ハ馬匹審査ノ場所及時日ヲ定メ各所管長官ニ通報スヘシ

所管長官前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ所管內ノ乘馬委員ヲシテ指定期日前ニ將校馬匹名簿及將校馬匹整理名簿及戰時馬匹名簿ヲ馬匹審査委員ニ送付セシムヘシ

第十一條 馬匹審査委員ハ出場馬匹ト共ノ名簿トヲ對照シテ檢査ノ上左ノ各號ヲ斟酌シテ各個ニ評價シ委員長之ヲ決定ス

一 馬匹ノ現狀

二 戰時勤務ノ長短

三 戰時勤務ノ景況

第十二條 自馬及ヒ支給馬ノ損耗額並ニ減亡額ノ決定ハ左ノ各號ニ依ル

一 自馬ノ損耗額ハ前條ノ決定評價ト本規則第六條ノ評價トノ差額トス

二 自馬ノ減亡額ハ本規則第六條評價ノ全額トス

三 支給馬ノ損耗額及減亡額ハ前條ニ依ル決定評價ノ總額ト本規則第五條ニ依リ委員ノ管理ヲ離レタル馬匹當時ノ價格陸軍乘馬例施行規則第九條ニ依リ差出シタル代金ノ總額トノ差額トシ損耗及減亡ハ之ヲ分別セシム

第十三條 馬匹審査委員ハ損耗額及ヒ減亡額ヲ決定シタルトキハ自馬ニ在リテハ損耗額調定書(附表第六)及減亡額調定書(附表第七)ヲ調製シテ本人ニ支給馬ニ在リテハ損耗及減亡額調定書(附表第八)ヲ當該乘馬委員ニ交付スヘシ

第十四條 馬匹ノ損耗額及減亡額ハ前條ノ調定書ニ依リ其ノ支拂ヲ當該師團經理部ニ請求スヘシ

第十五條 馬匹ノ審査ヲ結了シタルトキハ當該委員長ヨリ成績表(附表第九)ヲ陸軍大臣ニ呈出ス

第十六條 馬匹ノ損耗及減亡額其ノ他本規程ノ施行ニ要スル經費ハ總テ臨時軍事費ノ支辨トス

附則

明治二十八年陸軍部第三十七號馬匹整理委員及審査委員細則ハ之ヲ廢止ス

(附表時ス)

○陸軍部第三十三號

輜重馬具制式申別紙圖面ノ通改正ニ尙ニ輪輜重車馬具野營勒モ之ニ準ス (別紙時ス) 但シ既成ノ勒ニ鋼紐ヲ應用スルニハ左ノ要領ニ據ル

明治三十七年八月二十四日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 索環ヲ以テ圓形環ト鋼紐トヲ連結シ從來ノ紐ヲ使用ス

○海軍省達第百十七號

海軍兵備品會計規程第二十九條中其ノ請求票ヲ添ヘテ八字ヲ削除ス

明治三十七年八月九日

海軍大臣野澤山本權兵衛

○海軍省達第百十八號

海軍戰時給與規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十七年八月十二日

海軍大臣野澤山本權兵衛

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ

規則第二條第二項ノ増修ヲ受クル者公務ニ原因セサル傷痕疾病等ニ因リ、同第六條及第二十條ノ増修ヲ受クル者傷痕疾病等ニ因リ缺勤一週日ヲ超ニルトキハ八日目ヨリ出務ノ前日迄其ノ増修ヲ停止ス但シ雇員備人ニシテ日給ノ者ニ在リテハ給料ノ支給區分ニ依ル

第十一條 戰地若ハ艦船ニ在リテ治療ヲ受クル者ニハ海軍給與令施行細則第百二十六條ノ品種ニ拘ラス適宜ノ滋養品ヲ給與スルコトヲ得

第十三條 海軍給與令第八十條及第八十一條ニ掲グル以外ノ者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者  
ニハ規則第十二條ニ依リ規定若ハ適宜ノ糧食ヲ給與ス

- 一 戰地ニ在ル軍人軍屬
- 二 戰地ニ在ル艦船部隊病院其ノ他ニ於テ使役スル職工人夫等ニシテ食事ヲ自辨スル能ハサル者
- 三 官費治療ヲ受クル者及其ノ他糧食ノ給與ヲ必要ト認ムル者

第十七條 戰地ニ在ル准士官以上、候補生及軍屬ニシテ乘組艦船ノ破壊沈没其ノ他非常ノ災害ニ罹リ被服物品ヲ亡失シタルトキ又ハ毀損シテ使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ准士官以上及候補生ニ在リテハ被服物品又ハ臨時手當ヲ軍屬ニ在リテハ臨時手當ヲ給與スルコトヲ得  
准士官以上及候補生ニ給與スル被服物品ハ左ノ品種ニ限ル

軍服	二箇	夏服	二組	軍帽	一箇
帽日覆	二箇	劍	短長	一箇	一箇
外套	一箇	フラネル袴袴	二箇	シヤツ	二箇
麻襟	二箇	フラネル袴下	二箇	短靴	一組
靴下	二組	手袋	二組		

軍屬ニ給スル臨時手當金額ノ最上限ハ高等文官及委任待遇者並士官ノ身分取扱ヲ受クル者ニ在リテハ百二十圓、判任文官及判任待遇者並下士ノ身分取扱ヲ受クル者ニ在リテハ八十圓、其ノ他ノ者ニ在リテハ四十圓トス

艦船艦長ハ被服物品又ハ臨時手當ノ給與ヲ必要ト認ムルトキハ其ノ事由及品種數量等ヲ詳記シ被服物品ニ在リテハ所屬司令長官ノ許可ヲ受ケ佐世保海軍經理部ニ請求シ臨時手當ニ在リテハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ被服物品ヲ請求スルトキハ其ノ寸法ヲ記載スヘシ  
第十九條 軍人軍屬及其ノ他ノ者死亡シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限り規則第十五條ニ依リ埋葬料ヲ給ス

- 一 戰地ニ於テ死亡シタル者ヲ戰地外ニ埋葬スルトキ
- 二 戰地ニ於テ公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ戰地外ニ移リ死亡シタル者ヲ埋葬スルトキ

第二十條中「左項」ヲ左ノ各號ノ一ニ改ム

第二十五條ノ二中「第十三條」ノ下ニ「第一號第二號」ヲ「第二十條」ノ下ニ「第二號」ヲ加フ

○海軍省達第百十九號

戰時海軍死亡者取扱規則中第七條及第八條ヲ削除ス

明治三十七年八月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第百四十六號戰時海軍死亡者取扱規則(明治二十八年五月二十四日)抄録  
第六條 死體若クハ遺骨遺髪ヲ戰地外ニ於テ處分スルトキハ左ノ諸項ニ依ルヘシ但シ第二條第二項ノ海軍官屬ニ於ケル處分モ亦同シ

一 准士官以上及候補生ノ死體若クハ遺骨ハ其遺族ヲ召喚シ之ヲ引渡スヘシ但シ請求アルトキハ其親戚故舊ニ引渡スコトヲ得

第七條 第六條第一ニ係ル者ノ埋葬費ハ官費支辨ノ限リニアラス  
第八條 海軍生徒下士卒死亡者取扱規則第二十九條ノ場合ニ在テハ同條規定以內ノ費費ヲ下付ス

○海軍省第百二十號

艦營需品經理規程中左ノ通改正ス

明治三十七年八月十三日

海軍大臣 野村權兵衛

第四條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

兵備品會計官吏ハ其ノ保管ノ艦營需品ヲ相互間ニ保管轉換ヲ爲スコトヲ得

第四條ノ二 海軍工廠ニ於テ調辦シ新造艦艇ニ初度備付ヘキ備品ハ其ノ工廠需品庫兵備品會計官吏ニ於テ保管シ其ノ艦艇兵備品取扱主任ニ引渡シ領收票ヲ得テ成規ニ依リ處理スヘシ但シ相當ノ乘員ナキ以前ニ備付ヲ要スルトキハ機裝委員若ハ豫備艦部長ニ引渡シ臨時貸與トシテ整理スヘシ

第十條 艦團其ノ他各部ノ長ハ艦營需品定額表及主管別金額ノ範圍内ニ於テ所要ノ艦營需品ヲ處辨スヘシ但シ第十六條及第十八條ニ依リ購入スルモノハ主管別金額外トス

艦團其ノ他各部ノ長ハ艦營需品定額表ニ増減更訂ノ必要ヲ認メタルトキ又ハ主管別金額増減ノ必要アルトキハ其ノ増減更訂ヲ兵備品出納命令官ヲ經テ海軍工廠長ニ請求スルコトヲ得

第十六條第二項ヲ左ノ通改ム

前項ノ艦營需品ハ兵備品會計規程第二十二條ノ手續ヲ爲サ、ルモノトス

○會計検査院第四號

非常特別稅法ニ依ル歳入徵收額證明規程左ノ通相定ム

明治三十七年八月四日

會計検査院長 法學博士 野村權兵衛

第一條 非常特別稅法ニ依ル歳入徵收額證明ハ明治三十四年五月會計検査院達第二號租稅徵收額證明規程並ニ同第三號海關稅噸稅及稅關雜收入徵收額證明規程ニ定ムルモノ、外此規程ニ據ルヘシ

第二條 地租、營業稅、所得稅、酒稅、砂糖消費稅、醬油稅、取引所稅及鐵區稅ノ増徴ハ租稅徵收額計算書内譯ニ於テ同書式地租ノ例ニ準シ定率ト區分記載スヘシ

第三條 毛織物消費稅及石油消費稅ノ徵收額計算書内譯ハ別記書式ニ據ルヘシ

第四條 輸入稅ノ増徴ハ徵收額計算書備考ニ區分記載スヘシ

第五條 非常特別稅法施行規則第十七條ニ依リ毛織物消費稅及石油消費稅擔保物ノ處分ヲ爲シタルモノアルトキハ租稅徵收額證明規程第七號書式ニ準シ明細書ヲ調製シ徵收額計算書ニ添付スヘシ

第六條 毛織物消費稅及石油消費稅ニ關スル證據書類左ノ如シ

一 検査及査定ニ關スル帳簿但擔保物ヲ提供シタルモノハ其ノ種類肩數ヲ記載セル書類トモ

二 非常特別稅法第九條ニ依リ毛織物ノ價格ヲ評定シ又ハ決定シタルモノアルトキハ其關係書類

三 擔保トシテ提供シタル有價證券ヲ公賣シタルモノアルトキハ其ノ契約書但契約書ナキトキハ其ノ決議書

前項ノ證據書類ハ會計検査院ノ指定ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ

(別記)

毛織物消費稅

摘要	定 額			稅 額	備 考
	課稅高	外國=輸出 又は輸入	製造者ノ自用 ニ付スルモノ		
本年 度 分	圓 角 分	圓 角 分	圓 角 分	圓 角 分	一 石油消費稅ハ本表式ニ準シ記載スルベシ
計					

○陸軍第三百三十四號

雇員傭人給料支給規程關聯給費中「俸手」ヲ加フ

明治三十七年九月二日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第三百三十五號

俸取取細則中左ノ通改正ス

明治三十七年九月五日

陸軍大臣寺內正毅

第十六條中第二號ノ「ヲ削ル」

第十九條別註中第三號ヲ第二號ニ改ム

第二十一條 准士官以上ニハ附表第三號ノ金額ヲ給シ被服ノ補修共ノ他消耗品等ヲ自給ス

下士以下被服ノ補修共ノ他消耗品等ハ附表第三號ノ金額以內ヲ以テ實費支辨トス

附表第二號及第四號ヲ削リ附表第三號ヲ附表第二號トス

(附表第三號)

被服補修及消耗品定額表

名	稱	月	額
將官	同 相當者	二 拾 五	圓
上長官	同 相當者	拾	圓
士官	同 相當者	六	圓
准士官	同 相當者	五	圓



下士	同	相當者	一
兵卒	等	五	拾
			錢

(參照)

陸軍第九十七號ノ二俸取取扱細則(明治三十七年五月十五日)抄録

第十六條 俸給ニ給スヘキ糧食ハ附表第一號ノ金額以内ニ於テ第二號ノ現品ヲ支給シ進士官以上ニ在リテハ當該從率レハ  
名入等平ヲシテ炊爨セシメ下士官等ニ在リテハ數名ヲ一班トシテ自炊セシムルヲ例トス

第十九條 俸給中進士官以上ニハ各人ニ履襪、毛布、洗面器類ヲ貸與シ下士官等ニハ毛布又ハ蒲團等及數名ニツキ一組ノ  
洗面器類ヲ貸與スルコトヲ得

被服ハ水入著裝ノモノヲ使用セシメ其ノ使用ニ堪ヘサルモノハ進士官以上ニアリテハ新品購置ニ下士官等ニハ古品  
ヲ貸與ス但シ下士官等ト雖必要已ムラ得サルトキハ新品購置ニツキ貸與スルコトヲ得

第二十一條 被服ノ修理其ノ他消耗品等ハ附表第四號ノ金額以内ヲ以テ貸費支辨スヘシ

○陸軍部第三十六號

陸軍武官進級令第四條及陸軍豫備後備武官進級令第五條ニ依リ自今士官以下ノ進級停年ヲ其ノ年  
ニ減スルコトニ定メラル

明治三十七年九月八日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍部第三十七號

本年勅令第二百一號ニ依リ經理部士官及豫備後備兵下士ノ補充ヲ爲スコトヲ得

明治三十七年九月八日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍部第三十八號

戰時編制臨時編制ノ部隊ニ屬スル下士増給給與規程左ノ通定ム

明治三十七年九月九日

陸軍大臣寺內正毅

戰時編制臨時編制ノ部隊ニ屬スル下士増給給與規程

第一條 本規程ハ戰時編制臨時編制ノ各部隊ニ屬スル下士ノ増給給與ヲ規定スルモノトス

第二條 本規程ニ明文ナキモノハ陸軍武官増給給與規程ヲ適用ス

第三條 營外居住ノ職ニ在ル下士ニシテ營内居住ノ職ニシテ上級ノ給料ヲ受ケタルト  
キハ別ニ辭令ヲ用非ス該給料ヲ給ス

第四條 戰時編制臨時編制ノ部隊ニ屬スル下士増給給與區分  
各部隊ニ屬スル下士ノ増給給與區分  
各部隊ニ屬スル下士ノ増給給與區分  
各部隊ニ屬スル下士ノ増給給與區分

一 各兵科曹長、軍曹、伍長ニシテ大本營其ノ他各部附ニ在リテハ  
ニ在リテハ各隊毎ニ各兵科各官ニ分ツ

二 樂手、縫(靴)工長、砲兵諸工長、計手、(二)三等看護長、(二)三等蹄鐵工長ニ在リテハ大本營  
部、各隊毎ニ

三 一等看護長ニ在リテハ陸軍大臣直屬部、大本營直屬部隊、軍司令部直屬部隊及師團毎ニ通算  
ス但シ特別給ハ大本營直屬部隊、軍司令部直屬部隊及師團毎ニ通算シ甲額乙額各二名トシ

陸軍大臣直屬部ヲ通シテ甲額乙額各一名トス  
四 一等蹄鐵工長ニ在リテハ全部隊ヲ通算ス但シ特別給ハ甲額乙額各二十名トス

第五條 増給給與ヲ命スルハ左ノ各號ニ據ル

一 各兵科隊附下士ニ在リテハ當該隊長之ヲ命シ隊外ノ下士ニ在リテハ當該隊長官ニ於テス

二 經理部衛生部下士ニ在リテハ大本營直屬部隊附ハ大本營野戰經理長官又ハ同衛生長官、軍  
司令部、兵站監部、師團直屬ノ各部隊附ハ當該經理部長又ハ當該軍醫部長、陸軍大臣直屬部附  
ハ陸軍省經理局長又ハ醫務局長ニ於テス

三 各兵一隊隨工長ニ在リテハ陸軍省軍務局長ニ於テス

第六條 戰時ニ際シ清國駐屯軍諸部隊附經理部下士ニ在リテハ駐屯軍司令部附高級主計正、同衛  
生部下士ニ在リテハ駐屯軍病院長ニ於テ該諸部隊ヲ通シ増給給與ヲ命スヘシ

○陸軍部百三十九號

俘虜勞務規則左ノ通定ス

明治三十七年九月十日

陸軍大臣寺內正毅

俘虜勞務規則

第一條 俘虜ハ其ノ身分、階級及技能ニ應シ官衙、公衙團體又ハ個人ノ爲ニスル勞務ニ之ヲ使役ス  
ルコトヲ得但シ准士官以上ニ在リテハ本人ノ任意ニ依ルノ外之ヲ使役スルコトヲ得ス

第二條 前條ノ外俘虜ニ對シテハ自己ノ爲ニスル勞務ヲ許可スルコトヲ得

第三條 俘虜ノ勞務ハ過度ナルヘカラス且其ノ本國軍隊若ハ社會ニ於ケル地位ヲ辱メス又本國ニ  
對スル作戦動作ニ直接關係ヲ有セザルモノニ限ル

第四條 俘虜ヲ俘虜收容所外ニ於テ使役スル場合ニ於テハ俘虜取調規則第六條ニ依ルノ外所要ノ  
取締法ヲ設ケ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 官衙、公衙、團體又ハ個人ニレテ俘虜ヲ使役セムトスルトキハ衛戍司令官ニ於テ其ノ勞務  
ノ種類、場所、時間及賃銀等ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ官衙ニ於テ使役スル場合ノ賃  
銀ハ下士同相當者ハ一日七錢兵卒ハ一日四錢トス

第六條 俘虜ノ賃銀及第二條ニ依ル勞務ノ收益ハ衛戍司令官ニ於テ俘虜收容所出納官吏ヲシテ之  
ヲ保管セシムヘシ但シ官衙ヨリ交付スル賃銀以外ノモノニ在リテハ俘虜給養費用ノ補償トシテ

豫メ其ノ一部ヲ國庫ニ納入スルモノトス其ノ納入額ハ必要ニ應シ之ヲ指定ス

第七條 前條ノ保管金ハ各俘虜ニ區別シテ帳簿ニ記入シ衛戍司令官ノ命令ニ依リ其ノ出納ヲ爲ス  
モノトス

第八條 第六條ニ依リ出納官吏ニ於テ保管スル金錢ハ各俘虜ノ所得トシ該俘虜ニ嗜好品ノ交付其  
ノ他俘虜ノ境遇ノ艱苦ヲ輕減スル費用ニ充テ尙剩餘アルトキハ衛戍司令官ノ見込ニ依リ勞務者  
ニ自由使用ヲ許シ若ハ本人歸國ノ際之ヲ交付スルモノトス

○陸軍部百四十號

戰地ヨリ還送ニ係ル被服品ノ消毒方左ノ通定メ明治三十七年九月十五日ヨリ施行ス

明治三十七年九月十一日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 戰地ヨリ還送ニ係ル被服品戰利品及患者ト共ニ後ハ似島及大里ニ於ケル臨時陸軍檢疫部  
本部出張所ニ於テ消毒ヲ行フ

第二條 被服品ハ其ノ種類ニ依リ蒸氣又ハ藥物消毒ニ付ス

第三條 碇泊場司令部(出張所)ハ第一條ノ物件ヲ臨時陸軍檢疫部本部出張所ニ送付スヘシ

第四條 臨時陸軍檢疫部本部出張所ニ於テ前條物件ノ消毒ヲ終リタル後患者ト共ニ後送シタル被  
服品ハ最寄兵站基地司令部、患者用被服品ニシテ再ヒ戰地ヘ送付ヲ要スルモノハ最寄碇泊場  
司令部(出張所)ヘ共ノ他ハ最寄貨物廠(支廠)ニ交付スヘシ

第五條 臨時陸軍檢疫部本部出張所ニ於テ消毒ノ爲物件ノ開包ヲ爲シタルトキハ調査ノ上品目員  
數表ヲ作り消毒ヲ終リタル後該表ニ照シテ假摺包ヲ爲スヘシ

○陸軍部第四十一號

俘虜情報局事務取扱規程中左ノ通改正ス

陸軍大臣寺內正毅

明治三十七年九月十二日

第九條中陸軍大臣ノ認可ヲ得テヲ削ル

第十條 平和回復シタルトキ銘銘票ハ對手國政府ニ送付シ其ノ原本ハ他ノ書類ト共ニ之ヲ陸軍省ニ保管スルモノトス

第十一條 俘虜情報局ニ於テ敵國ニ俘虜ト爲リタル者ニ關スル通報ヲ受ケタルトキハ其ノ氏名身分階級等ヲ確メ之ヲ公示シ又關係官衙公衙個人等ノ請求ニ應ジ其ノ狀況ヲ之ニ通知スヘシ

第十二條 俘虜情報局ニ於テ前條俘虜ノ遺言書遺留品等ヲ受領シ又ハ同俘虜ニ對スル信書若ハ寄贈金錢物品ノ發送ニ關スル依頼ヲ受ケタルトキハ相當ノ方法ニ依リ關係者ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 俘虜情報局ハ俘虜及敵國ニ俘虜ト爲リタル者ニ關スル事項ノ調査及執務ノ狀況ヲ毎月陸軍省ニ報告スヘシ

俘虜銘票  
FICHE INDIVIDUELLE

年 齡 AGE	身 分 階 級 GRADE	氏 名 Nom 姓 Prénom
------------	------------------	---------------------------

(表)

國 籍 NATIONALITE	所屬部隊 CORPS	備 考 OBSERVATIONS
捕獲 Date	場所 Lieu	
收容 INTERNE		
死 TUE		
傷 BLESSÉ		

(裏)

〔參照〕

陸軍部第四十四號陸軍部事務取扱規程(明治三十七年二月二十七日)抄録  
第九條 陸軍部事務取扱規程ニシテ其ノ受領スルモノハ陸軍部事務取扱規程ニ於テ其ノ檢査ヲ爲シ  
支障ナシト認メタルモノニ限リ之ヲ受領シ陸軍大臣ノ認可ヲ得テ適宜存貯スベシ  
第十條 平和回信シタルト申領シタルハ其ノ一半ヲ存貯スルモノハ其ノ他ノ書類ハ之ヲ陸軍省  
ニ保管スルモノトス

○陸軍部第四十二號

陸軍戰時給與規則細則中左ノ通り改正ス

明治三十七年九月十四日

陸軍大臣寺內正毅

第十八條第五項中「又ハ」以下ヲ「又ハ」職務午後六時以後ニ及フトキハ陸軍旅費規則第四表ノ定額ニ  
依リ食料ヲ給ス但レ糧食又ハ旅費ヲ給スルモノニハ之ヲ給セス」ニ改ム

○陸軍部第四十三號

陸軍兵卒進級規則中左ノ通り改正ス

明治三十七年九月十六日

陸軍大臣寺內正毅

第九條中「充實召集又ハ補充召集」ヲ「戰時又ハ事變ニ際シ召集」ニ改ム  
第九條ノ二 第一國民兵役ニ在ル者ハ召集ノ際第一國民兵役ニ移リタル當時ノ等級ト爲シ其ノ進  
級ニ關シテハ第九條ヲ準用ス  
第十一條 本規則ニ於テ聯隊長、中隊長トアルハ聯隊又ハ中隊ヲ爲ササル部隊ニ在リテハ各之ニ  
準スヘキ諸官ニ該當ス

〔參照〕

陸軍部第三號陸軍兵卒進級規則(明治三十六年十二月一日)抄録  
第九條 充實召集又ハ補充召集ニ關シタル陸軍部事務取扱規程ニシテ召集後約六箇月ヲ過シ後等ナル者ハ一等卒ニ同一等  
卒ニシテ召集後約十箇月ヲ過シ後等ナル者ハ所屬ニ應ジ上等兵ニ進級セシムルコトヲ得  
第十一條 本規則ニ於テ聯隊長トアルハ聯隊立大隊ニ在リテハ聯隊長ニ該當ス

○陸軍部第四十四號

陸軍軍人傷演疾病等差中第二項ヲ左ノ通り改正ス

明治三十七年九月十六日

陸軍大臣寺內正毅

第二項 一等症ハ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルモノ  
一 戰闘ノ爲傷演ヲ受ケタルモノ  
二 公務ノ爲傷演ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノ  
三 戰地ニ於テ若ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルモノ  
四 以上各項ノ傷演疾病一旦治癒ノ後再發シタルモノ

〔參照〕

陸軍部第十一號(明治二十二年七月九日)抄録  
陸軍軍人ノ傷演疾病ニハ其ノ傷演疾病ノ原因ニ因テ左ノ通り差ヲ定ム  
第二項 一等症ハ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルモノ  
一 戰闘及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷演ヲ受ケタルモノ  
二 戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシ  
テ疾病ニ罹リ若クハ疾病ヲ惹ケタルモノ  
三 以上各項ノ傷演疾病一旦治癒ノ後再發シタルモノ

○陸軍部第四十五號

陸軍運輸部支那支那所管運葛窟出張所ハ本年九月三十日限り廢止ス

明治三十七年九月十九日

陸軍大臣寺內正毅